

平成29年度

大学院生による授業評価結果報告書
(後期分)

鳴門教育大学 大学院学校教育研究科

頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
5	広領域科目	30040000	数学と芸術、そして科学間の接点を探る	佐伯 昭彦, 胸組 虎胤, 金児 正史, 齋藤 大輔
6	広領域科目	30041100	伝統文化（音楽・美術）における表現の思想	栗原 慶, 遠藤 綾子
7	広領域科目	30042100	子どもの規範意識の現状と課題	曾根 直人, 金野 誠志
8	広領域科目	30046000	教師のための声とからだのことば	頃安 利秀, 綿引 勝美, 余郷 裕次
9	広領域科目	30047000	学校危機管理研究	阪根 健二, 竹内 和雄
10	広領域科目	30049000	予防教育科学	内田 香奈子
11	人間形成	30114000	教育哲学演習	木内 陽一
12	人間形成	30115000	教育認知心理学演習	皆川 直凡
13	人間形成	30117000	発達健康心理学演習	山崎 勝之
14	臨床心理士養成	30434000	臨床心理査定演習Ⅱ	葛西 真記子, 今田 雄三
15	臨床心理士養成	30443000	心理療法研究	古川 洋和
16	臨床心理士養成	30445000	臨床心理面接研究Ⅰ	中津 郁子
17	臨床心理士養成	30447000	学校精神保健学演習	今田 雄三
18	臨床心理士養成	30451000	臨床心理学統計法	古川 洋和
19	幼年発達支援	30514000	幼年期福祉演習	木村 直子
20	幼年発達支援	30519000	幼年発達心理演習	田村 隆宏
21	幼年発達支援	30523000	幼年期教育学演習	湯地 宏樹
22	幼年発達支援	30525000	幼年発達と幼児教育内容論演習	塩路 晶子
23	現代教育課題総合	30631200	現代総合学習論	谷村 千絵
24	現代教育課題総合	30634000	現代教育人間論	太田 直也, 谷村 千絵, 田村 和之, 近森 憲助
25	現代教育課題総合	30644200	人間とコミュニケーションⅠ（基礎研究）	谷村 千絵, 金野 誠志
26	現代教育課題総合	30645200	人間とコミュニケーションⅡ（実践研究A）	金野 誠志
27	現代教育課題総合	30648200	人間と環境Ⅰ（基礎研究）	田村 和之
28	現代教育課題総合	30650200	人間と環境Ⅲ（実践研究B）	田村 和之, 近森 憲助
29	現代教育課題総合	30657100	現代教育課題特論	小西 正雄
30	特別支援教育専攻	31151000	特別支援教育コーディネーター実践論	井上 とも子
31	特別支援教育専攻	31152000	社会資源開発運用・連携論	井上 とも子

頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
32	特別支援教育専攻	31162000	特別支援教育課程特論演習	高橋 眞琴
33	特別支援教育専攻	31163000	特別支援教育指導特論演習	大谷 博俊
34	特別支援教育専攻	31165000	特別支援教育臨床支援技法演習	高原 光恵
35	特別支援教育専攻	31169000	発達障害児支援医学演習	伊藤 弘道
36	特別支援教育専攻	31170000	発達障害児神経学演習	田中 淳一
37	言語系	32139000	日本事情・日本文化	田中 大輝
38	言語系	32142000	日本語Ⅲ	田中 大輝
39	言語系	32143000	日本語Ⅳ	妹尾 春子
40	言語系	32145000	日本古典語演習	原 卓志
41	言語系	32151000	日本文学演習Ⅱ	小島 明子
42	言語系	32157000	日本語教育学演習	廣田 知子
43	言語系	32160000	日本語文法演習	田中 大輝
44	言語系	32162000	日本語語彙論	田中 大輝
45	言語系	32176000	国語科授業演習	幾田 伸司
46	言語系	32180000	国語科教材開発演習	余郷 裕次
47	言語系	32184000	日本語教育法演習	廣田 知子
48	言語系	32217000	英米文化研究Ⅲ（言語文化研究）	宮崎 隆義
49	言語系	32219000	英米文学応用演習Ⅰ	前田 一平
50	言語系	32221000	学習英文法演習Ⅰ	眞野 美穂
51	言語系	32222000	学習英文法演習Ⅱ	藪下 克彦
52	言語系	32232000	小学校英語内容構成論	畑江 美佳
53	言語系	32285000	初等中等英語科教育演習Ⅰ	石濱 博之
54	言語系	32286000	初等中等英語科教育演習Ⅱ	山森 直人
55	言語系	32293000	教科内容構成（英語科）	藪下 克彦, 前田 一平, 眞野 美穂
56	社会系	33158200	歴史学演習Ⅰ	長谷川 賢二
57	社会系	33158400	歴史学演習Ⅱ	町田 哲
58	社会系	33158600	歴史学演習Ⅲ	原田 昌博

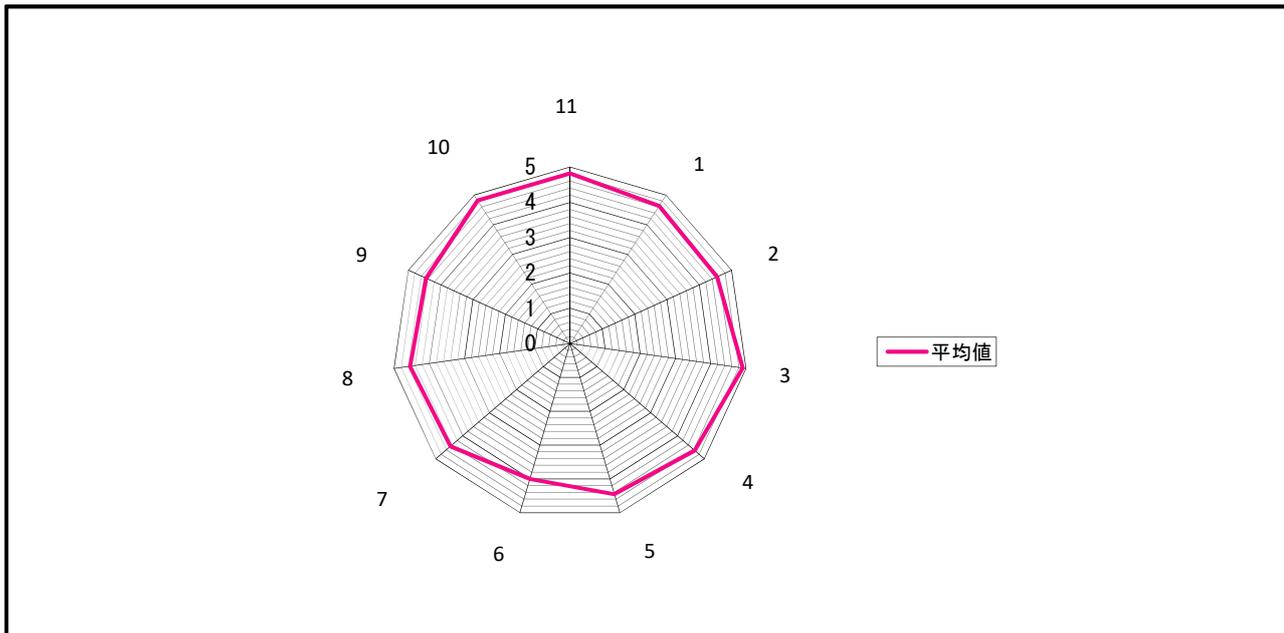
頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
59	社会系	33158700	地理学研究 I	畠山 輝雄
60	社会系	33159400	法学・政治学演習	麻生 多聞
61	社会系	33177000	現代の諸課題と社会認識教育	井上 奈穂
62	社会系	33178000	社会科教材開発演習 I (地理領域)	伊藤 直之
63	社会系	33179000	社会科教材開発演習 II (歴史領域)	梅津 正美
64	自然系	34126000	代数学演習	平野 康之
65	自然系	34127000	幾何学研究	松岡 隆
66	自然系	34128000	幾何学演習	松岡 隆
67	自然系	34129000	解析学研究	成川 公昭
68	自然系	34130000	解析学演習	成川 公昭
69	自然系	34173000	数学科教育学演習	秋田 美代
70	自然系	34174000	数学科授業研究	早田 透
71	自然系	34176000	数学科教材開発演習	佐伯 昭彦
73	自然系	34232000	地学実験法特論	村田 守
74	自然系	34272000	理科授業研究	早藤 幸隆, 寺島 幸生, 佐藤 勝幸
75	自然系	34293000	教科内容構成 (理科)	粟田 高明, 胸組 虎胤, 佐藤 勝幸, 村田 守
76	芸術系	35114000	歌唱表現演習	頃安 利秀
77	芸術系	35127000	室内楽 (器楽)	森 正, 山根 秀憲
78	芸術系	35132000	作曲法基礎演習	松岡 貴史
79	芸術系	35133000	音楽文化比較研究	山田 啓明
80	芸術系	35176000	声楽アンサンブル	真鍋 美恵
81	芸術系	35193000	教科内容構成 (音楽科)	頃安 利秀, 森 正, 山田 啓明, 山根 秀憲
82	芸術系	35212000	油画制作演習	鈴木 久人
83	芸術系	35214000	版画制作演習	鈴木 良治
84	芸術系	35215000	彫刻制作研究	野崎 窮

頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
85	芸術系	35218000	デザイン制作研究	内藤 隆
86	芸術系	35220000	映像デザイン演習	内藤 隆
87	芸術系	35221000	工芸制作研究	栗原 慶
88	芸術系	35224000	総合造形研究	高橋 耕平
89	生活・健康系	36125000	スポーツ・トレーニング研究	南 隆尚
90	生活・健康系	36130000	学校保健学演習	吉本 佐雅子
91	生活・健康系	36212100	情報技術演習	菊地 章
92	生活・健康系	36225000	画像情報処理研究	伊藤 陽介
93	生活・健康系	36228000	デジタル制御研究	菊地 章
94	生活・健康系	36230000	コンピュータ科学演習	宮本 賢治
95	生活・健康系	36316000	衣生活学演習	福井 典代
96	生活・健康系	36372000	家庭科教育学演習	速水 多佳子
97	国際教育	37135000	国際教育協力特論Ⅱ	小澤 大成,近森 憲助
98	国際教育	37182000	国際理解教育特論Ⅱ	小澤 大成,近森 憲助
99	国際教育	37183000	国際理解教育演習	小澤 大成,近森 憲助
100	国際教育	37185000	国際教育総合セミナーⅡ	石村 雅雄,小澤 大成,石坂 広樹, 近森 憲助

結果報告書

授業科目名 数学と芸術、そして科学間の接点を探る
 評価実施日 平成30年1月16日
 担当教員名 佐伯 昭彦, 胸組 虎胤, 金児 正史, 齋藤 大輔 回答者数 11 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7	4				4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	3	1			4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	10	1				4.9
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	7	4				4.6
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6	4	1			4.5
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	3	6	1	1		4.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	6	4	1			4.5
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	6	5				4.5
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6	4	1			4.5
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	2				4.8
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	9	2				4.8



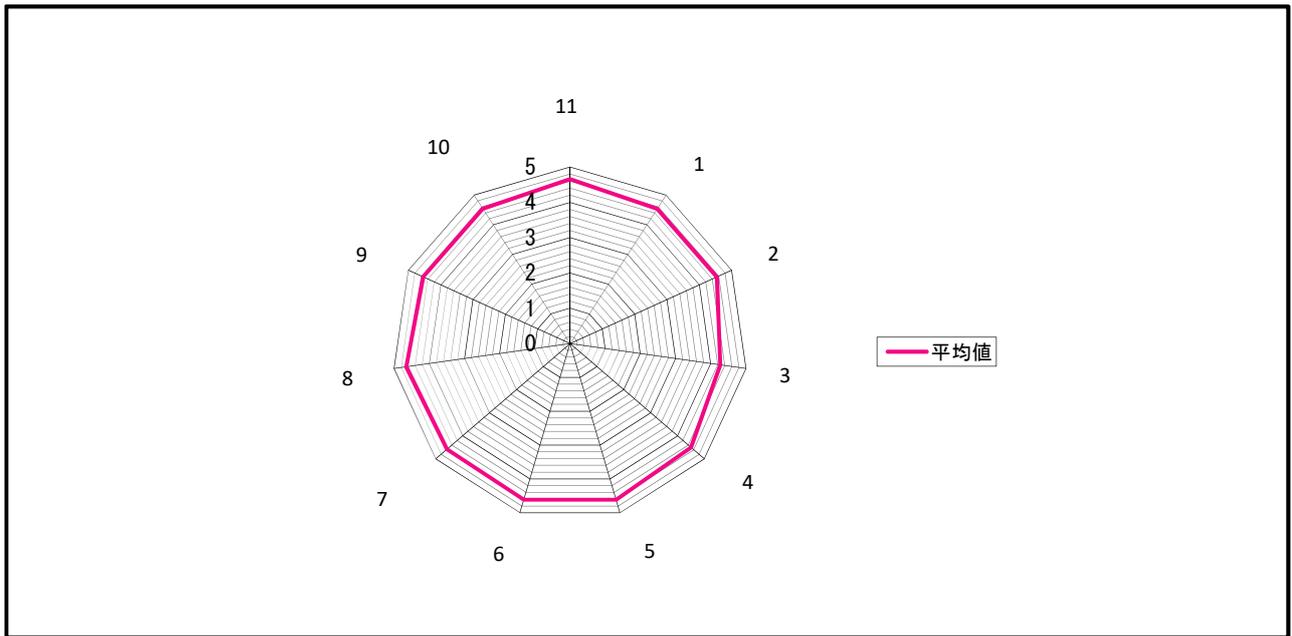
教員のコメント

アンケート回答者11名に対して、全ての質問項目が4点台の評価で、総合評価は4.8であった。本授業は、芸術を通して数学や科学を眺めたり、数学や科学を通して芸術を眺めたりすることを通して、数学、芸術、そして科学間の接点を探り、教科領域を超えた幅広い知識を基にした教材開発と思考方法を高め、他者により良く伝えるサイエンス・コミュニケーターとしての力量を高めることを目的とした。授業の大半が学生の主体的活動を取り入れたアクティブ・ラーニングであったため、質問項目(3)「教師の実践力の育成につながる内容であった」が一番高い評価「4.9」を得ることができ、自由記述においてもSTEAM教育や教科横断型の授業への関心・意欲が高まった内容の記述が見うけられた。また、質問項目(10)「授業に主体的・積極的に取り組んだ」が次に高い評価「4.8」を得ることができ、自由記述においても学生達が主体的・積極的に取り組んだ記述が見受けられた。学生達が徳島県立近代美術館で説明した内容は、来場者のアンケートから推測すると非常に高かったことが明らかであった。これは、担当した教員がそれぞれ独自の授業用資料を作成したのみならず、支援して頂いた徳島県立近代美術館からも貴重な資料を豊富に提供して頂いたからである。以上のことから、本授業は学生達の教材開発や指導法の質向上に繋がった内容であり、本授業の目標は達成できたと思う。

結果報告書

授業科目名 伝統文化(音楽・美術)における表現の思想
 評価実施日 平成30年2月13日
 担当教員名 栗原 慶,遠藤 綾子 回答者数 26 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	18	5	2	1		4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	18	4	4			4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	14	6	5	1		4.3
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブラーニングが、実施されていた。	17	5	4			4.5
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	17	8	1			4.6
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	20	2	4			4.6
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	19	3	4			4.6
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	20	4	1	1		4.7
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	17	6	3			4.5
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	18	5	2	1		4.5
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	19	5	2			4.7



教員のコメント

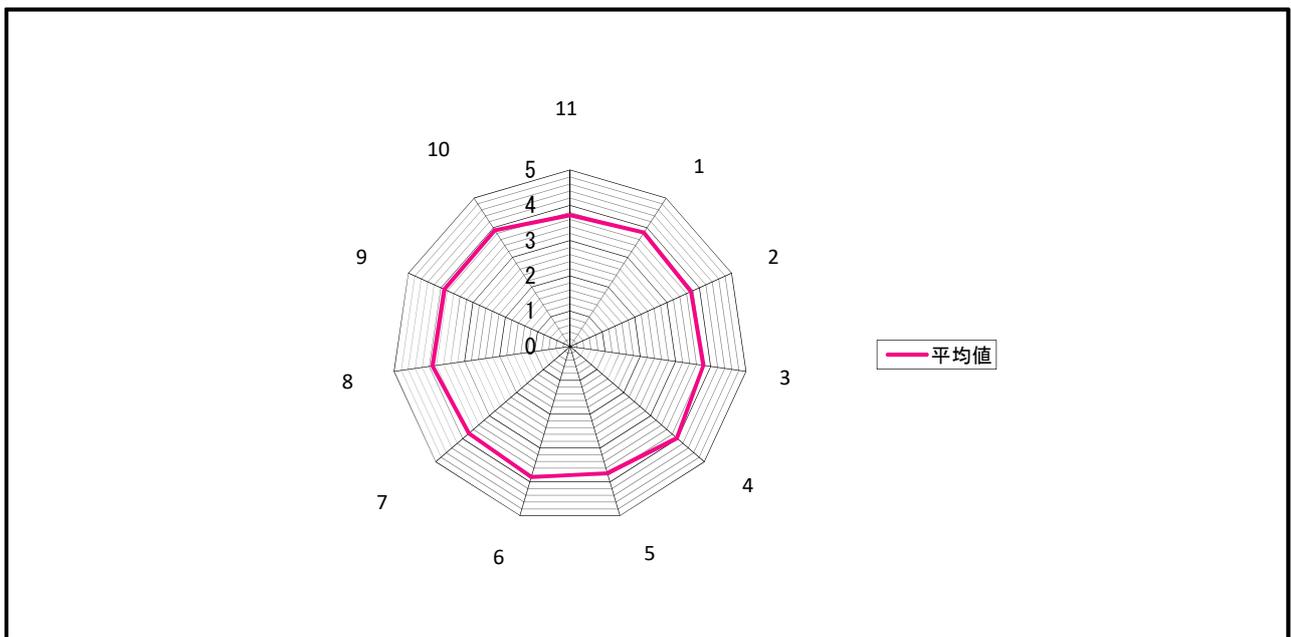
総合評価が4.7であるので概ね学生からの評価は得られていると考える。アンケート裏面に書かれていた指摘で、美術に関しては、スライド写真の色の改善、制作時間増加の要望、音楽に関してはレポート締め切り日の告知時期を早くして欲しいという要望が一つずつあったが、それ以外の指摘はなかった。(1)(3)(8)(10)の項目で2の評価があったが、裏面に理由が書かれていないので原因を判断することが難しい。音楽、美術とも技法体験の都度、教室移動をすることで慌ただしい印象を持ったかもしれないが、シラバス設定や設備との関係からやむを得ない面があるので、学生全体との意思疎通をしっかりと図りながら充足感の向上を図りたい。

結果報告書

授業科目名 子どもの規範意識の現状と課題
 評価実施日 平成30年2月6日
 担当教員名 曾根 直人, 金野 誠志 回答者数 43 人

3.1

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	10	21	7	5		3.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	12	15	11	3	2	3.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	15	13	7	7	1	3.8
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	13	19	9	1	1	4.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	11	16	11	4	1	3.7
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	11	18	11	3		3.9
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	10	18	10	5		3.8
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	13	16	12	1	1	3.9
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	13	16	11	2	1	3.9
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	11	19	11	2		3.9
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	10	17	10	6		3.7



教員のコメント

授業の評価は、全ての項目について平均値は3.7を越えており、一定の評価を得られたと考える。
 また、グループ活動について、積極的に参加したことを評価する人が多かった。

曾根の担当した情報倫理関連では、普段から利用するアプリやサービスについて世代による違いがあり、受講者の理解や関心に差が出たと考えられる。

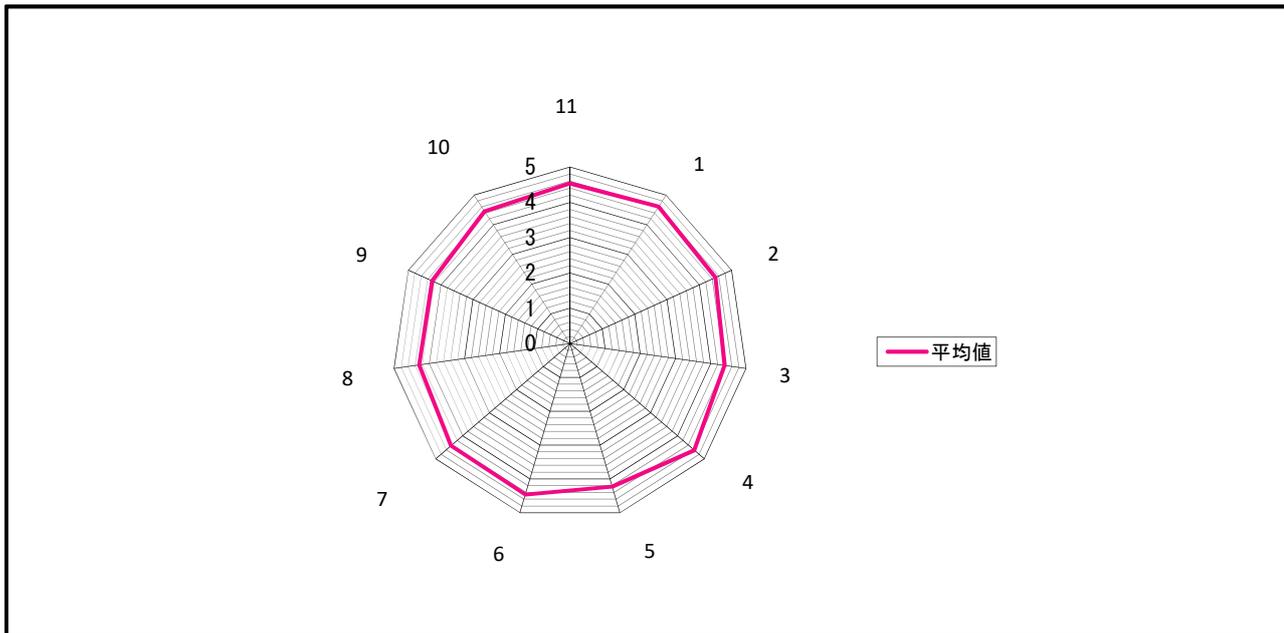
金野の担当した道徳教育関係では、受講者のレディネスやニーズの多様性に応えようと、ワークショップ型などの参加型を多用した主体的な学習を進めた点は、よかったと考える。ただし、その方法についても、もっと多用して欲しいと考える受講者と、減らして欲しいと考える受講者とがあり、選択必修で多人数の授業であるということからすると、全ての受講者の要望を同様に満たすことはある面、むずかしいともいえる。この多様性を生かした授業は、継続していきたい。

自由記述のコメントでは、
 ・スライドの文字が見えない
 ・資料を配布して欲しい
 という声があった。部屋のスクリーンが小さいため、教室の変更なども考える必要がある。
 また資料の配布は紙資源のことも考えるとオンラインでのPDFとしたい。Livecampusでは添付できるファイルのサイズが小さく問題があったが、新に利用できるようになったOffice 365のサービスを利用した配布を検討したい。

結果報告書

授業科目名 教師のための声とからだことば
 評価実施日 平成30年2月6日
 担当教員名 頃安 利秀, 綿引 勝美, 余郷 裕次 回答者数 56 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	35	20	1			4.6
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	32	20	4			4.5
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	31	18	5	2		4.4
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	37	17	2			4.6
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	25	21	8	2		4.2
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	30	22	4			4.5
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	32	17	6	1		4.4
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	31	13	9	3		4.3
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	29	17	6	4		4.3
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	30	21	5			4.4
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	36	15	4	1		4.5



教員のコメント

この授業は国語、音楽、体育と異なるコースに所属する3人の教員によって行われるもので、そして授業名にあるように、「声」と「からだ」と「ことば」に視点を置いた教師としての授業力の向上を目指している授業である。授業の内容は理論と実践を同時に行うものとなっている。この授業では、単なる知識ということではなく、教師の声やからだのあり方や使い方について理解し、自ら実践できるようになり、それを教師としての授業力につなげていくことを目標にしている。

講義を中心とした一般的な授業形式のものではないので、成績評価に関して各教員によって異なる部分があることは否めない。しかし授業の進め方については、各教員とも、できるだけ受講生個々に対応しようとしており、かなり良い総合評価(4.5)がなされていると考える。また授業に関する資料、板書、また視聴覚機器の使用等に関しては、各教員により夫々異なっており、評価が分かれるところでもあるが、授業概要では適切にこの授業の内容を表現(4.6)できていた。またアクティブラーニングの実施についても高い評価(4.6)であった。

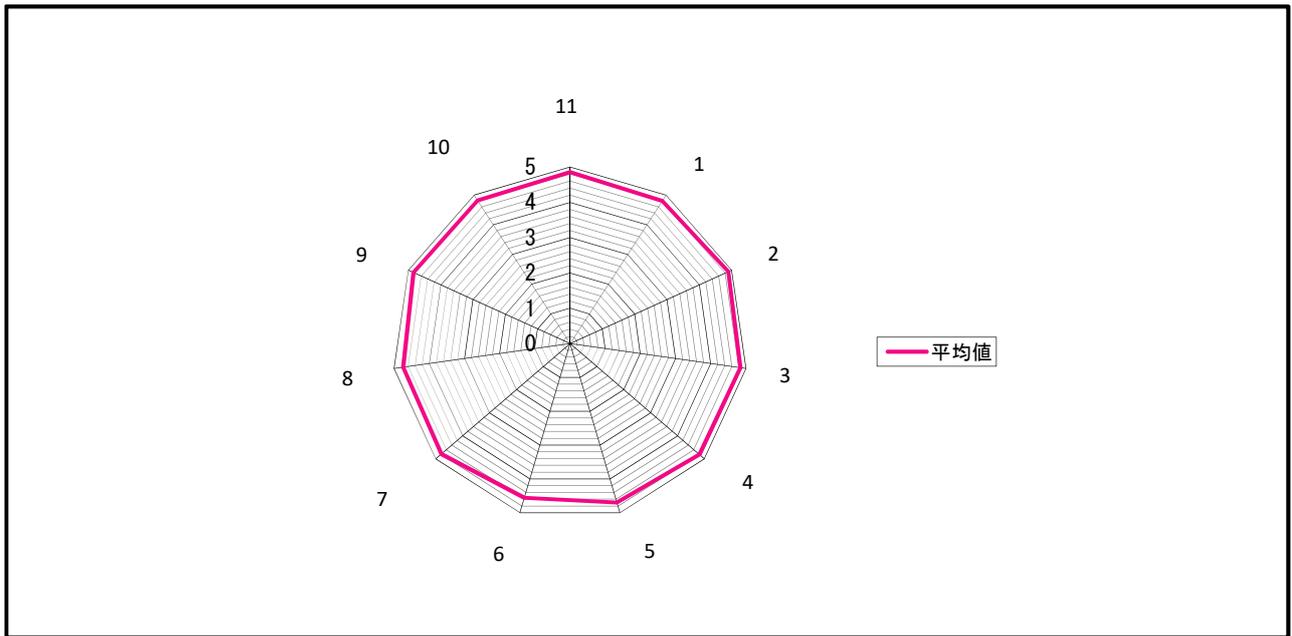
この授業でよかったと思われる点については、「教師の実践力につながることを学ぶことができた。」また「自分の声とからだことばに向き合うことができた。」との記述があり、教師としての実践力をつけるために、身体論に基づく授業内容の必要性が肯定的に評価されている。

今後も教師としての身体のあり方について、声とからだことばから追究する実践的な授業を心がけていきたい。

結果報告書

授業科目名 学校危機管理研究
 評価実施日 平成29年12月26日
 担当教員名 阪根 健二、竹内 和雄 回答者数 50 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	40	10					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	46	3	1				4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	43	6	1				4.8
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	42	7	1				4.8
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	39	8	2	1			4.7
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	32	15	2	1			4.6
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	41	7	2				4.8
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	38	11	1				4.7
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	43	6	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	41	9					4.8
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	43	5	1				4.9



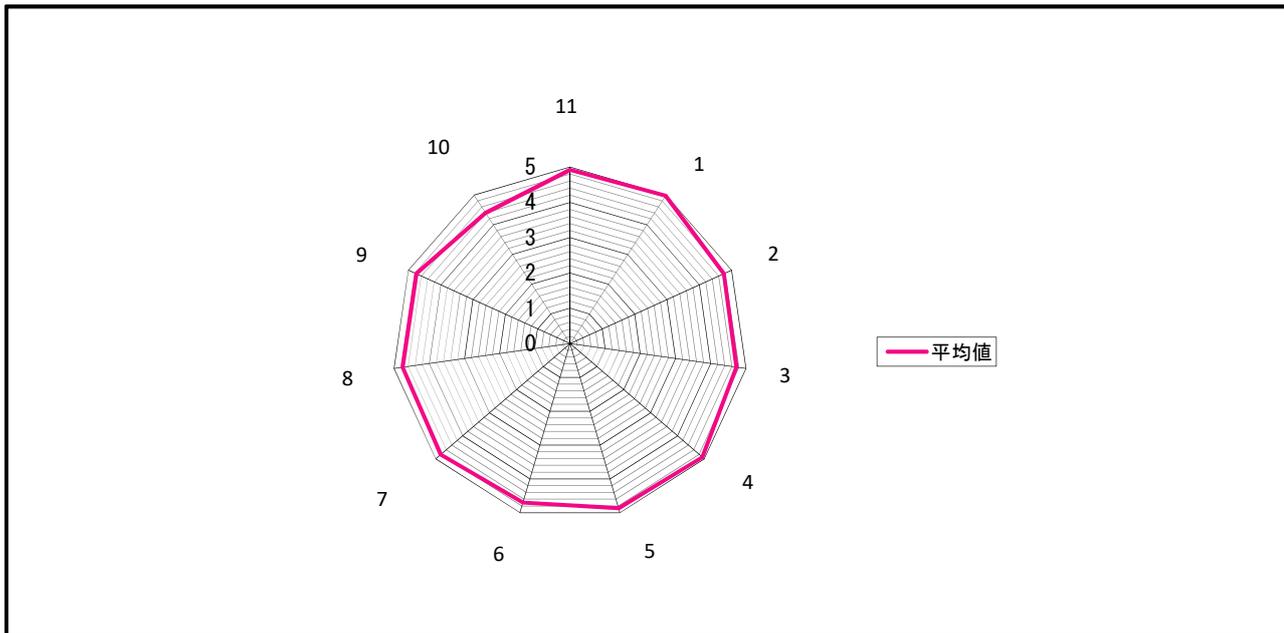
教員のコメント

非常に高い授業評価を得たことから、当初の目的が十分に達成できたものと思われる。本授業は集中講義であり、非常勤講師との共同開講であるため、一連の流れと役割を特に意識した。阪根が危機管理の基本を担当し、竹内氏がネット問題に特化して行ったことが、受講生には好評で、分かりやすく専門的な内容の取得が可能であったものと思われる。ただ、授業進度に戸惑いがあったり、評価手法に気がかりであったりした受講者もいたが、最終的に少数にとどまったことで、配慮は十分に伝わったように思われる。なお、今回は演習を多く取り入れ、今日的な問題をテーマを主としたが、次年度も引き続き、今回の方法を取り入れていきたい。

結果報告書

授業科目名 予防教育科学
 評価実施日 平成30年1月31日
 担当教員名 内田 香奈子 回答者数 37 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	36	1					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	29	7	1				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	28	8	1				4.7
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	34	3					4.9
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	33	3	1				4.9
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	28	7	2				4.7
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	31	5	1				4.8
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	28	9					4.8
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	30	5	2				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	16	17	2				4.4
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	34	3					4.9



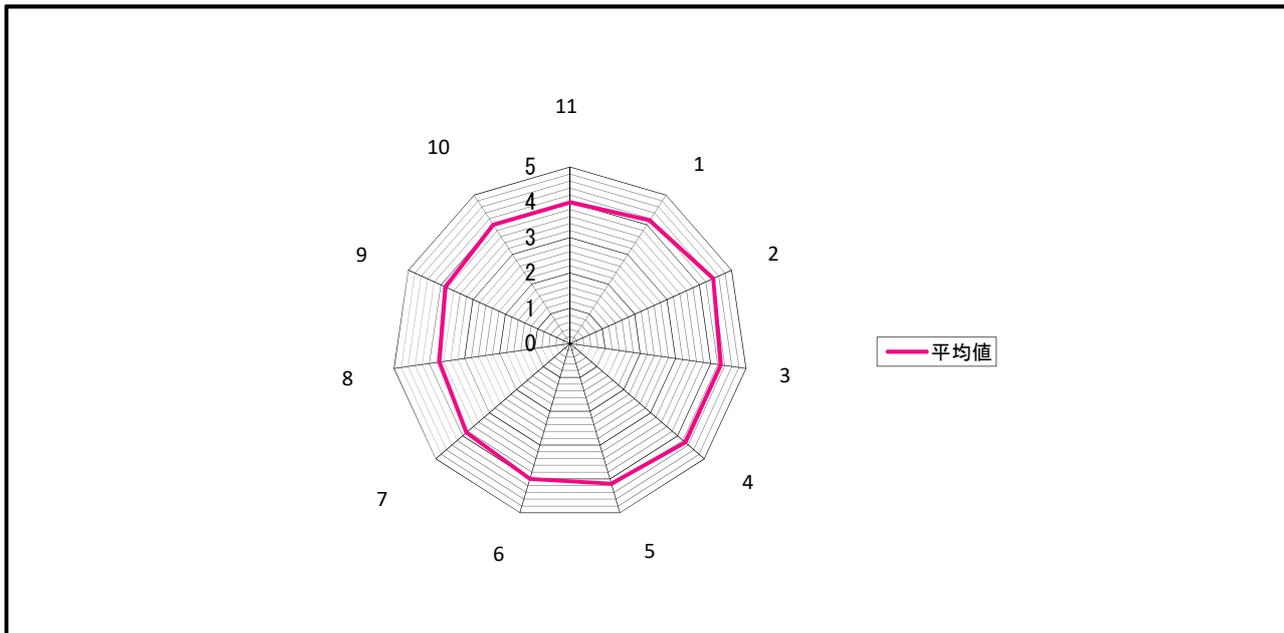
教員のコメント

総合評価は今回4.9となり、昨年度よりも高い数値を得ることが出来た。昨年度は(2)専門的知識を深める点、(3)教師の実践力の育成につながる点、(5)成績評価の方法に関する得点が、他と比べ相対的に低かった。そこで、(2)については、心理学を専門とする学生向けの知識をより織り交ぜる形で、(3)については、教育現場での活用方法や、担当教員が現場で授業をする際に留意したことを講義内容により織り交ぜる形で実施した。また、(5)については、ガイダンスのときのみならず、授業時においても機会があれば説明するようにした。その結果、いずれの項目もポイントが上昇した。他の項目についてもポイントが上昇しているものが多かったのは、昨年に引き続き、学生との交互作用の機会を多く持つように心がけたことが影響していると推察する。ただし、(7)の授業の進行速度については、昨年度から上昇はみられなかった。これは、たとえば(2)への対策として、心理学の専門的な知識をより織り交ぜる形を取った結果、専門外の学生にとっては授業の進行が速いと感じられたのではないかと予測する。今後もより模索しながら進めたい。

結果報告書

授業科目名 教育哲学演習
 評価実施日 平成30年2月8日
 担当教員名 木内 陽一 回答者数 7 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	4	1				4.1
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	2	1				4.4
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	1	2				4.3
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	3	3	1				4.3
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	2	2				4.1
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	2	3	2				4.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	1	4	2				3.9
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	1	3	3				3.7
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	2	3				3.9
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	2	2				4.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	2	2				4.0



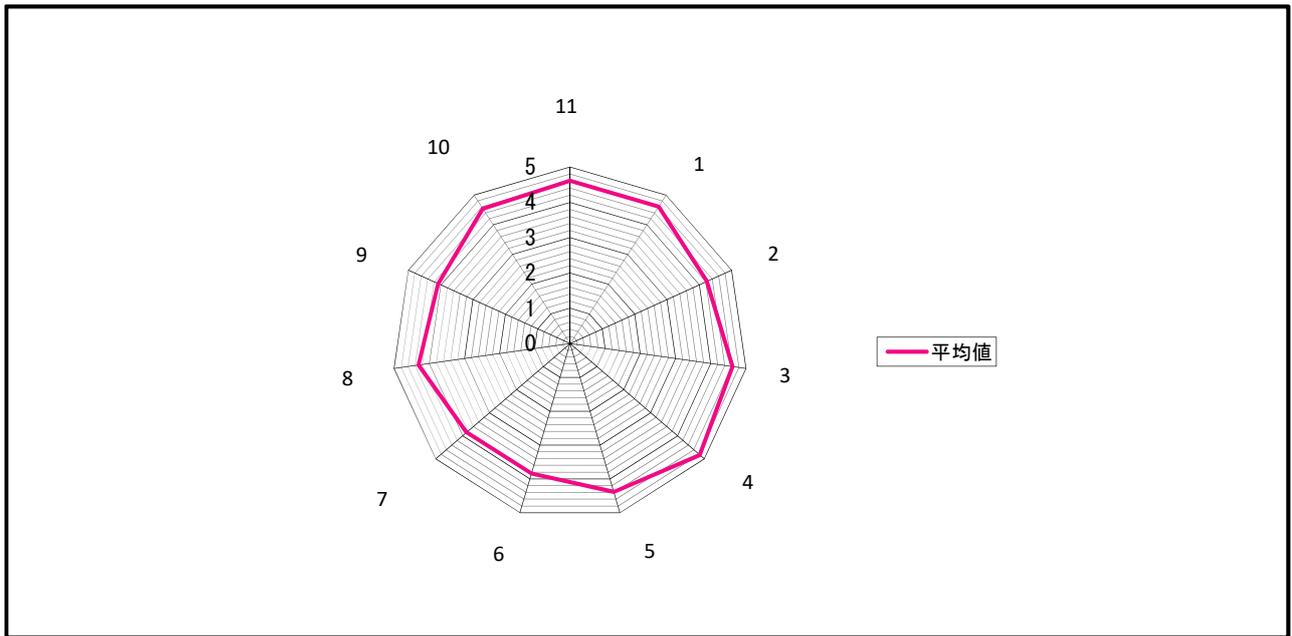
教員のコメント

本演習では、基礎となるテキストにリュウ・デイカー・ザフランスキー著『ロマン主義—あるドイツ的な事件』(2010年、法政大学出版局)の後半部分を使用し、19世紀の教育思想史の基礎を検討することを主眼とした。著者のザフランスキーは、学生時代、ベルリンの毛沢東派のグループに属していた人物で、1968年の大学紛争時代から、独自の視点からの研究を行ってきた人物である。こうした、ある意味でアカデミズムから抜け出した視点を検討したいという願いを持ちつつ、同時に、18世紀の啓蒙主義に対する19世紀のロマン主義のあり方を検討する、という二つの視点から本書の読解に取り組んだ。端的に言えば、受講生にドイツ思想史の基礎知識を持っているものが少なく、もう少し突っ込んだ議論が出来るとなお良かったと思う。受講生の評価を見ても、授業内容について比較的よい評価が見られるのは、授業で意図していることは、伝わっているからだと思う。それに対して、授業の進め方の評価が低いのは、もちろん担当者の力不足があることは認めるが、受講生の基礎知識のあり方に、大いに疑問を感じる場面が多々あった。もし高校時代に「世界史」を履修していないとすれば、担当教員がいかに努力しようとも、本演習を大学院レベルに引き上げることは難しいと思う。総合評価にばらつきがみられるのは、受講生の基礎知識の差が大きく、それが授業内容の理解に反映されているからだろうと思う。さらにわかりやすい授業を展開できるように努力したいと思う。

結果報告書

授業科目名 発達健康心理学演習
 評価実施日 平成30年2月13日
 担当教員名 山崎 勝之 回答者数 13 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	8	5					4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	5	1	1			4.2
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8	5					4.6
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	10	2					4.8
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	8	3	1	1			4.4
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	1	10	1	1			3.8
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	3	7	1	2			3.8
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	7	3	3				4.3
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	6	3				4.1
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	6					4.5
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	8	5					4.6



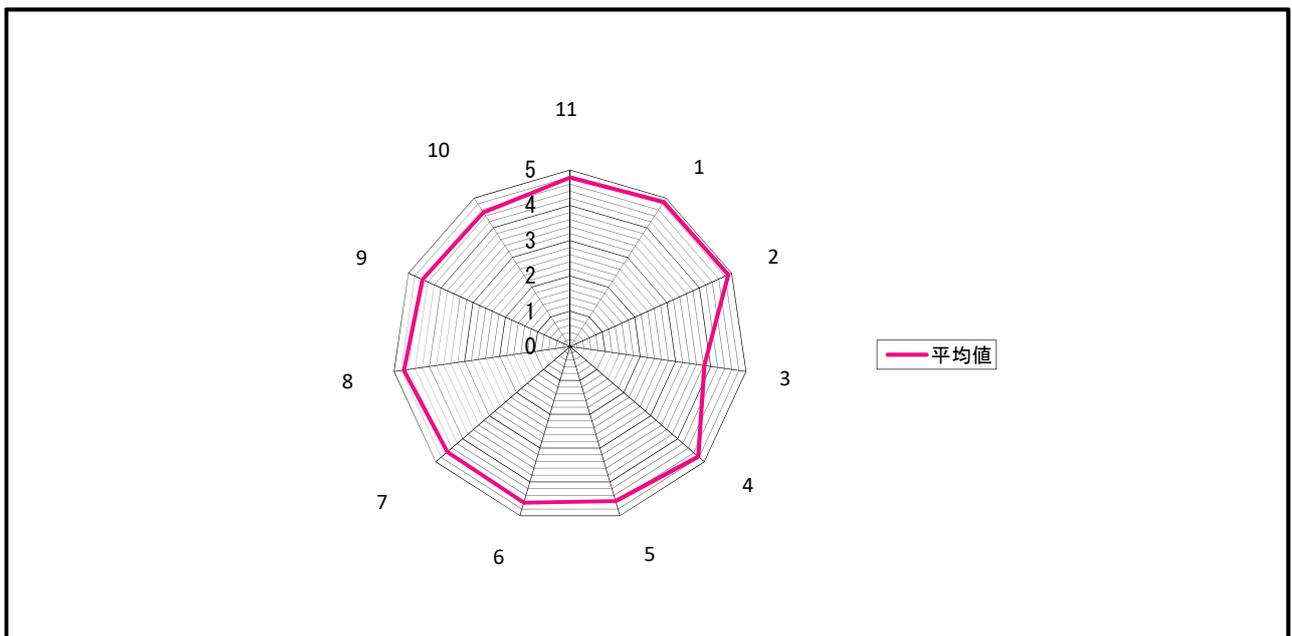
教員のコメント

今年度の総合評価は4.6であったが、例年よりも少し低くなった。個別の評価を見ると、進む速さと理解度がともに評価が低かった。昨年度まで順調に進めていたので、今年は授業の水準を上げたことがその原因であったのかもしれない。演習であることから、授業者の主導性が強すぎる運営ではなく、受講生のニーズをよく把握し、その状況に柔軟に対応する授業内容や運営であるべきだと感じた。まさに、授業は生きもので、同じやり方でも出来映えは変動する。これは、学校クラスでの授業と同じであろう。再度このことに留意した授業としたい。この授業の根本的な育成能力としては、独創的な思考・考察力とそこからの知見の発信・公表力を設定している。これらの力の育成は大学院の授業では最も重要な教育目標の1つであり、この点をさらに重視し、その育成方法としての授業の在り方を発展させたい。

結果報告書

授業科目名 臨床心理査定演習Ⅱ
 評価実施日 平成30年2月21日
 担当教員名 葛西 真記子, 今田 雄三 回答者数 39 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	37	1			1	4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	38				1	4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	18	2	10	6	1	3.8
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	31	7	1			4.8
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	26	11	1		1	4.6
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	28	9	1		1	4.6
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	28	8	1	1	1	4.6
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	32	5	1		1	4.7
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	29	6	2	1	1	4.6
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	24	11	4			4.5
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	33	4			1	4.8



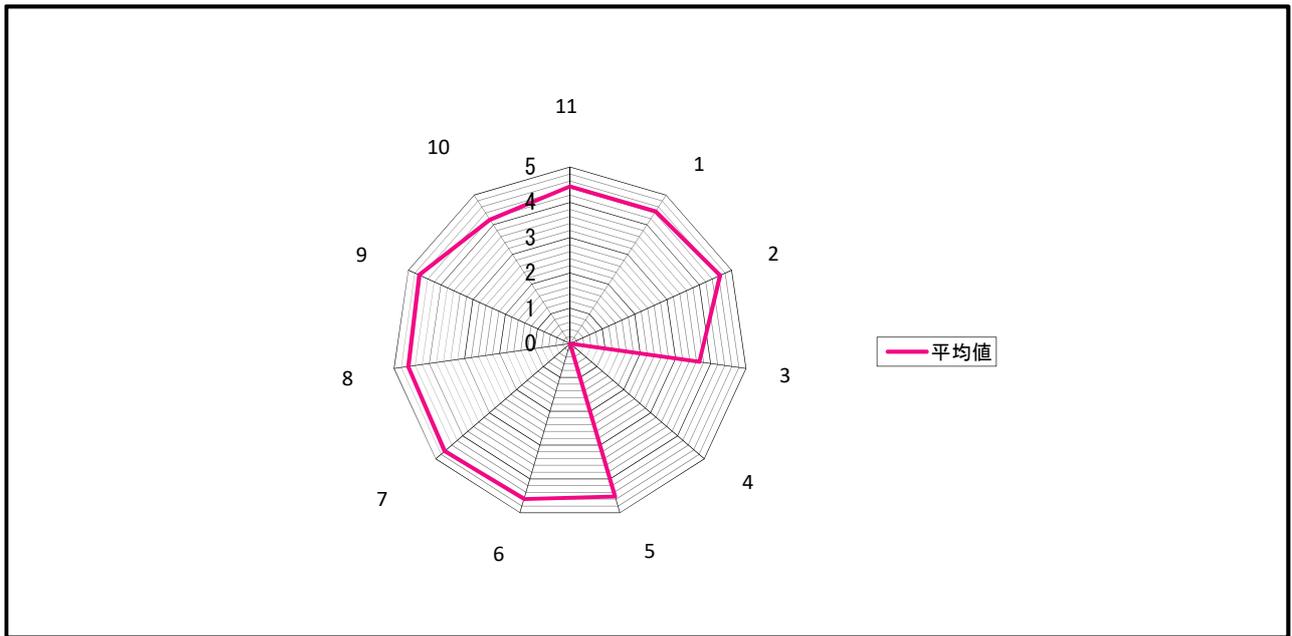
教員のコメント

Jの項目については、評価が低い。今回も3.8と他の項目と比べると低い評価となっている。本演習は臨床心理学の分野の投影法であるロールシャッハテストが臨床心理士として実践でき、分析できる能力を身に付けるものである。学校現場において教員がこのテストを実施することはなく、病院等の専門機関で施行されたテスト結果について参照する程度である。本演習の目的としていないことであるので、評価が低くなっても仕方がないと思われる。また、それ以外で低い項目は、受講生が主体的に本演習に参加したかどうかである。この点については、授業の中で宿題、自習の内容を提示したものの、自主的に行わなかった者がいるということであるので、今度、さらに学生が積極的に学習できるような工夫が必要であると考え。コメント欄については、グループで学習しこと、学習したことを発表したことが、積極的な学習につながっていたという内容や、実際にロールシャッハテストを実施し、その内容を分析・解釈したことによって、より実践的であったという感想が多かった。改善すべき点としては、PCの不具合が多かったという点である。また、グループでのまとめを発表することによる学習であるため、格差が出る点や、小テストを行ったことに対する不満もあった。しかし、小テストはシラバスにも確認テストとして明記してあり、受講生の確認不足であると思われる。授業の初めにも説明してあるが、それについてもきいていなかったのではないと思われる。

結果報告書

授業科目名 心理療法研究
 評価実施日 平成30年2月2日
 担当教員名 古川 洋和 回答者数 42 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	29	8	1	3	1	4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	32	7	2		1	4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	14	10	9	3	4	3.7
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。						#####
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	32	6	1		3	4.5
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	32	6	2	1	1	4.6
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	32	8	1		1	4.7
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	30	9	2		1	4.6
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	33	6	2		1	4.7
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	18	16	6	1	1	4.2
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	27	10	3	1	1	4.5



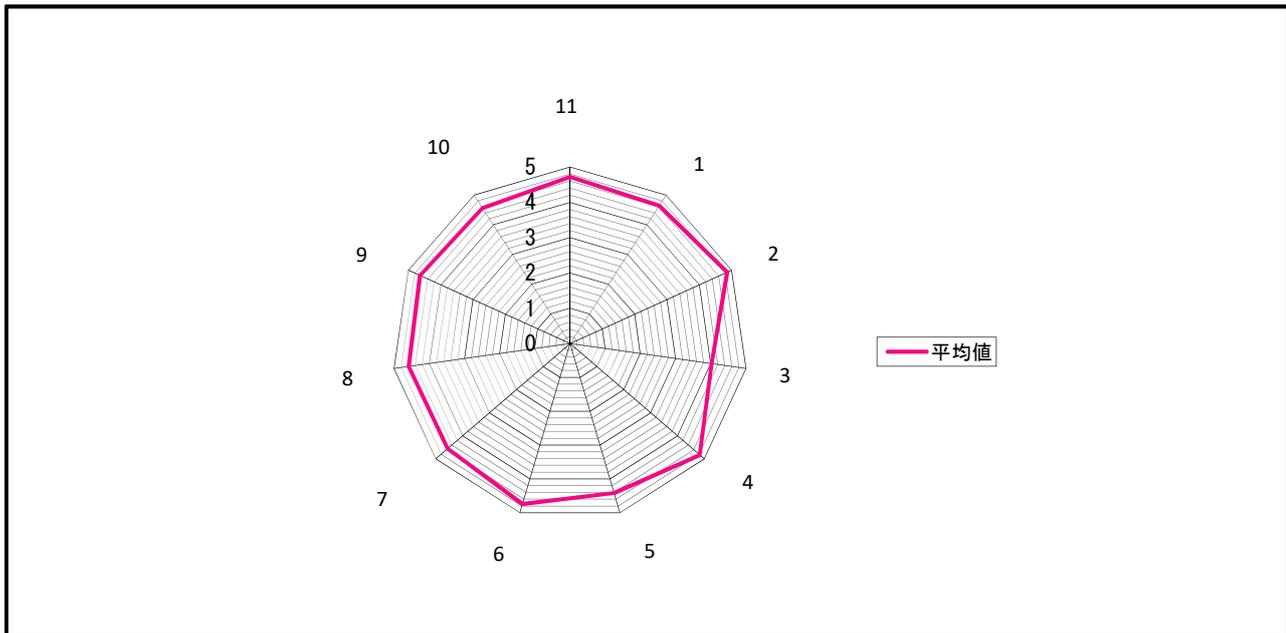
教員のコメント

総合評価の平均値は「4.8」であり、大学院生からの高い評価が得られたと考えられる。平成30年度は当該科目の最終開講年度となるものの、本年度と同様の講義形態ならびに講義内容にて本講義を実施する。

結果報告書

授業科目名 臨床心理面接研究 I
 評価実施日 平成30年2月13日
 担当教員名 中津 郁子 回答者数 36 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	26	7	3			4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	32	3	1			4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	17	5	9	2	1	4.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブラーニングが、実施されていた。	32	2	2			4.8
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	21	11	2	2		4.4
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	28	5	2			4.7
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	25	7	3	1		4.6
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	26	6	3	1		4.6
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	26	8	1	1		4.6
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	24	8	4			4.6
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	28	6	2			4.7

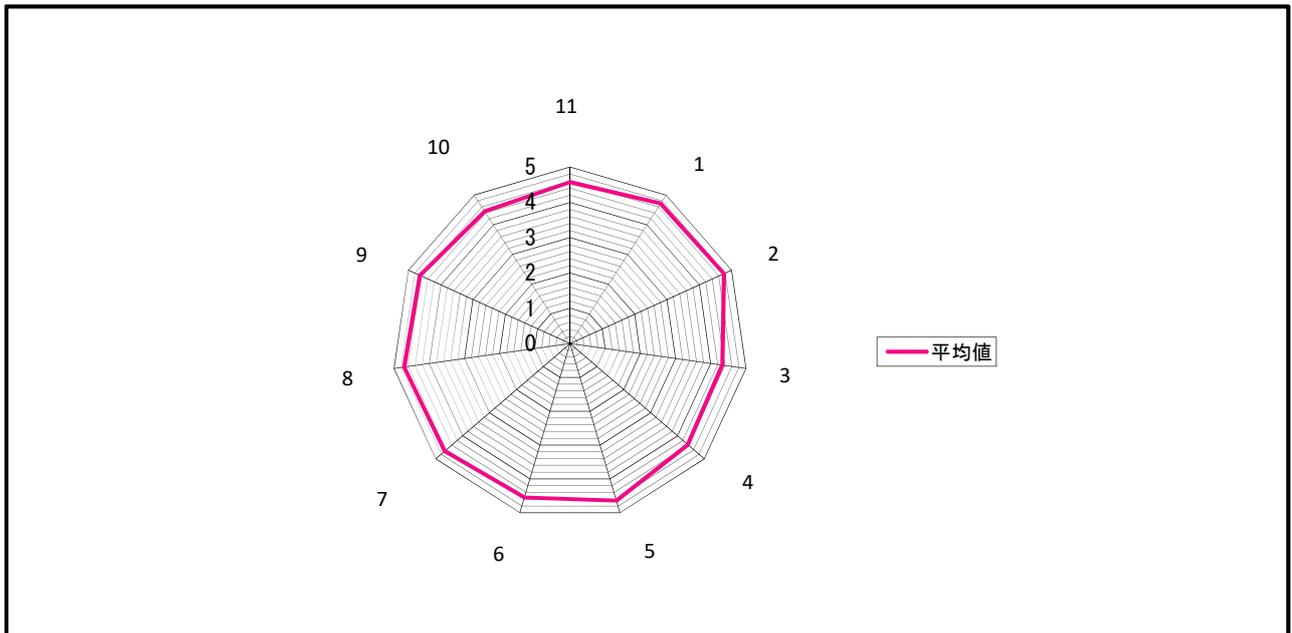


教員のコメント

結果報告書

授業科目名 臨床心理学統計法
 評価実施日 平成30年2月8日
 担当教員名 古川 洋和 回答者数 42 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	34	6	1		1	4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	37	3		1	1	4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	25	8	4	1	2	4.3
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	29	4	4	3	1	4.4
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	35	3	2		2	4.6
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	30	8	2	1	1	4.5
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	34	4	3		1	4.7
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	35	4	2		1	4.7
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	32	7	2		1	4.6
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	25	13	3		1	4.5
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	33	4	2	2	1	4.6



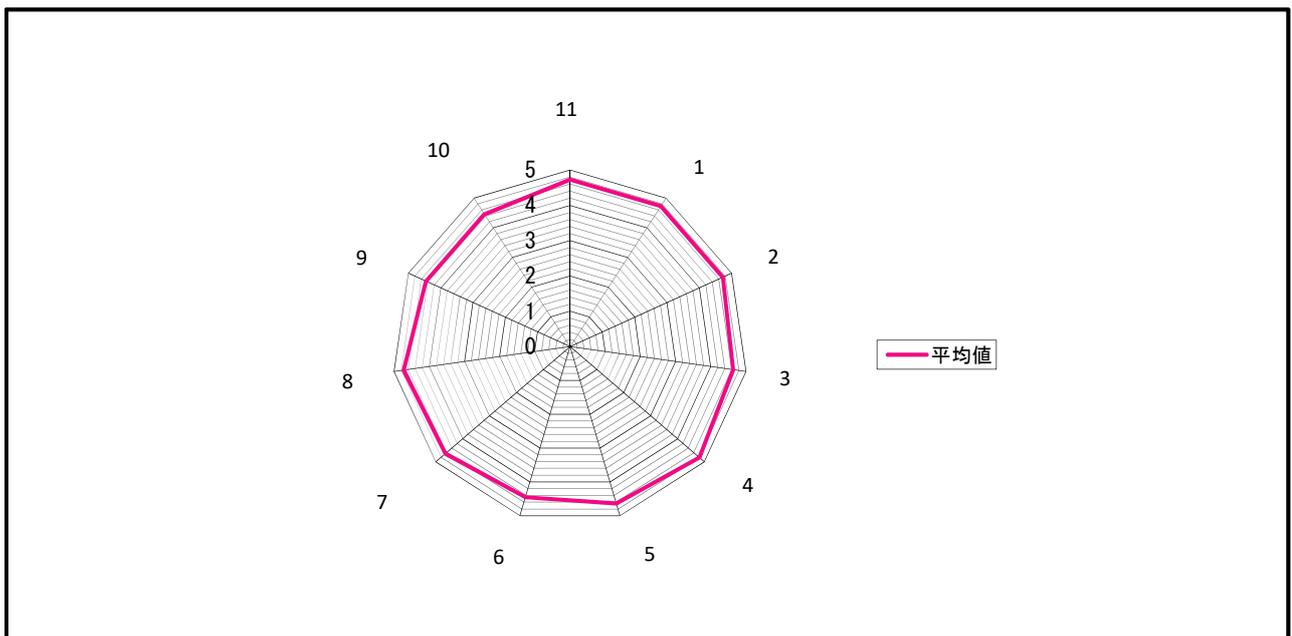
教員のコメント

総合評価の平均値は「4.6」であり、大学院生からの高い評価が得られたと考えられ、受講者にとって有益な内容を提供できていると考えられる。したがって、次年度以降においても本年度と同様の講義形態ならびに講義内容にて本講義を実施する。一方、学部で統計学を履修済かそうでないかによって基礎知識に大きな差が生じたまま授業を開始しなければならないため、どのような内容にするかは公認心理師カリキュラムが開始されたと同時に考える必要がある。

結果報告書

授業科目名 幼年期福祉演習
 評価実施日 平成29年12月21日
 担当教員名 木村 直子 回答者数 11 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	8	3					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	3					4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8	2	1				4.6
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブラーニングが、実施されていた。	9	2					4.8
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	7	4					4.6
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	5	6					4.5
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	7	4					4.6
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	8	3					4.7
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6	4	1				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	6					4.5
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	8	3					4.7



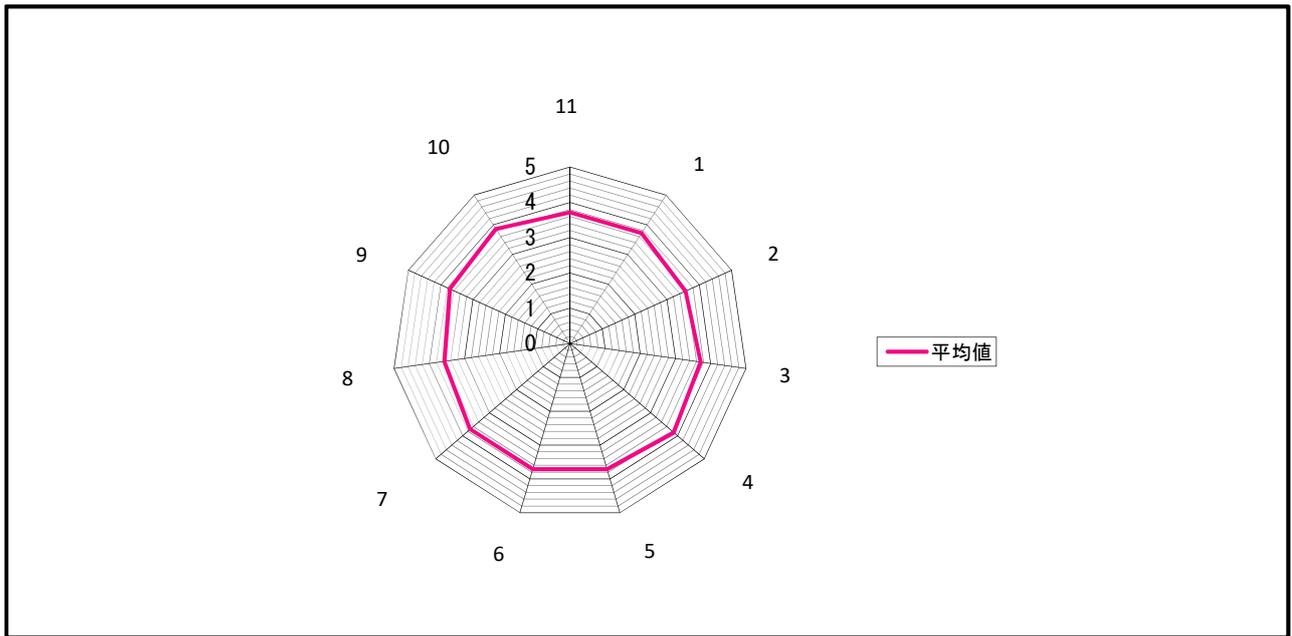
教員のコメント

今年度は自身の健康上の問題で、集中講義で変則的な授業を行うこととなった。その中でも、さまざまなコースの院生に受講していただいた。集中講義形式の授業によって、具体的な事例を扱い、その援助内容、援助方針についてのアクティブラーニングでは、受講した院生同士が積極的にディスカッションを行う場面も多く見られた。院生同士の長時間の交流によって、授業を受講するメンバーとしての一体感が生まれ、主体的かつ積極的な取り組みにつながる一方で、一日の授業時間が長い上に、複数日続く集中講義では、院生の負担も大きかったと推察される。また、集中的な授業では、授業時間数は同じであっても、取り扱える内容が、例年よりも少なかったように思う。本学においては普段は集中講義形式で実施することはないが、集中講義形式の授業においても、より専門性の高い授業を行えるよう今後も研究していきたい。

結果報告書

授業科目名 幼年発達心理演習
 評価実施日 平成30年2月8日
 担当教員名 田村 隆宏 回答者数 7 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1	3	3			3.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1	2	4			3.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	3	3			3.7
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	2	2	3			3.9
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	3	3			3.7
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	1	3	3			3.7
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	1	3	3			3.7
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	1	2	4			3.6
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	3	3			3.7
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	2	3			3.9
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1	3	3			3.7



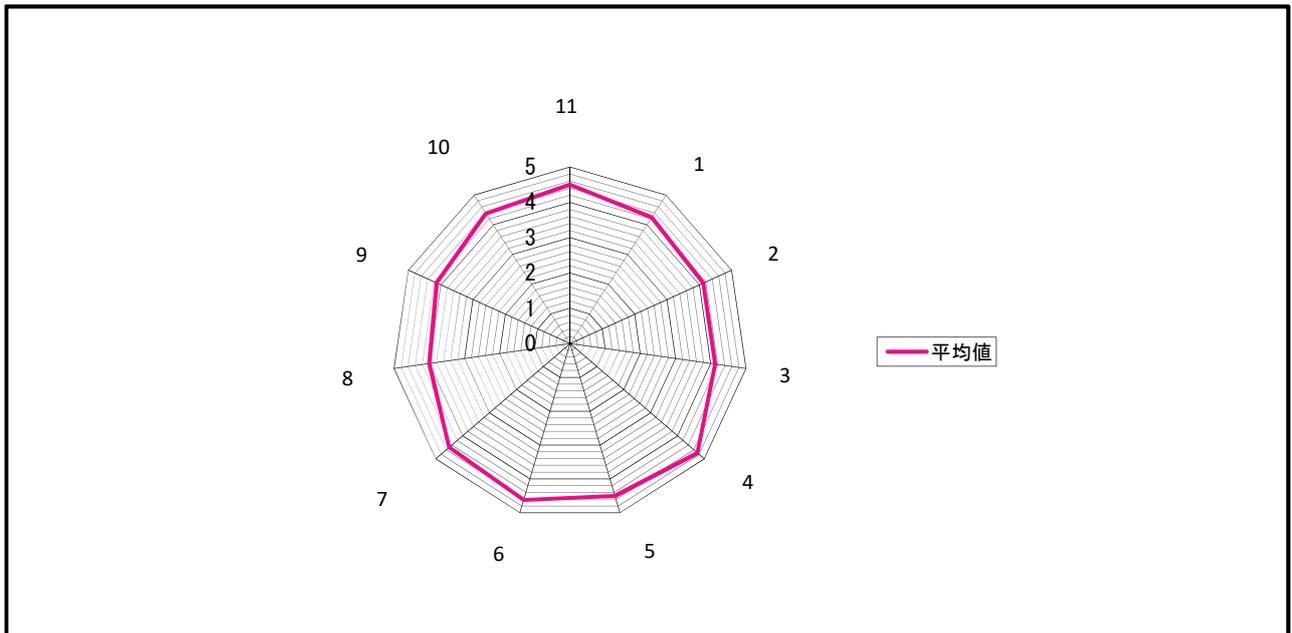
教員のコメント

各項目の評定値をみると、ほとんどの項目について受講生の半数以上の評価点が4以上であり、ますますの評価を受けている結果となった。今後の授業では内容に関しては専門的知識を深めるものに焦点化させること、教科書や関連資料の配付をより適切なものにするのが改善すべき点である。自由記述をみると、「ディスカッションに積極的に参加できたのがよかった。」といった討論形式を高く評価する意見が多かったことから、さらにこの形式を精練させる必要があると考えられる。

結果報告書

授業科目名 幼年期教育学演習
 評価実施日 平成30年2月5日
 担当教員名 湯地 宏樹 回答者数 8 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	4	1			4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	5	1			4.1
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	3	2			4.1
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	6	2				4.8
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	4				4.5
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	5	3				4.6
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	4	4				4.5
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	2	4	2			4.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	5	1			4.1
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	5				4.4
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	4				4.5



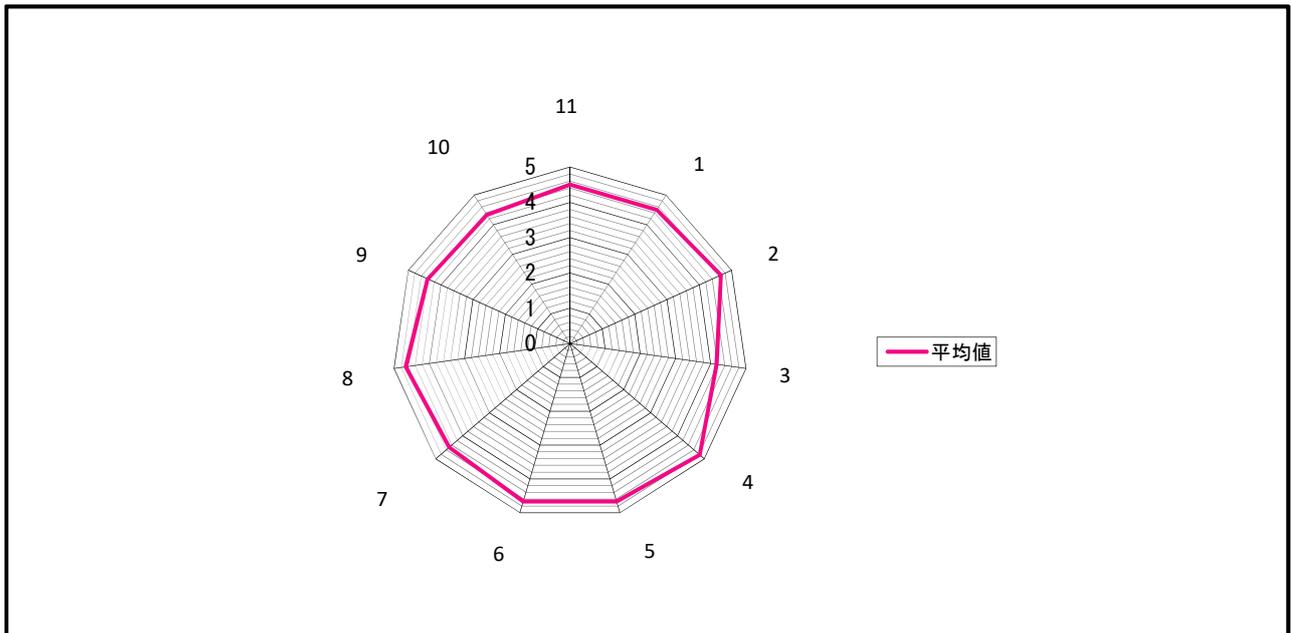
教員のコメント

本授業の受講者数は9人で、そのうち8人の授業評価の結果である。
 授業評価に関しては、「5」>「4」>「3」を常に目標としている。それが達成できたのは、「(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。」「(6)授業の進む速さは、適切であった。」の2項目のみであった。「5」=「4」>「3」は、「(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。」「(7)受講生に分かりやすく説明した。」「(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。」であった。「5」<「4」>「3」は、「(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。」「(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。」「(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。」「(8)教科書や配布された資料は、適切であった。」「(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。」「(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。」であった。
 この授業では、2つの課題(①論文を紹介する、②保育者養成系大学の学生生向けへの模擬授業)について学生中心に進めていくものである。自由記述【2】(よかった点)では、「理論、モデルなどを知ることで、現状にあてはめて考え、課題を明確にすることができたり、様々な視点から物事を見ることができた」などが評価された。自由記述【4】(質問「(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。」の理由)には「ディスカッション、疑問点など積極的に発言した」など肯定的な意見が多かった。自由記述【3】(改善点)には「パワーポイントを準備することを条件にすると積極的に聞こうとおもうのではないか」「もっといろいろな分野の論文がよかった」などの意見がみられた。
 以上、授業評価や自由記述の意見を参考に、学修課題の条件を改善するとともに、アクティブ・ラーニングを推進していきたい。

結果報告書

授業科目名 幼年発達と幼児教育内容論演習
 評価実施日 平成30年1月30日
 担当教員名 塩路 晶子 回答者数 6 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	3					4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	2					4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	3	1				4.2
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	5	1					4.8
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	2					4.7
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	4	2					4.7
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	4	1	1				4.5
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	4	2					4.7
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	1	1				4.4
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	4					4.3
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	3					4.5



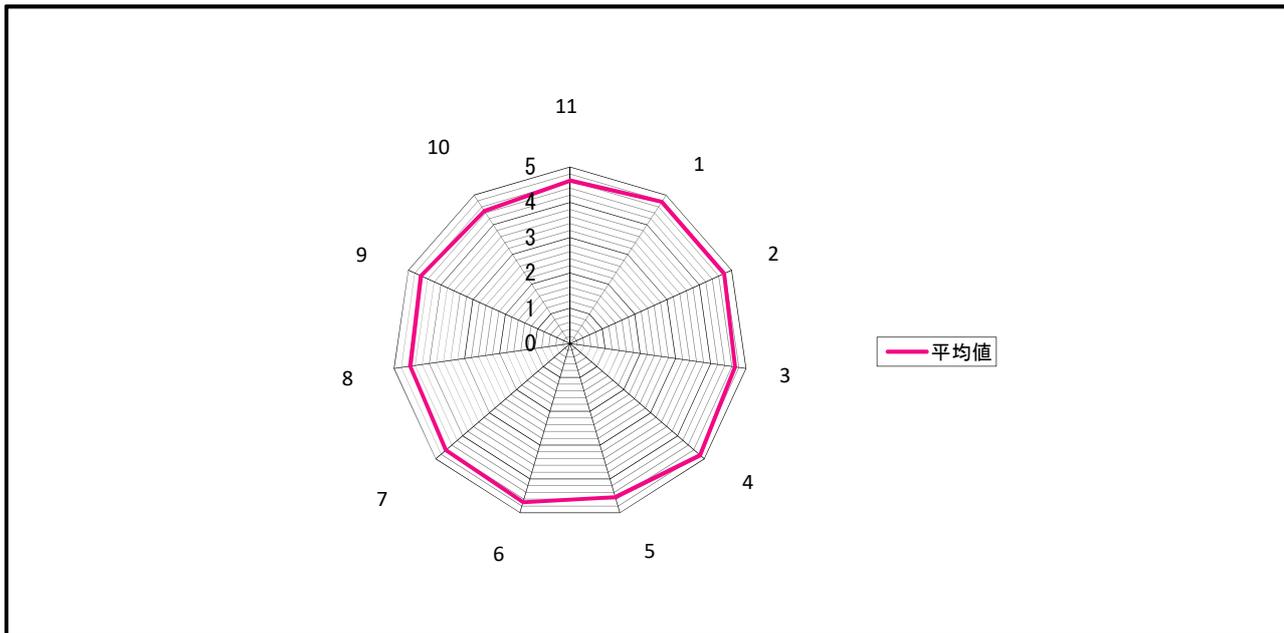
教員のコメント

本授業は、幼児教育内容についての質的研究及び文献研究の手法を学び、自らの問題意識を深めることを到達目標としている。授業評価アンケートにおける自由記述の中でも、受講生が主体的に興味のある文献に進んで取り組み、他の受講生とのディスカッション通じて自らの理解がより深まったとの記載があり、到達目標はおおむね達成することができたと考えている。今後も幼児教育実践につながる質的研究法や文献研究について取り上げていきたい。

結果報告書

授業科目名 現代総合学習論
 評価実施日 平成30年2月2日
 担当教員名 谷村 千絵 回答者数 13 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	10	3					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	10	3					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	9	4					4.7
	(4)授業では、シラスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	11	2					4.8
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	8	4	1				4.5
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	9	4					4.7
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	9	3	1				4.6
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	9	2	2				4.5
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	9	3	1				4.6
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	5	1				4.5
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	8	5					4.6



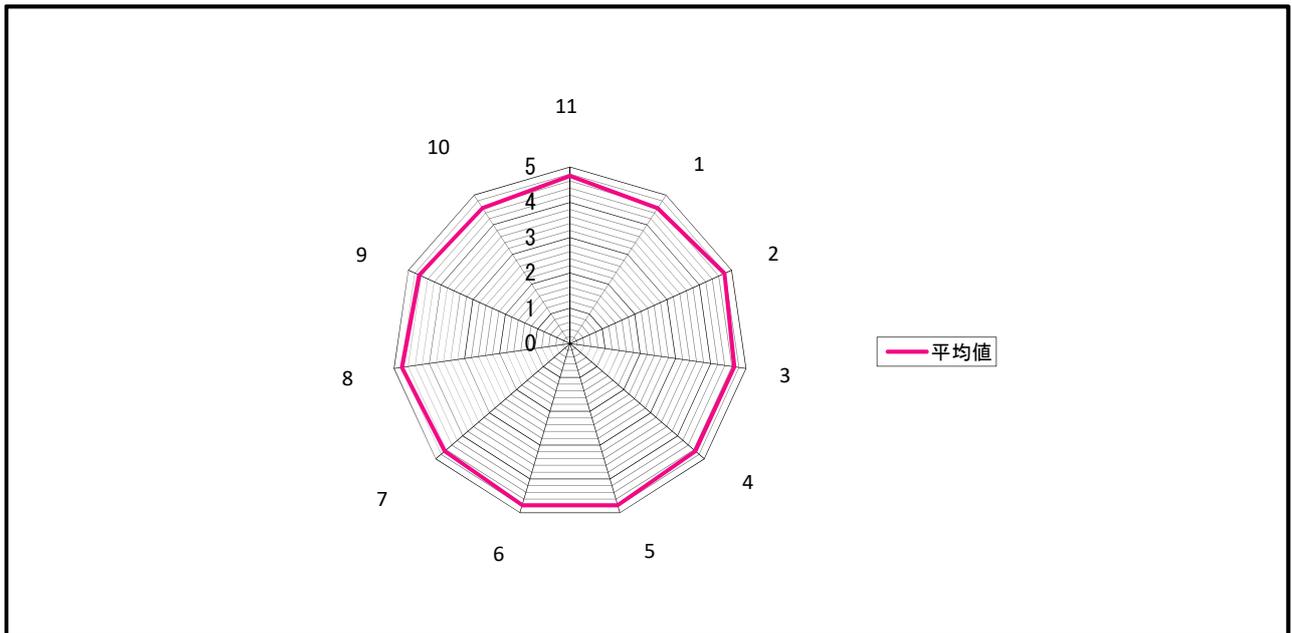
教員のコメント

概ねよい評価だった。自由記述欄には、愛媛県新居浜市の学校見学に行けたことやディスカッションを毎回行ったことへの肯定的評価が多かった。
 カズオ・イングロの『私を離さないで』(映画)を視聴し、哲学的な視点から教育について、哲学対話の手法でグループで考えたが、これにより視野がひろがった、よく考えた、よく参加した、という意見もあった。
 なお、見学に行った学校での実践はESDで、ESDそのものについての基礎概要は授業内で示したものの、総合コースの他の授業で既習している人と、そうでない人に理解の差が生じていたようなので、来年度はそれを改善したい。

結果報告書

授業科目名 現代教育人間論
 評価実施日 平成30年2月15日
 担当教員名 太田 直也,谷村 千絵,田村 和之,近森 憲助 回答者数 9 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6	2	1			4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	2				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	3				4.7
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	7	1	1			4.7
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	7	2				4.8
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	7	2				4.8
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	7	1	1			4.7
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	7	2				4.8
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6	3				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	4				4.6
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6	2				4.8



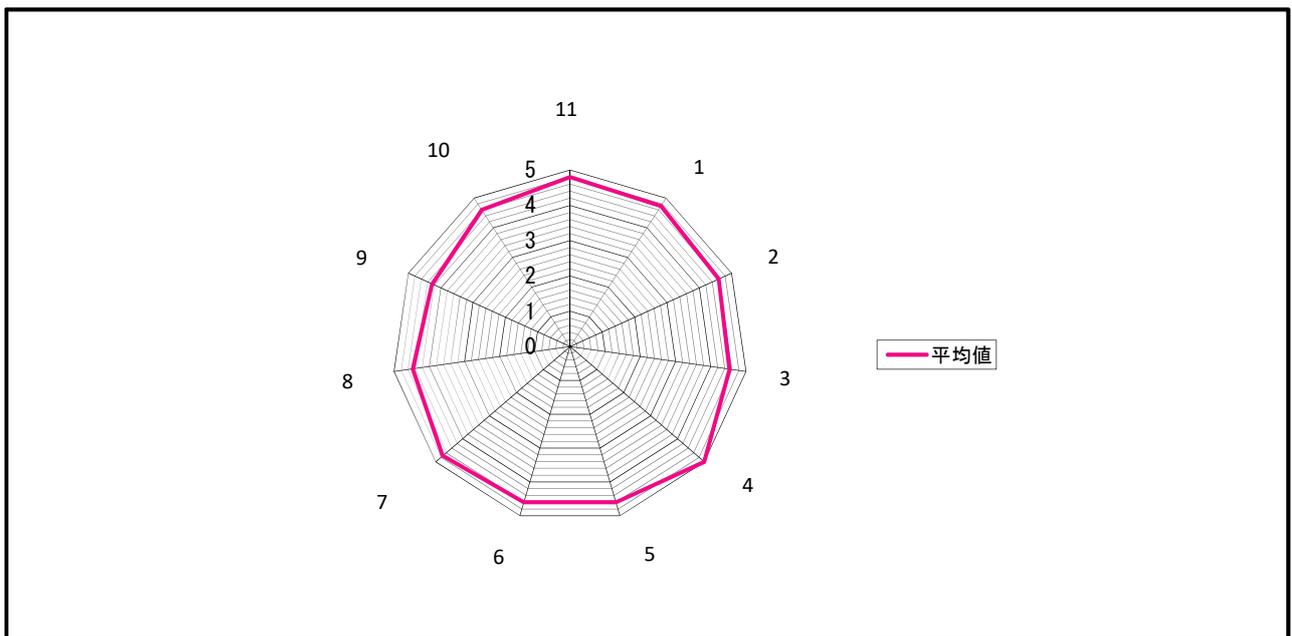
教員のコメント

本授業は大学院修士課程に相応しい思考力の向上、教育大学に相応しい揺るぎない教育への情熱の促進、その双方を目指すものである。平成29年度も内容こそ新たなものとなったが、従来通りの目標をもって授業が展開された。受講者から高い評価を得たことにより、目標は大方達成されたと考える。授業担当教員と受講者が互いに刺激を与えあう時間に恵まれたことを喜びたい。

結果報告書

授業科目名 人間とコミュニケーション I (基礎研究)
 評価実施日 平成30年2月15日
 担当教員名 谷村 千絵, 金野 誠志 回答者数 15 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	11	4				4.7
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	11	3		1		4.6
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	11	2	1	1		4.5
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	15					5.0
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	11	3		1		4.6
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	10	4	1			4.6
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	12	2	1			4.7
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	9	4	2			4.5
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8	3	4			4.3
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	6				4.6
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	12	3				4.8



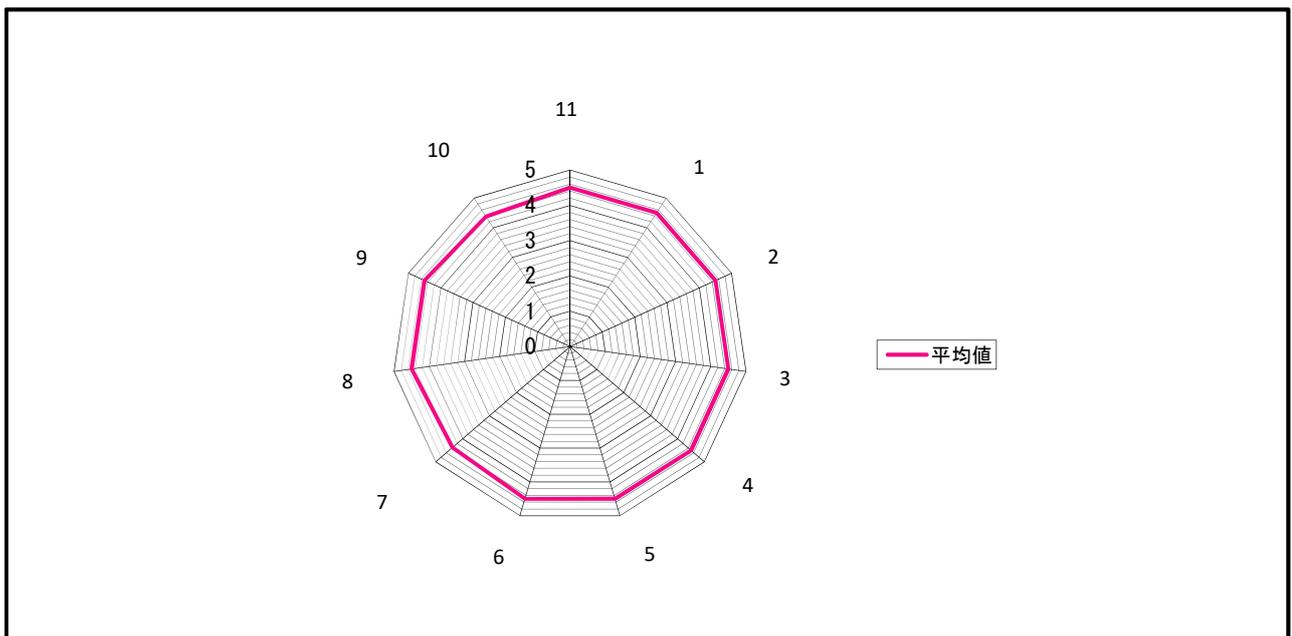
教員のコメント

概ねよい評価であった。文献講読の授業であるが、①メモを取りながらテキストを「読むこと」、②疑問点や興味深い点、自分なりにまとめた概要をグループで「話すこと」、③同時に、グループで他者ののを「聞くこと」、という3つの作業を意識づけ、単なる文献講読に終わらず、グループでのアクティブ・ラーニングになるように、前期の授業で扱った「主体的で、対話的で、深い学び」に結びつけるように構成した。この方法については、自由記述欄で「読み書き、話すの点が全て行われていたことを、よかった点として挙げられている意見の他、発表すること、他の人とコミュニケーションし、考察と一緒に深めたことで、自分の積極性が高まったと評価する意見が多かった。これらを専門的知識(2)や教師の実践力(3)に結びつけて理解できるよう、授業中にも明示したつもりだったが、2をつけた学生は、欠席などの理由で、この点の理解がないままの参加になったのかもしれない。(理由を書いていないので、詳細は分からない。)一冊の本を読み通せたことへの達成感のコメントも複数あるなかで、最後の数章は、速度が速すぎたという意見、グループ内でテキスト理解度の差が大きく困った、という意見もあった。教育哲学、教育史のテキストに慣れていない受講生が多い中で、最初はゆっくりのペースで進め、全体として内容理解の確認をする時間も設けているが、最後まで丁寧に進められるようさらに工夫したい。内容については「子どもに対する価値がゆらいだ。教育の基盤が分かったので、これからの教育に必要なものを追求しやすくなった」という深い学びと見受けられるコメントがあり嬉しかった。

結果報告書

授業科目名 人間とコミュニケーションⅡ(実践研究A)
 評価実施日 平成30年2月13日
 担当教員名 金野 誠志 回答者数 8 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5	2	1			4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	2	1			4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	2	1			4.5
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	5	2	1			4.5
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	2	1			4.5
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	5	2	1			4.5
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	4	3	1			4.4
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	5	2	1			4.5
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5	2	1			4.5
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	3	1			4.4
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5	2	1			4.5



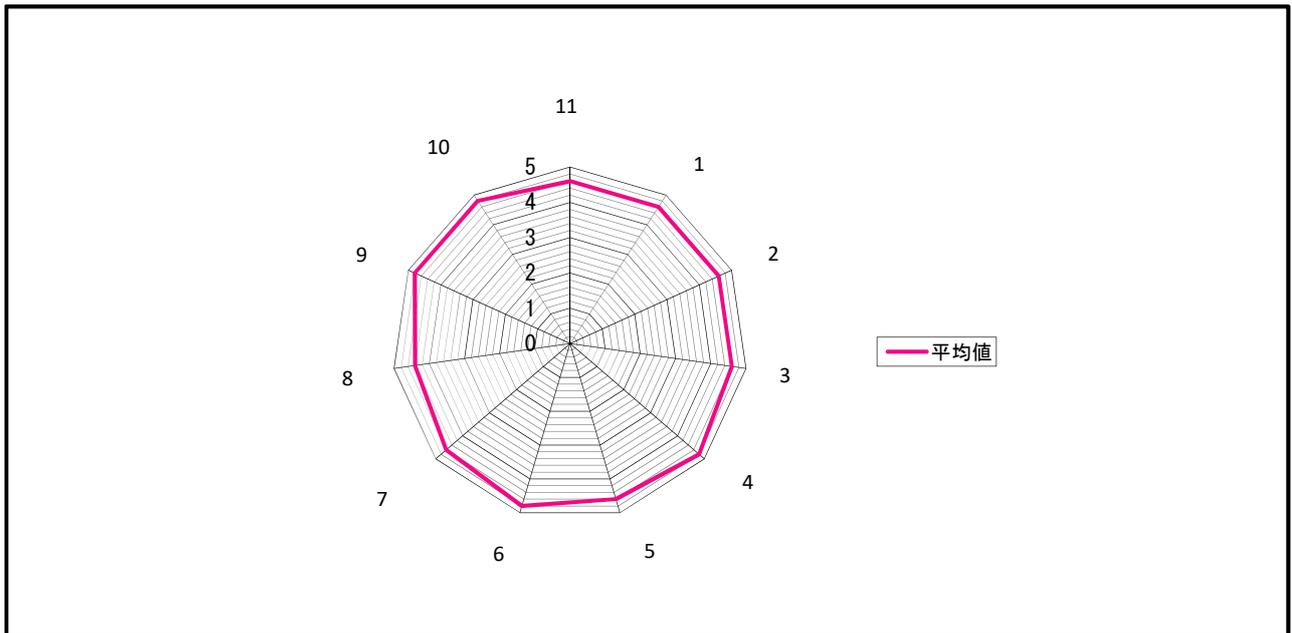
教員のコメント

全体的に、院生のニーズに対応しつつ、現職教員の院生と現職経験のない院生の両方のニーズに応じた授業を行うことができたといえる。院生としての学力的なレディネスが不足している場合は、授業に対する意欲や理解が進まない院生たようである。自ら学ぶことが基本の大学院であるし、教員としての将来を望んでいるのであればなおさら主体的な学習を期待したい。授業では、グループ対話やワークショップ型の形態を多用したことも、多くの院生が評価してくれた点であると考えます。次年度にも生かしたい。

結果報告書

授業科目名 人間と環境 I (基礎研究)
 評価実施日 平成30年2月2日
 担当教員名 田村 和之 回答者数 5 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	2					4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	2					4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	2					4.6
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	4	1					4.8
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	2					4.6
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	4	1					4.8
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	3	2					4.6
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	2	3					4.4
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	1					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1					4.8
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	2					4.6



教員のコメント

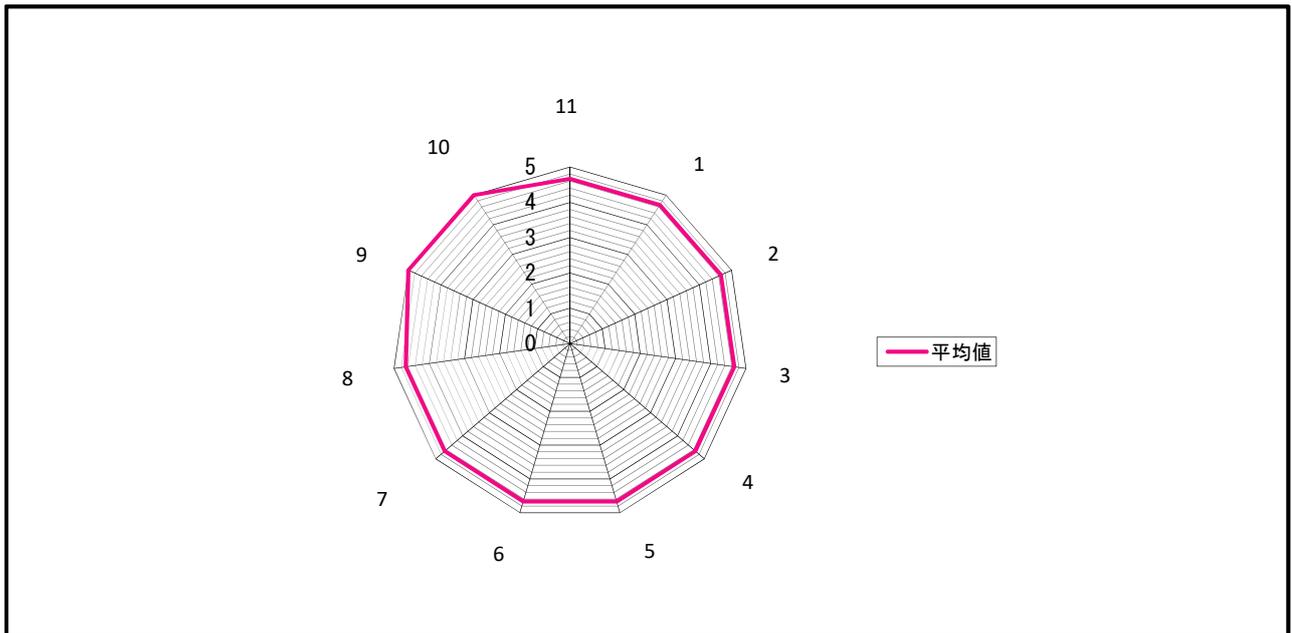
総合評価が4.6であり、授業の形態・内容ともに学生からは概ね喜ばれるものであったと思う。
 また、各項目を見ると、8番目の項目以外は4評価よりも5評価の方が多く、こちらも学生にとっては概ね喜ばれたことがうかがえる。ただし、授業では教科書や配布資料は最低限としてあったため、今後もう少し関連資料を配布することも考えたい。

授業自体は主に学生が教材(地域の特産物や伝統など)について調べ、それをどのように授業で教材として使うかを発表し、全員で話し合う形態である。この形態は学生の発表練習にもなるし、他人の発表を聞くことで自分では考えつかなかった教材としての価値や使用方法を発見している様子もうかがえたので、非常に効果的で有意義な授業であると思われる。

結果報告書

授業科目名 人間と環境Ⅲ(実践研究B)
 評価実施日 平成30年2月13日
 担当教員名 田村 和之,近森 憲助 回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	1				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	1				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	1				4.7
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	2	1				4.7
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	1				4.7
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	2	1				4.7
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	2	1				4.7
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	2	1				4.7
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3					5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	1				4.7



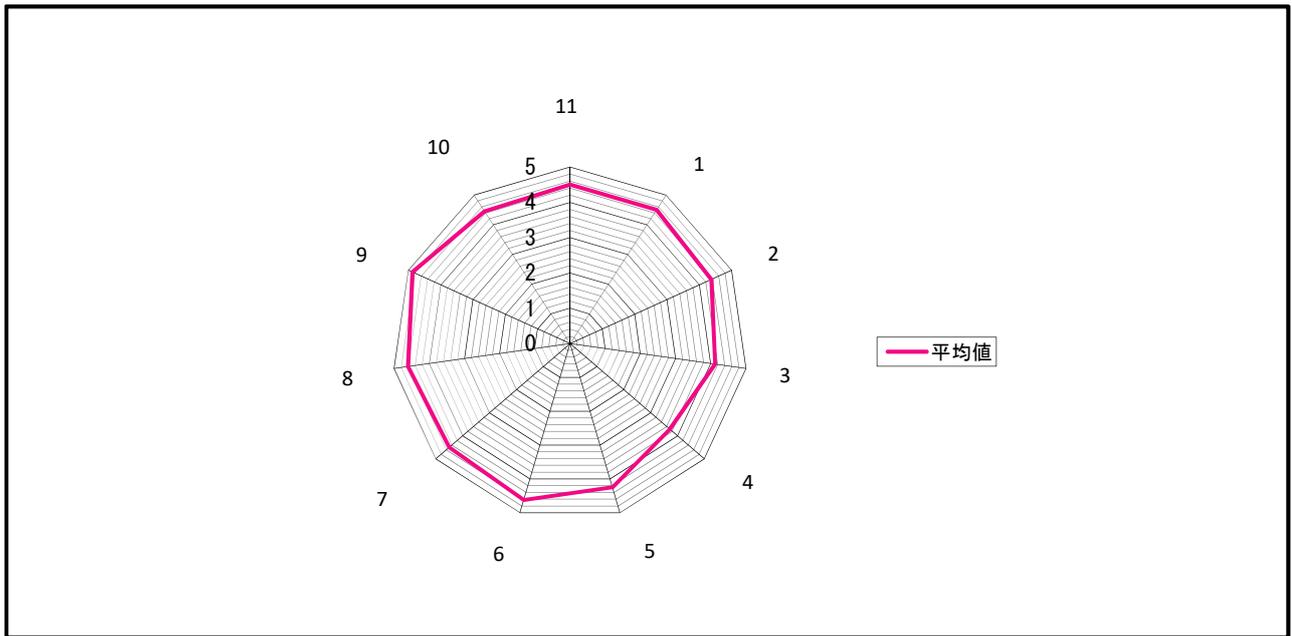
教員のコメント

本授業は受講者数が少ないが、少ないが故に論文を読んで教員2名とともに深いディスカッションができたことが非常に良かったと考える。
 学生の評価も上々であり、筆記のコメントもディスカッションが良かった旨が書かれてあった。
 改組後はこの授業がどうなるかはまだわからないが、論文を読んで全員でディスカッションを行うという形式は今後も残していきたい。

結果報告書

授業科目名 現代教育課題特論
 評価実施日 平成29年12月21日
 担当教員名 小西 正雄 回答者数 9 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5	2	1			1	4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	1	2				4.4
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	1	3				4.1
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	3		3	1			3.7
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	2	2				4.3
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	5	3					4.6
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	6	1		1			4.5
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	2					4.6
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	7	1					4.9
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	3	1				4.4
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6		2				4.5



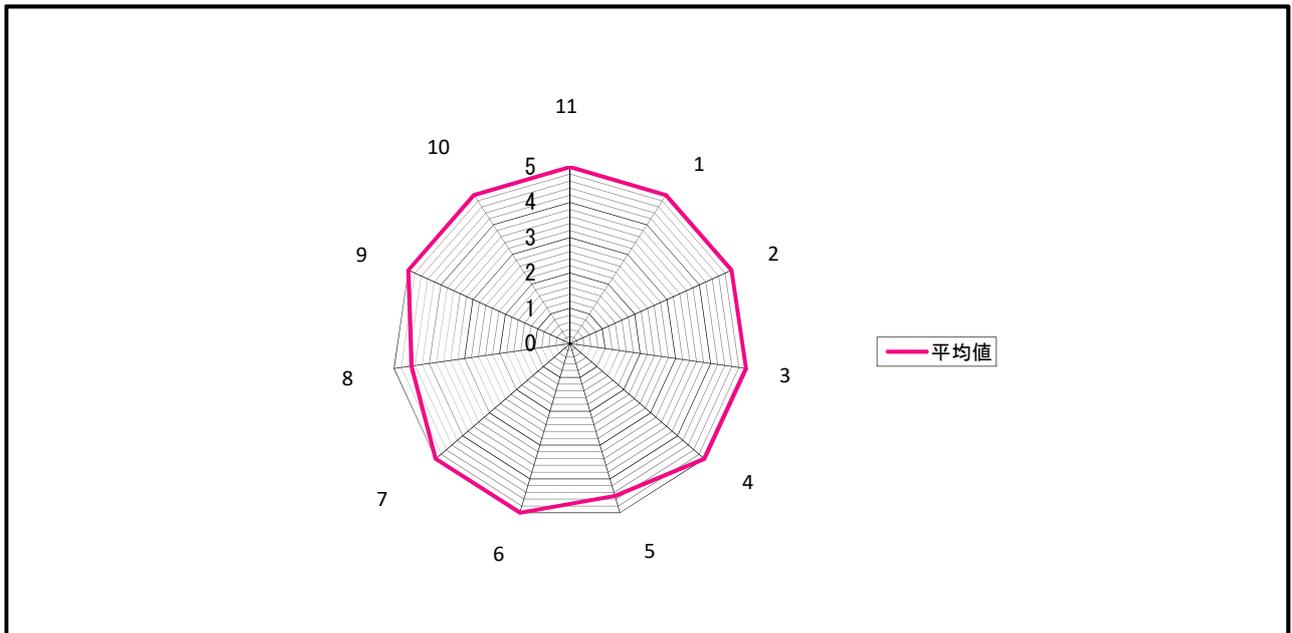
教員のコメント

多様なレディネスやニーズをもった大学院生が対象でしかも必修ではないことから、教育内容のターゲットを絞り込むのは困難な状況であったが、平均点以上の評価を得ることができたのはよかったと感じている。アクティブラーニング的な授業展開は実際には難しい面もあるが、今後は可能のところから試行していきたい。

結果報告書

授業科目名 社会資源開発運用・連携論
 評価実施日 平成30年2月6日
 担当教員名 井上 とも子 回答者数 2 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2						5.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	2						5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	1					4.5
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	2						5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	2						5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	1	1					4.5
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2						5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2						5.0



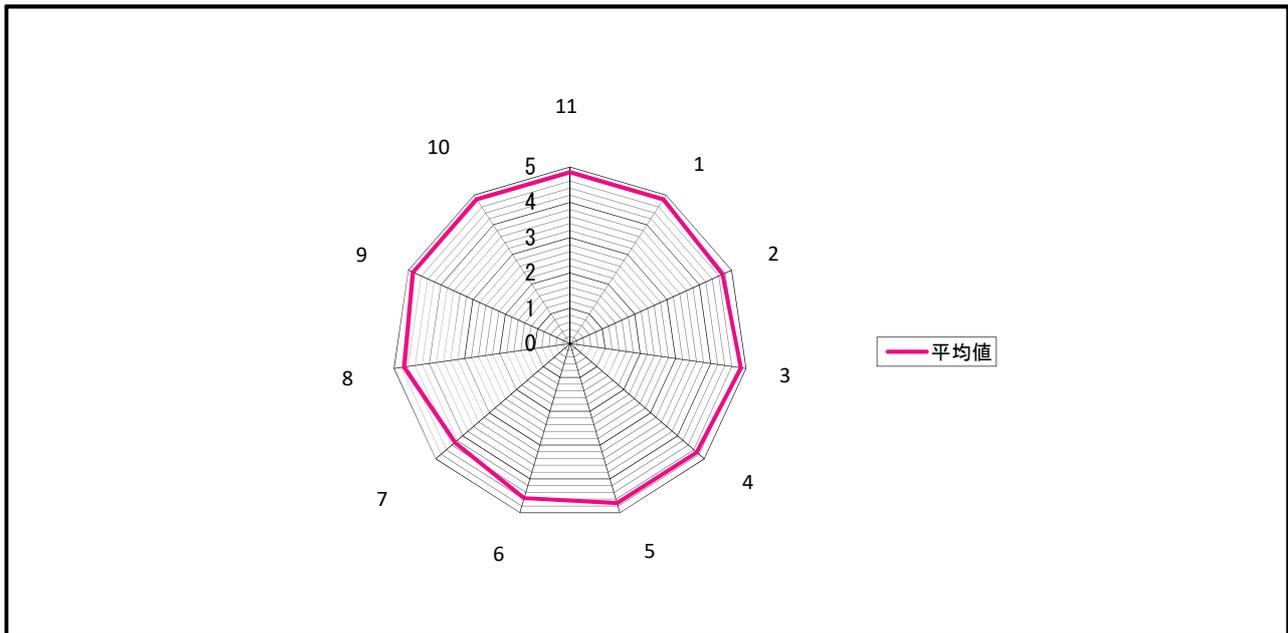
教員のコメント

この授業は、自らが社会的資源を探し、集めるという開発から始まり、連携や運用に関しては、自らのコーディネーター経験に照らし合わせて思考し広げていくものであると考えている。そのため、講義形式の時には開発や他機関との連携に必要な基本的な人間関係づくり、特別支援教育の考え方等を視覚資料を使って説明している。後半、学校現場の特別支援教育に関わる問題を持ち寄り、事例検討や、個別の教育支援計画の作成に取り組みながら、関係する社会資源の収集、関係機関との連携のあり方まで、協議の中に入れており、特別支援教育コーディネーターが各学校現場で行う校内委員会を模した形で協議を進めるなど、アクティブ・ラーニングを進める事ができた。全体的におおむね満足しているとの回答であり、このような形式で、2018年度も進めていきたいと考えている。

結果報告書

授業科目名 特別支援教育課程特論演習
 評価実施日 平成30年2月13日
 担当教員名 高橋 眞琴 回答者数 7 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6	1				4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	2				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	1				4.9
	(4)授業では、シラスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	5	2				4.7
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	2				4.7
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	4	3				4.6
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	3	3	1			4.3
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	5	2				4.7
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6	1				4.9
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	1				4.9
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6	1				4.9



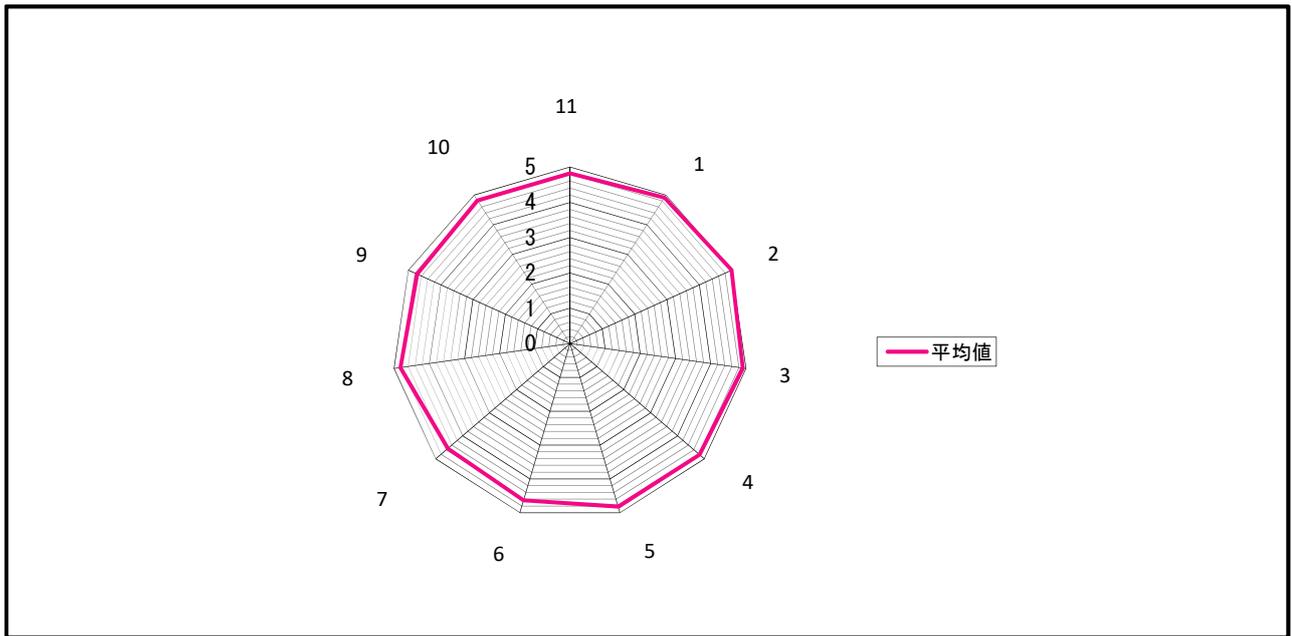
教員のコメント

特別支援学校学習指導要領の改訂点について、新旧の比較を行う演習であったが、受講生全員が非常に熱心に演習に取り組んでいた。「教師の実践力の育成につながる内容であった。」「授業に主体的・積極的に取り組んだ。」の評価が比較的高くなっている点が大学院における教員養成という面では、好意的な評価をいただいたのではないかと考えられる。

結果報告書

授業科目名 特別支援教育指導特論演習
 評価実施日 平成30年2月15日
 担当教員名 大谷 博俊 回答者数 11 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	10	1				4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	11					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	10	1				4.9
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	9	2				4.8
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	9	2				4.8
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	8	2	1			4.6
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	7	3	1			4.5
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	9	2				4.8
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8	3				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	2				4.8
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	9	2				4.8



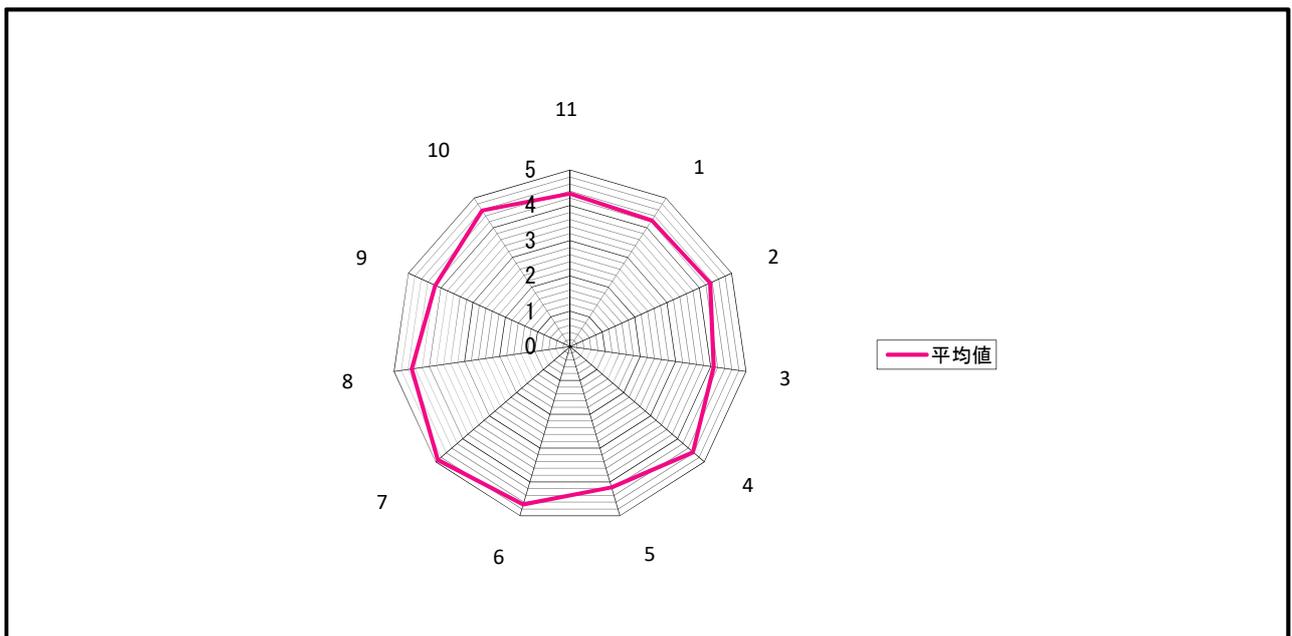
教員のコメント

受講者の講義に対する満足度は高く、「専門的知識を深めるのに役立つこと」、「教師の実践力の育成につながる」ことが特に評価されている。これらのことから、本講義内容は適切であったと考える。一方、専門的な内容で構成しているため、特別支援教育に関する基礎的知識をもたない受講者にとっては難解であったかもしれない。関連論文やテキストなどの基礎的理解につながる資料を紹介するなど、主体的な学修を促進していきたい。

結果報告書

授業科目名 特別支援教育臨床支援技法演習
 評価実施日 平成30年2月9日
 担当教員名 高原 光恵 回答者数 12 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5	5	2			4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	2		2		4.3
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	1	5			4.1
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	8	3	1			4.6
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	7	2	2		1	4.2
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	8	4				4.7
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	11	1				4.9
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	8	2	2			4.5
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6	2	4			4.2
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	1	2			4.6
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6	4	2			4.3



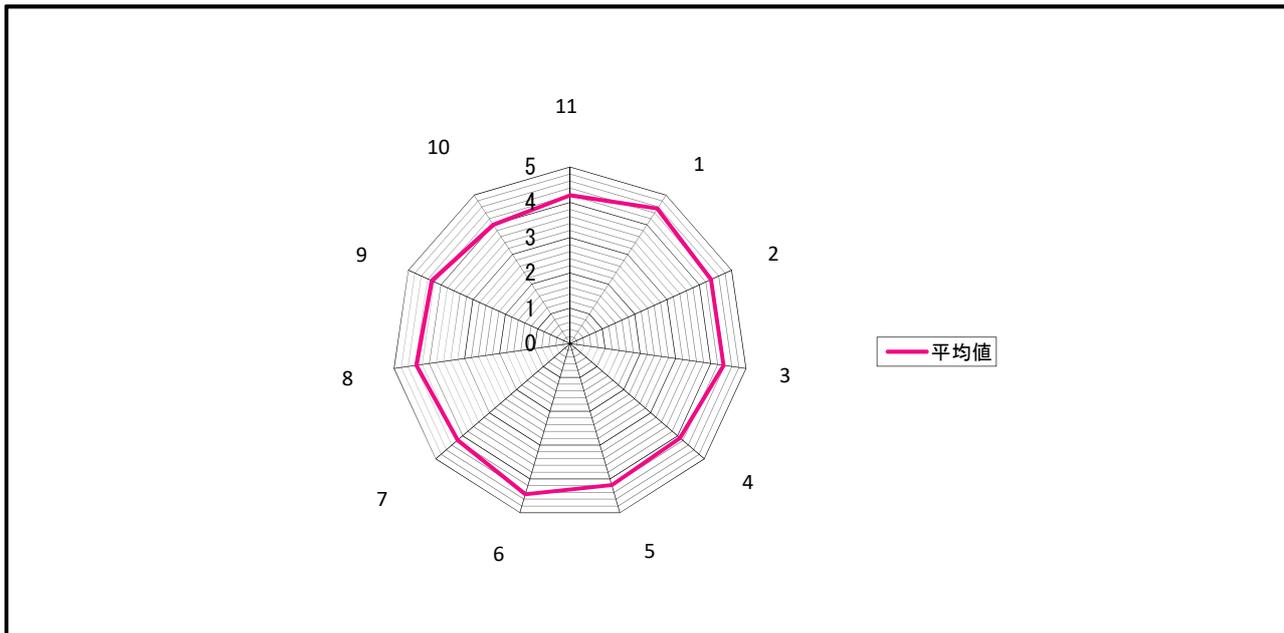
教員のコメント

本授業は毎回の予習と授業時間内の自発的な発言が求められる形式で進められた。受講生の中で教職志望はほぼ半数であり、各時間で扱われるテーマは多様性に富んだものとなった。そのため、受講生によってテーマに関する熟知度や関心が異なり、予習の程度によってはそこから読み取る知識や応用力にも差が出たと思われる。また、最も評価の高い「わかりやすさ」については、受講生同士の討議および解釈、意見交換が主の授業形態ならではの評価と思われる。なお、成績評価については初回と終盤に説明しているが、不十分であったと思われるので、次年度以降は初回での説明をより丁寧にしていこうと考えている。

結果報告書

授業科目名 発達障害児支援医学演習
 評価実施日 平成30年2月20日
 担当教員名 伊藤 弘道 回答者数 11 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6	5					4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	5	1				4.4
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	3	2				4.4
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	4	4	3				4.1
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6	2	2	1			4.2
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	7	3		1			4.5
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	6	2	2	1			4.2
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	6	3	2				4.4
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6	2	3				4.3
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	4	2	1			4.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	6	1				4.2



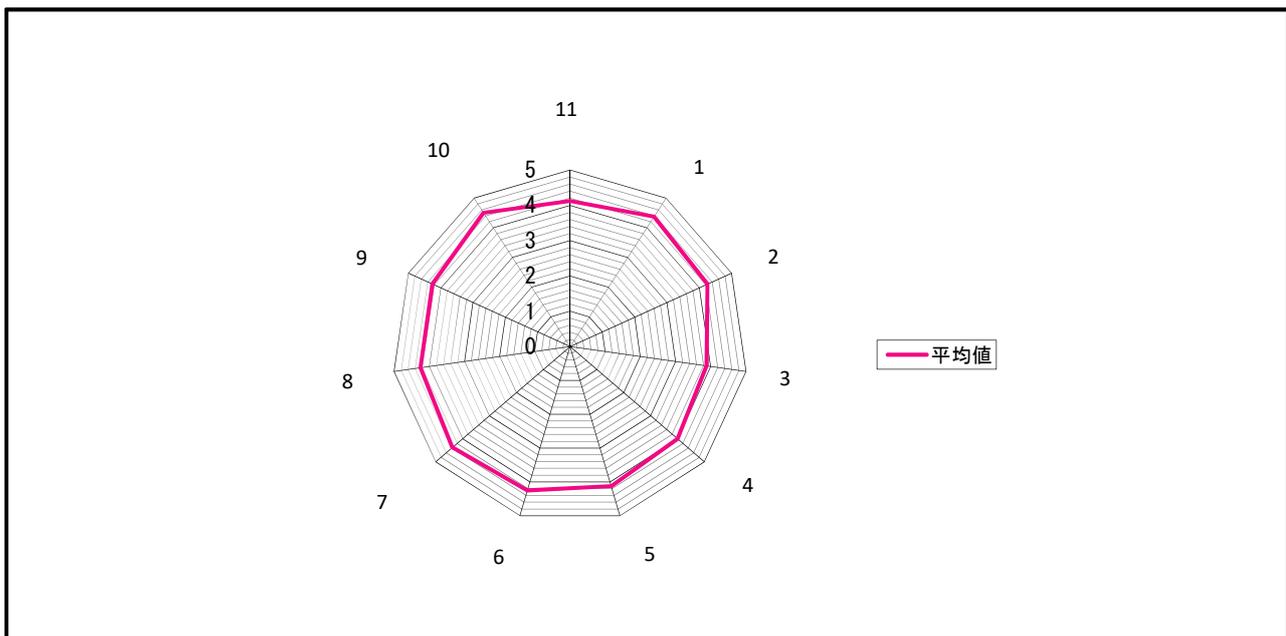
教員のコメント

この授業の目的は発達障害、病弱対象疾患の病態生理、神経生理などについて、医学・神経学の現状、特別支援教育との関係、発達生理、治療法などに関するテーマを毎回決め、少人数のグループにて文献研究を行い、この分野の研究について理解を深め、あわせて、プレゼンテーション、討論などを実践することである。各学生が授業で発表し討論することにより、発達障害および病弱児の理解をより深めることができたのではないかと考える。今後とも授業の内容、方法について改善を行っていく予定である。

結果報告書

授業科目名 発達障害児神経学演習
 評価実施日 平成30年2月9日
 担当教員名 田中 淳一 回答者数 8 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	3	1			4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	4	1			4.3
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	5	2			3.9
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブラーニングが、実施されていた。	2	4	2			4.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	5	1			4.1
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	3	4	1			4.3
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	3	5				4.4
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	4	1			4.3
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	4	1			4.3
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	2	1			4.5
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	5	1			4.1

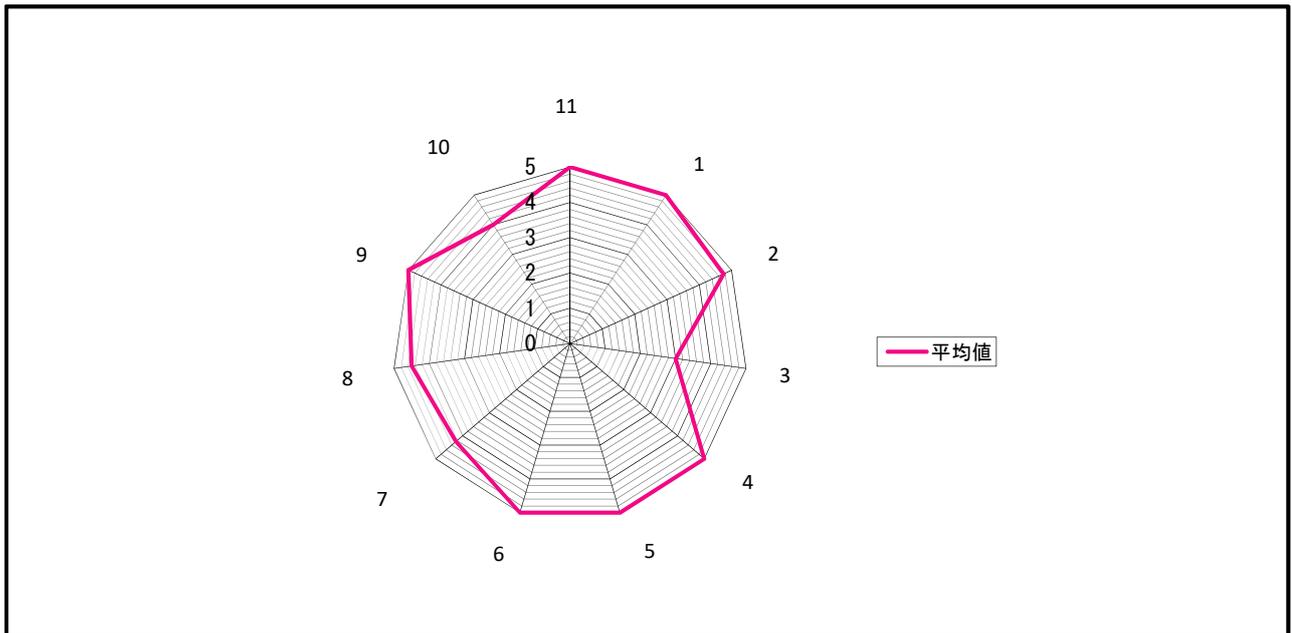


教員のコメント

結果報告書

授業科目名 日本事情・日本文化
 評価実施日 平成30年2月8日
 担当教員名 田中 大輝 回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	1				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。			1			3.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	4					5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4					5.0
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	4					5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	3			1		4.3
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	3		1			4.5
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1		1		4.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3					5.0



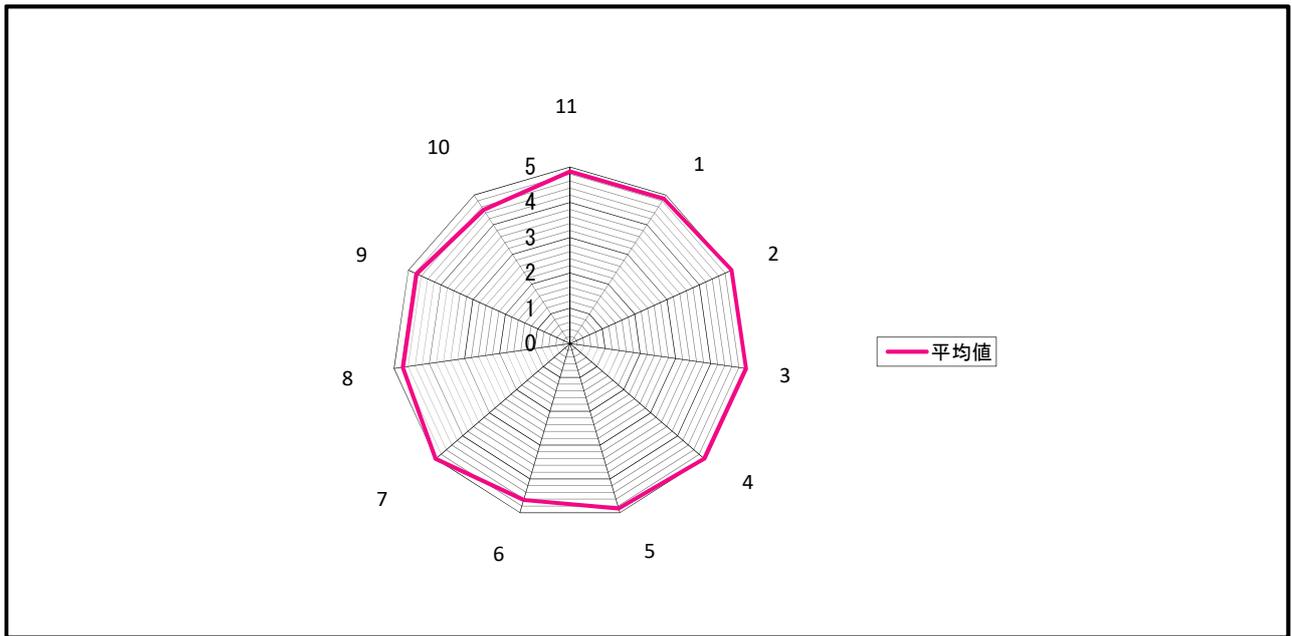
教員のコメント

本授業では、「日本の暮らし・徳島の暮らし」や「ジェスチャー・対人距離・身体接触」など、様々なテーマを通して日本の社会や日本人の考え方についての理解を深めることを目指した。また、日本の文化と比較して、留学生自身の国について発表したり、他の国の出身の留学生にその国のことを質問したりすることによって、世界の様々な国の文化や考え方について相互に理解を深め合うことも目的とした。受講者数は3名(＋聴講1名)であり、授業評価アンケートの自由記述の項目では、「良かった点はたくさんあるが、特に、日本の文化を学べたこと、自分の国の文化と日本の文化の違いを知ることができたこと、日本人の考え方を理解できたことが良かった。」(原文は英語)、「自分たちの意見を自由に言えるのが良かった。参加者の各国の文化の違いを知ることができて良かった」(原文は英語)など、本授業の目的を達成できていたことがうかがえる声が多く見られた。一方で、「日本人学生がもう少し多く参加していたらもっと良かったのと思う。」(原文は英語)という声があがっていた。本授業は日本人学生も単位を取得することができるのだが、実際に参加した日本人は聴講の1名のみであった。次年度は日本人学生の参加が増える見込みなので、学生間のインターアクションの機会も確保できるよう工夫を行いたい。

結果報告書

授業科目名 日本語Ⅲ
 評価実施日 平成30年2月5日
 担当教員名 田中 大輝 回答者数 8 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7	1				4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブラーニングが、実施されていた。	8					5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	7	1				4.9
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	6	1	1			4.6
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	8					5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	6	2				4.8
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6	2				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	4				4.5
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7	1				4.9



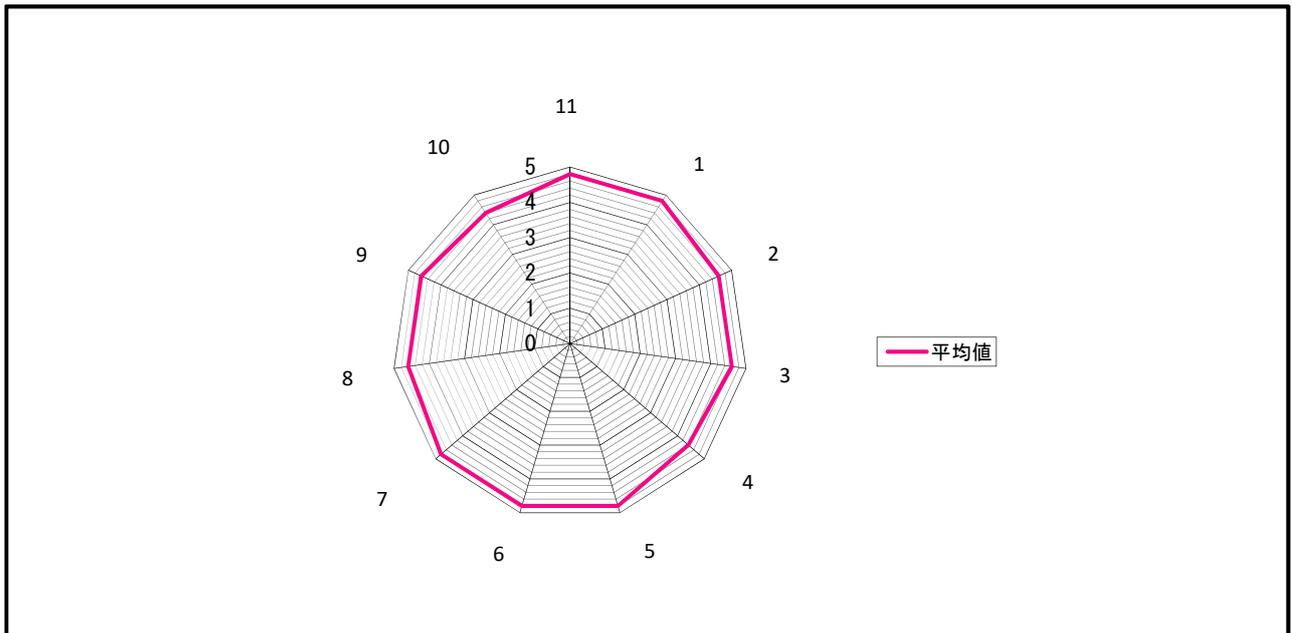
教員のコメント

本授業では、大学で学ぶ留学生にとっての基礎的な能力である、「適切にメールを書くことができる力、適切に情報を収集することができる力」などを養うことを目的とした。受講者数は0名(＋聴講8名)であり、授業評価アンケートの自由記述の項目では「とても役に立つ授業だと思います。内容もおもしろくてとてもいい授業だと思います。日本語を勉強している私にとって、メールの書き方やスピーチはとても必要なことです。とてもいいと思います。」「先生からの質問や学生同士の質疑応答が多くて、ほかの人とのコミュニケーションが多かったです。」など、授業内容の実用性や相互のインターアクションが豊富だったことを高く評価する声が多く見られた。一方で、「学習した内容をもっと定着させるために、最後に試験を課すのはどうか」(原文は英語)という提案が見られた。(現在は試験を課していない。)今後の参考としたい。

結果報告書

授業科目名 日本語IV
 評価実施日 平成30年1月31日
 担当教員名 妹尾 春子 回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	1				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	2				4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4		1			4.6
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブラーニングが、実施されていた。	2	3				4.4
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	1				4.8
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	4	1				4.8
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	4	1				4.8
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	4		1			4.6
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4		1			4.6
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	3				4.4
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	1				4.8

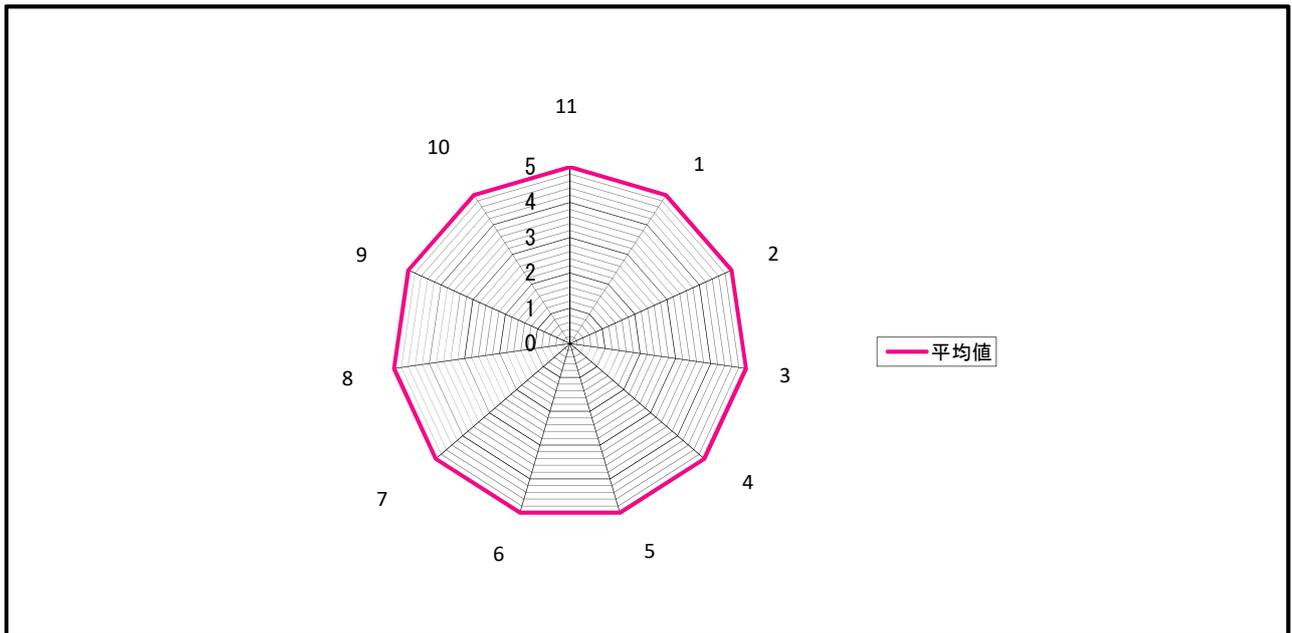


教員のコメント

結果報告書

授業科目名 日本古典語演習
 評価実施日 平成30年2月14日
 担当教員名 原 卓志 回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



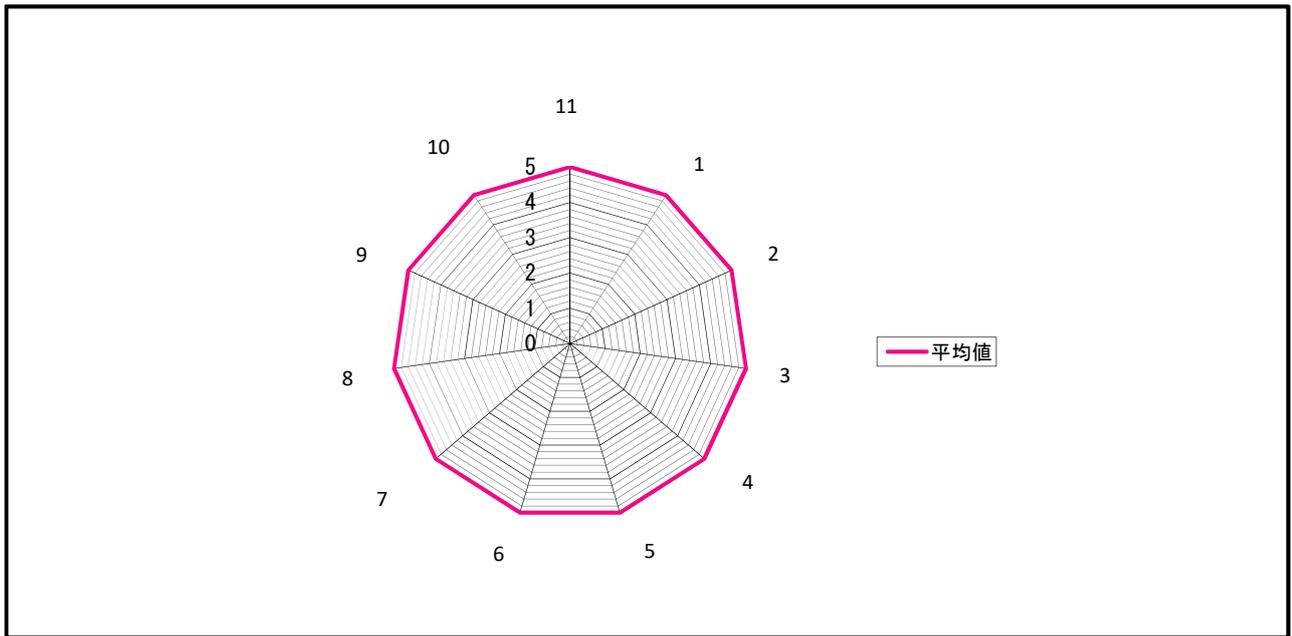
教員のコメント

前期に引き続き、国伝山地藏寺所蔵の『異船一條并大小名等諸事傳聞噂而已之記』を取り上げて解説を進めた。
 受講生が2名と少なかったが、対象文献を読むことに強い興味を示しており、有意義で充実した時間を過ごすことができた。
 良かった点として、「くずし字が少しずつ読めるようになった」ことが挙げられ、授業には「毎時間欠かさず2頁以上の予習をしてきた」というほど、熱心に取り組んでくれた。そして、「石碑などの字も読んでみたい」という感想も寄せられた。。

結果報告書

授業科目名 日本文学演習Ⅱ
 評価実施日 平成30年2月15日
 担当教員名 小島 明子 回答者数 2 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2						5.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	2						5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2						5.0
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	2						5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	2						5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	2						5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2						5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2						5.0



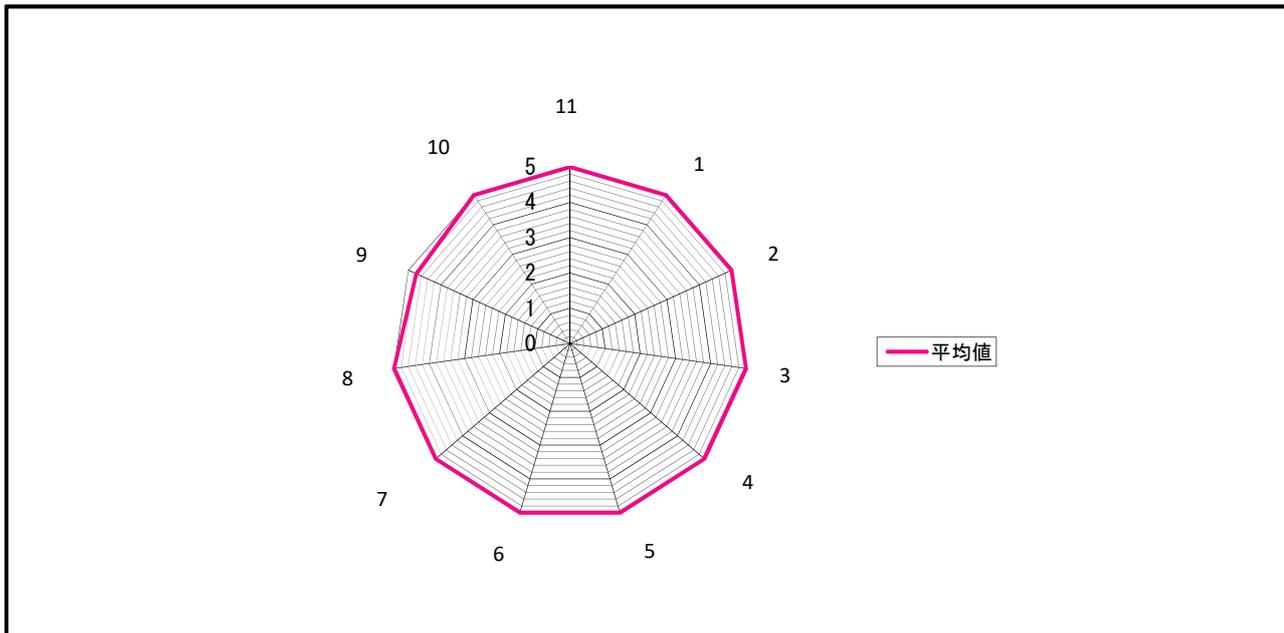
教員のコメント

受講生が2名のみで、しかも非常に学習意欲が高い、現職院生であったため、積極的な発言や問題提起がなされ、これによって盛り上げる授業となった。特に、受業者の力によるものではないと思われる。
 むしろ、当該科目にあまり関心がない院生・不得意で参加意欲がない院生が受講した場合の対応が今後の課題であると考えている。

結果報告書

授業科目名 日本語教育学演習
 評価実施日 平成30年2月6日
 担当教員名 廣田 知子 回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4					5.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	4					5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4					5.0
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	4					5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	4					5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	4					5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4					5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4					5.0



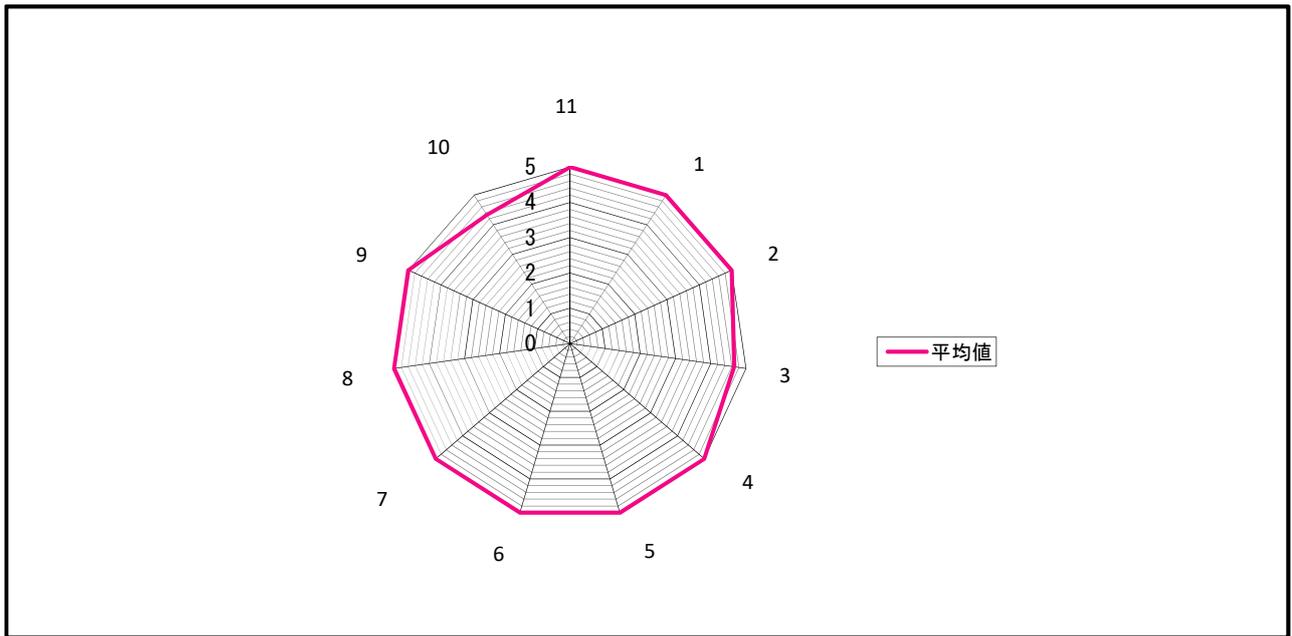
教員のコメント

視聴覚機器の使用に関しては慣れていない面もあったと思います。学生に頼ってしまった部分もあるので、今後きちんと自分で扱えるように勉強したいと思っています。

結果報告書

授業科目名 日本語文法演習
 評価実施日 平成30年2月8日
 担当教員名 田中 大輝 回答者数 3 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	1					4.7
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブラーニングが、実施されていた。	3						5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3						5.0
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	3						5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	3						5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	3						5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2		1				4.3
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3						5.0



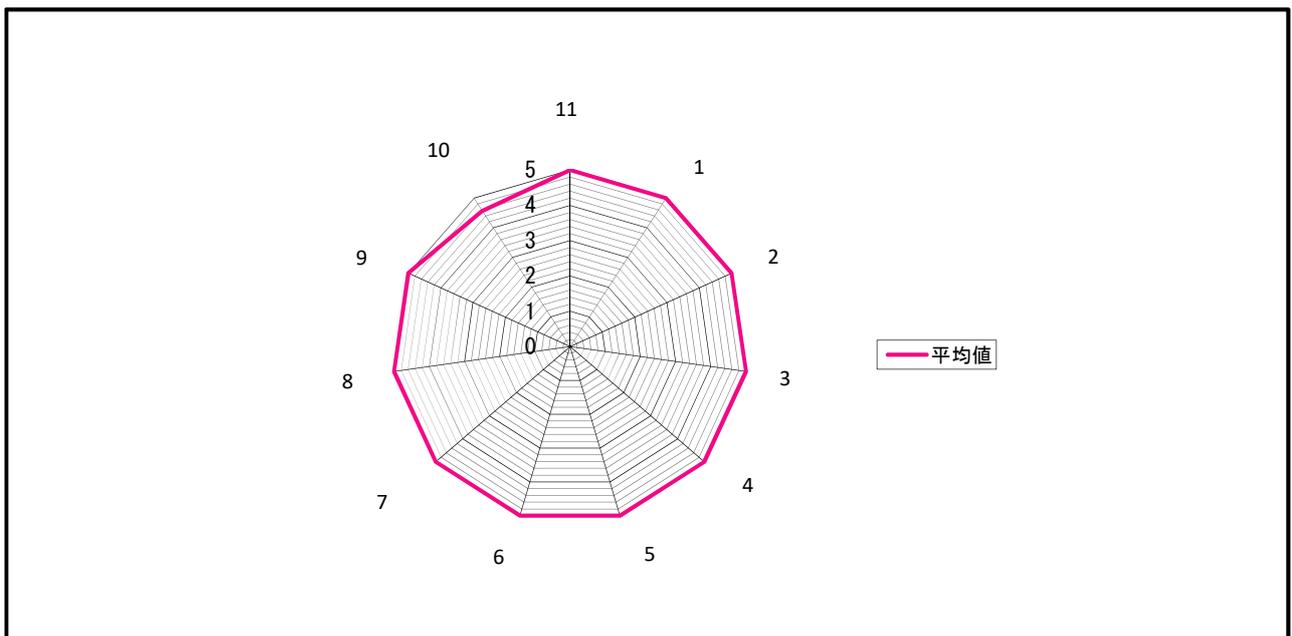
教員のコメント

本授業では、日本語の文法研究の中でもとりわけ幅広く深い洞察がなされてきた「指示詞(コソ・ア)」について、古典的な論文から最近の論文まで幅広く検討することで、従来何が問題とされてきて、現在何が問題として残されているのかを理解することを目指した。また、そのような研究の積み重ねによって得られた知見を日本語教育の現場でどのように活かすべきかを議論した。授業評価アンケートの自由記述の項目では、「学生が担当者となって授業を進めるため、講義で習うよりも主体的に学ぶことができました。」「学生が分担して発表を行う際には、先生が丁寧に補足してくださり、とても分かりやすいものでした。」など、授業の運営方法を高く評価する声が多く見られた。一方で、「人数が少ないため発表回数が多く、しんどかったです。」という声があがっており、演習形式の授業としては受講者の負担が大きくなってしまっていたことは問題であったと思われる。急遽、授業担当教員による発表(講義)の時間を増やすなど、可能な限りの工夫を行ったつもりであるが、今後は、受講者の確保や受講者の負担へのさらなる配慮に努めたい。

結果報告書

授業科目名 日本語語彙論
 評価実施日 平成30年2月9日
 担当教員名 田中 大輝 回答者数 7 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7						5.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	7						5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	7						5.0
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	7						5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	7						5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	7						5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	7						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	3					4.6
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7						5.0



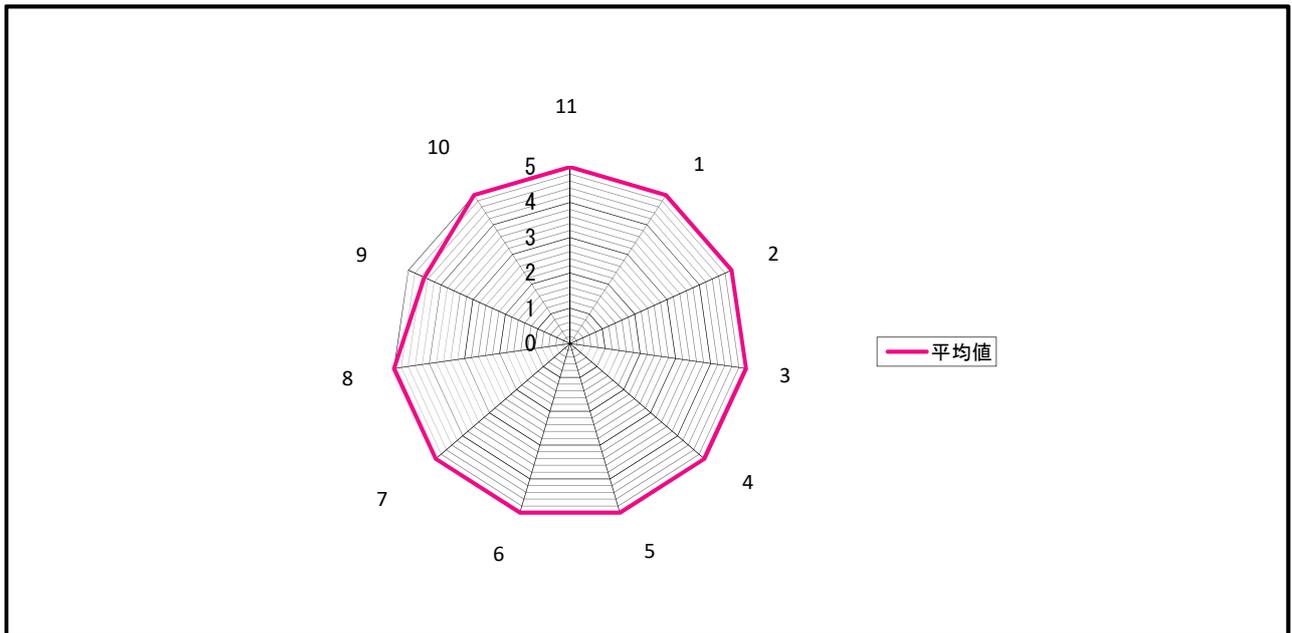
教員のコメント

本授業では、「語彙とは何か」という問題提起を出発点とし、語彙の計量や語の出自など様々なトピックについて理解を深めることで、日本語学習者に対して適切な語彙指導ができるようになることを目標とした。授業評価アンケートの自由記述の項目では、「授業の見通しが明確に示されており、現在の学習が全体のどの位置にあるのか知ることができました。」「講義形式の授業のみならず、学生同士のプレゼンテーションのように学んだ内容を活用することができる場合があり、より理解を深めることができました。」など、授業運営・授業方法を高く評価する声が多く見られた。一方で、質問項目の「(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。」の回答結果を見ると、自身の授業への取り組みの姿勢が十分ではなかったと評価している学生が比較的多かったようなので、今後の参考としたい。

結果報告書

授業科目名 国語科授業演習
 評価実施日 平成30年2月15日
 担当教員名 幾田 伸司 回答者数 4 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4						5.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	4						5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4						5.0
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	4						5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	4						5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	4						5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3		1				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4						5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4						5.0



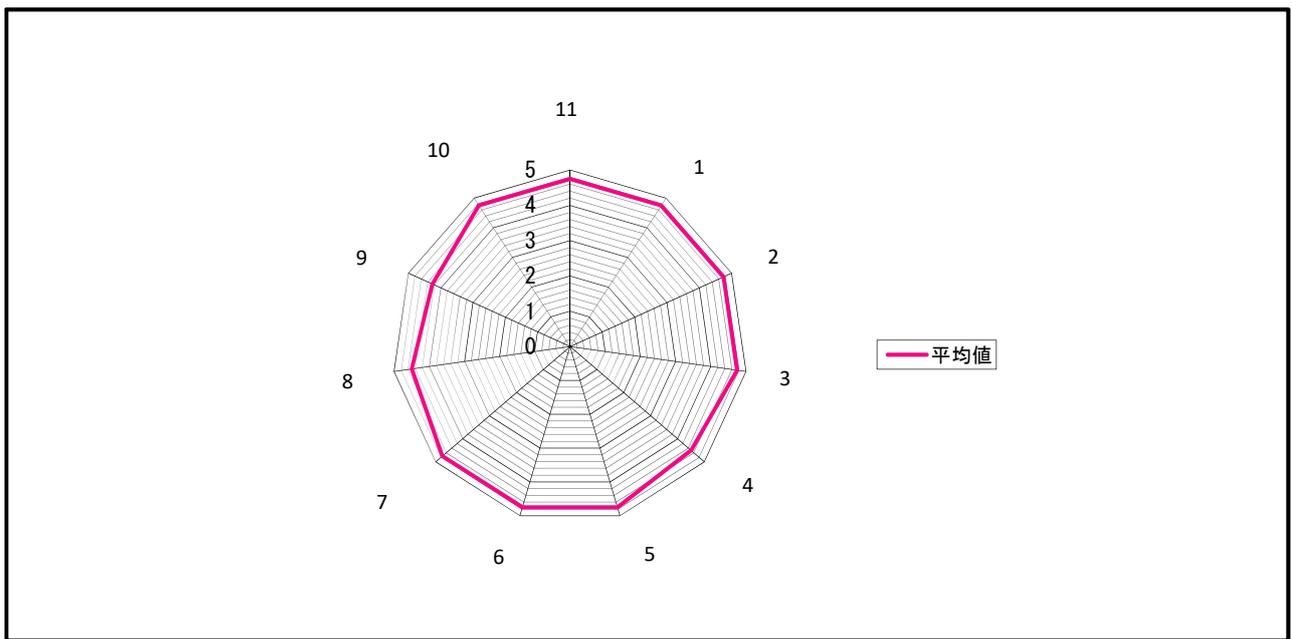
教員のコメント

受講者が少なかったことありますが、高い評価をいただきました。受講者のコメントには、積極的に質問することができた、自分から興味を持って活動できた、などがありました。少人数だったので話しやすかったというメリットはありますが、受講した皆さんが主体的に取り組んだので、授業全体に対する満足度も高くなったのだと思います。授業者としても、いろいろな疑問が出されたので議論を進めやすく感じていました。受講者の方それぞれが持っている国語科授業に対する知識や考え方は異なりますが、それぞれの立場からいろいろな意見が出てきて、よい議論ができたと思います。視聴覚機器は使わなかったのですが、資料の提示の仕方などは引き続き課題とし、今後も工夫していきたいと考えています。

結果報告書

授業科目名 国語科教材開発演習
 評価実施日 平成30年2月14日
 担当教員名 余郷 裕次 回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	1				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	1				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	1				4.8
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	2	2				4.5
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	1				4.8
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	3	1				4.8
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	3	1				4.8
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	2	2				4.5
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	1	1			4.3
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1				4.8
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	1				4.8



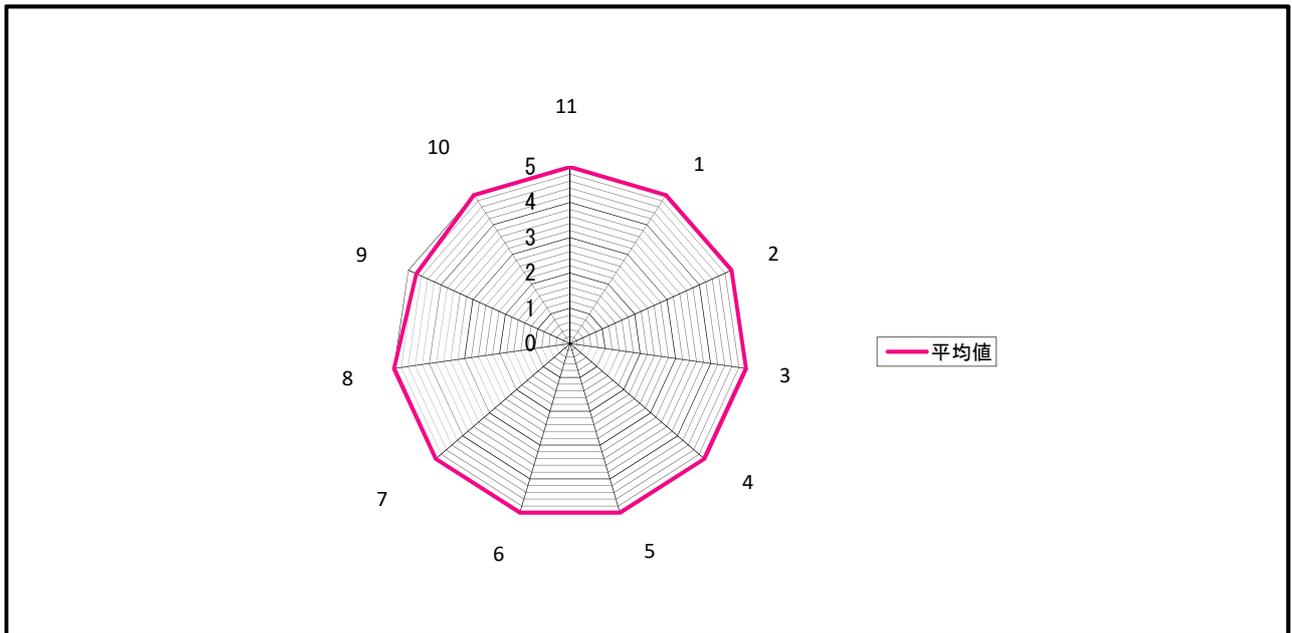
教員のコメント

「総合評価」は、4.8の高得点評価であった。本年度も受講生が4名と少ないことが一番の課題である。今後も、言語系コース(国語)の定員確保と合わせて受講生の増加に取り組みたい。
 全体として高い評価が得られたのは、受講生の興味関心に即した研究テーマを設定して、演習発表形式で授業を進めたことによると考えられる。受講生が少ないこともあり、1人の受講生が1コマを使って、自身の研究を発表し、他の受講生からの質疑等にも十分な時間が使えたことは幸いであった。しかも、1人当たり3回の演習を担当し、自身の研究が深まるとともに、他の受講生の研究についても認識を拡大・深化することができたのも成果である。
 今後も、受講生のニーズを大切にしつつ、学生の興味関心に即した国語科教材開発演習の授業を心がけたい。

結果報告書

授業科目名 日本語教育法演習
 評価実施日 平成30年2月6日
 担当教員名 廣田 知子 回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4					5.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブラーニングが、実施されていた。	4					5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4					5.0
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	4					5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	4					5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	4					5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4					5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4					5.0



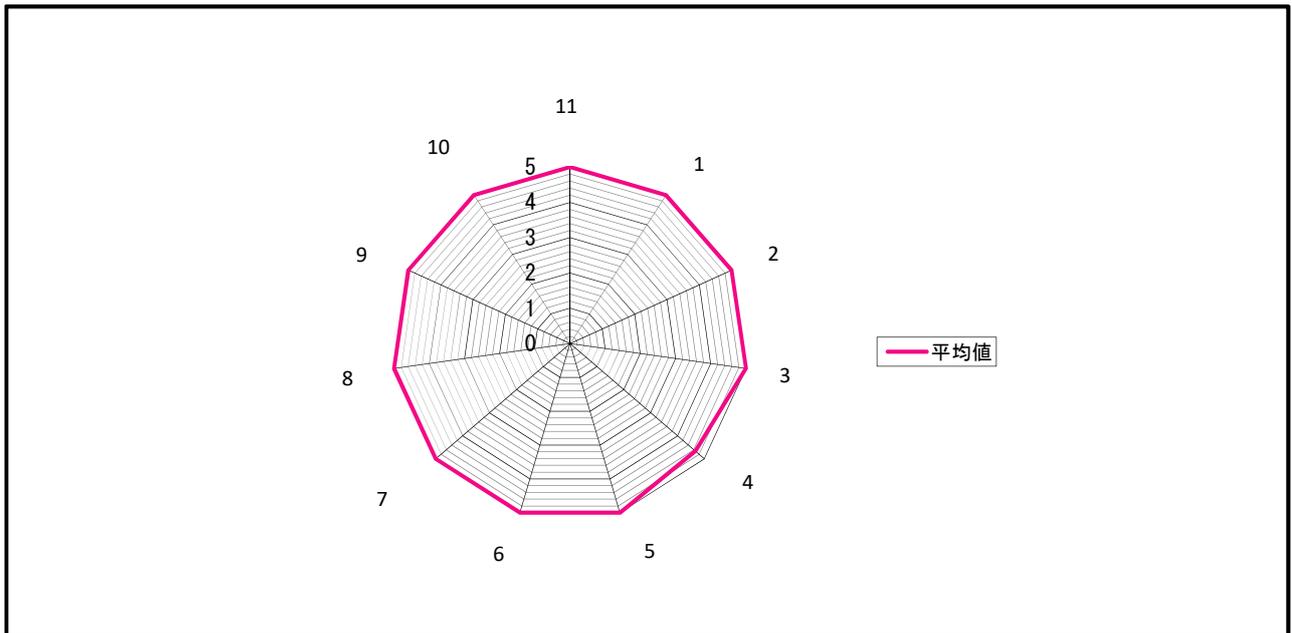
教員のコメント

教育学演習と同じく視聴覚機器に関しては、扱いに慣れていない点多々あり、反省しています。今後きちんと自分で勉強して、新しい機器にも対応していきたいと思っております。

結果報告書

授業科目名 英米文化研究Ⅲ(言語文化研究)
 評価実施日 平成30年2月14日
 担当教員名 宮崎 隆義 回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3					5.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	2	1				4.7
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3					5.0
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	3					5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	3					5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	3					5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3					5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3					5.0



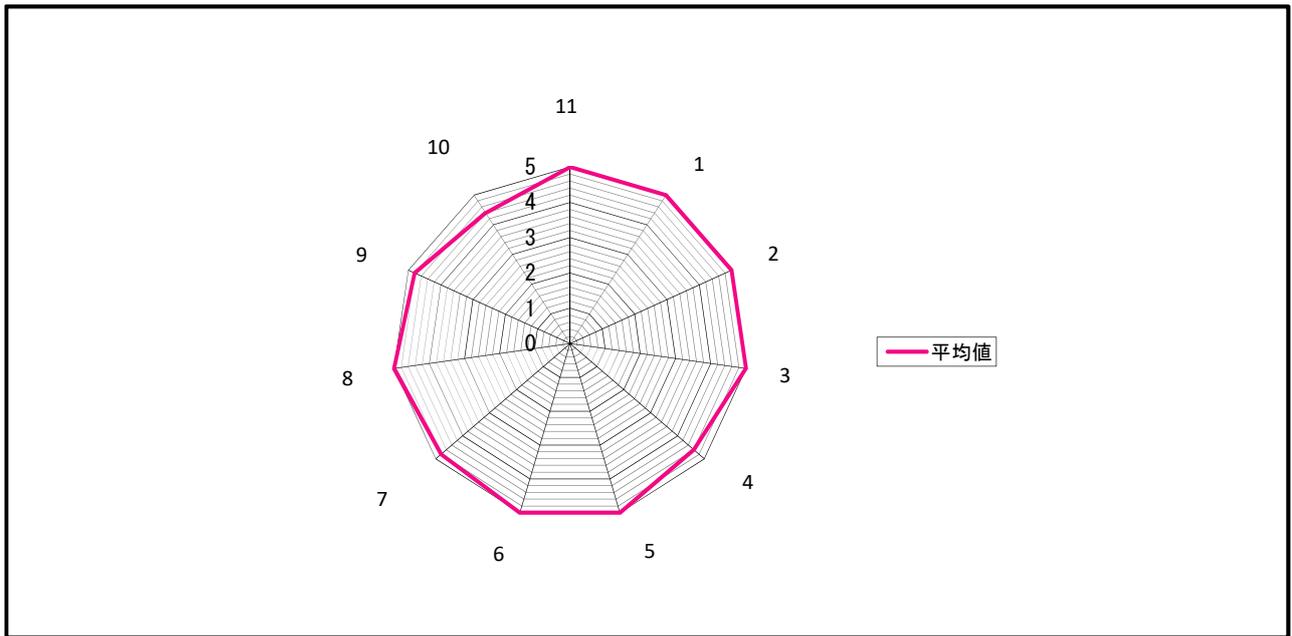
教員のコメント

受講生が3名と少数であったが、意欲的な受講生ばかりであったので、教員としても授業のやりがいがありました。アクティブ・ラーニングということについては、授業の中で、相互に意見を交換できればと考えていたので、取り立ててこれがアクティブ・ラーニングの部分ですと言う必要もないと考えておりました。そのあたりもう少し受講生の立場に立って考え説明しておけばよかったと思います。

結果報告書

授業科目名 英米文学応用演習 I
 評価実施日 平成30年2月15日
 担当教員名 前田 一平 回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5					5.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブラーニングが、実施されていた。	3	2				4.6
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5					5.0
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	5					5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	4	1				4.8
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	5					5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1	1			4.4
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5					5.0



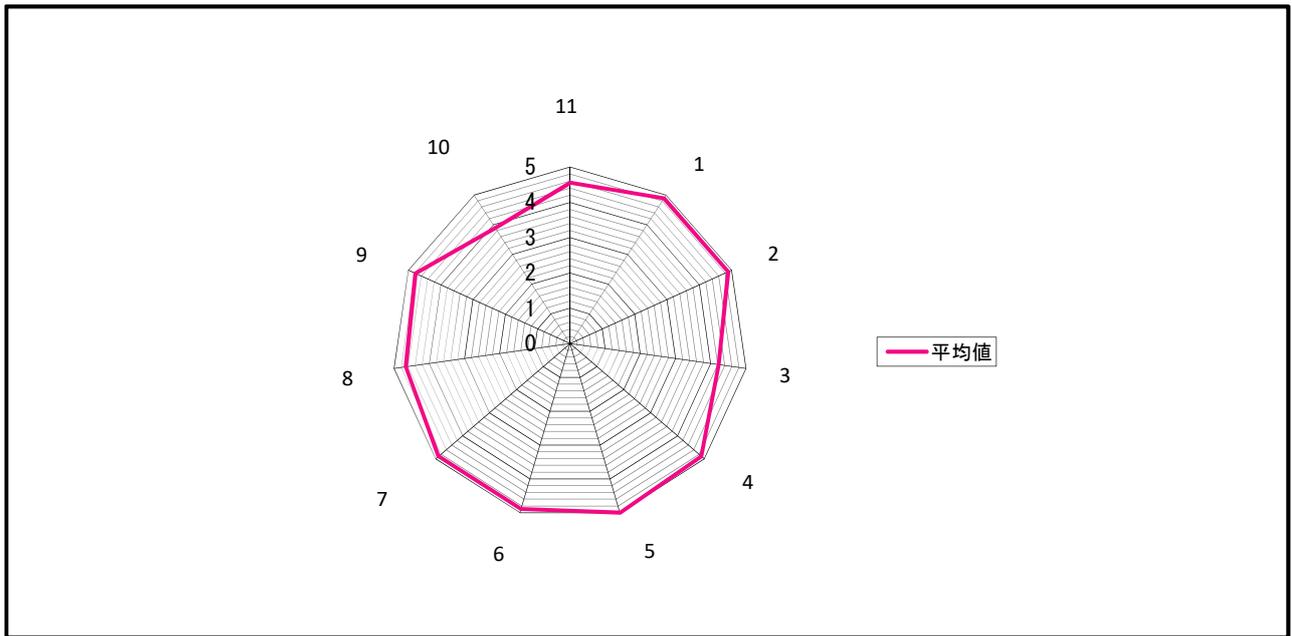
教員のコメント

特にコメントすることはない。少ない受講生ながら、きわめて高い評価を受けたことは教育者として自信となる。総合評価も5であるので、特に反省ないしは修正の必要はないと思われる。記述回答も好意的なものばかりであった。特に、英語教員を目指す学生たちは、ややもすると文学を軽視する傾向があるが、本授業を聴講し、文学の面白さ、文学の教育的意義を認識したという記述が多く、本授業の教育的効果と影響力を再認識した。

結果報告書

授業科目名 学習英文法演習 I
 評価実施日 平成30年1月31日
 担当教員名 眞野 美穂 回答者数 9 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	8	1				4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	1				4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	4		1		4.2
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	8	1				4.9
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	9					5.0
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	8	1				4.9
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	8	1				4.9
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	6	3				4.7
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	7	2				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	6	2			3.9
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5	4				4.6



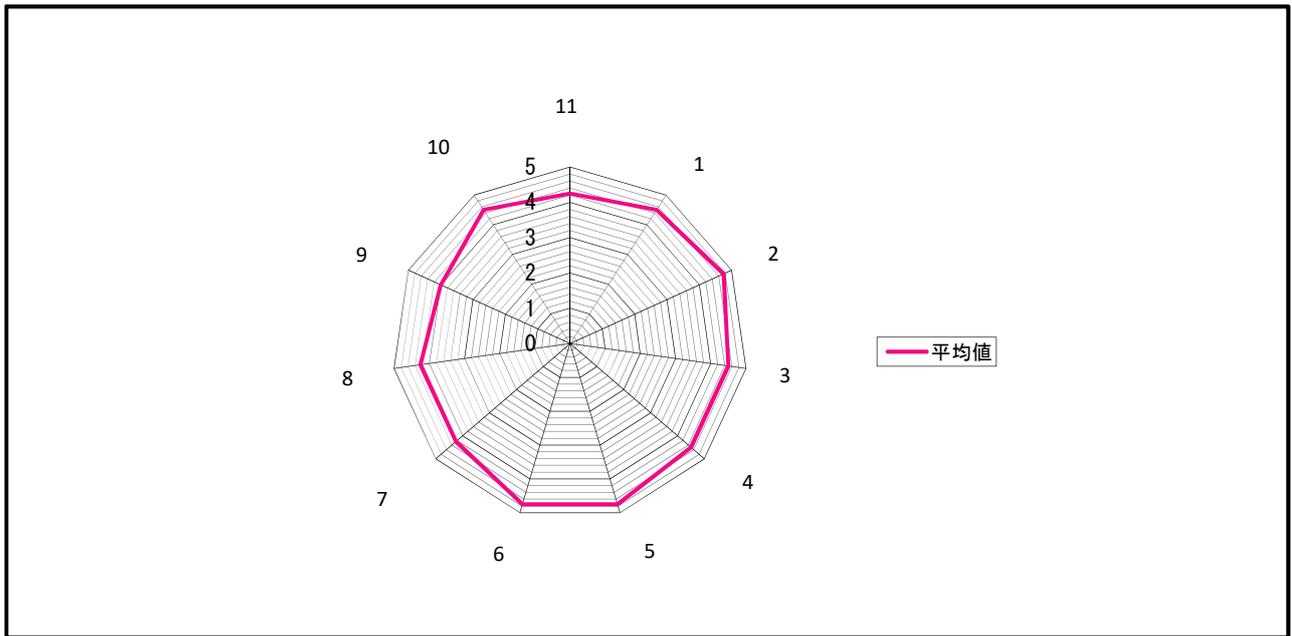
教員のコメント

概ね高い評価が得られたと考えているが、自由記述部分から、テキストの難しさについてのいくつか意見が得られた。数年間同じ教科書を使用しているが、学生の動向を見て、もう少し難度を下げたものにする必要があるかもしれない。そのことが主体的な取り組みのところにも反映していることが考えられる。ただ、進め方やその内容については高い評価が得られたため、テキストについては今後の検討課題としたい。

結果報告書

授業科目名 学習英文法演習Ⅱ
 評価実施日 平成30年2月2日
 担当教員名 藪下 克彦 回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	2				4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	1				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	2				4.5
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブラーニングが、実施されていた。	2	2				4.5
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	1				4.8
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	3	1				4.8
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	2	1	1			4.3
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	2	1	1			4.3
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2		2			4.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3		1			4.5
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	1	1			4.3

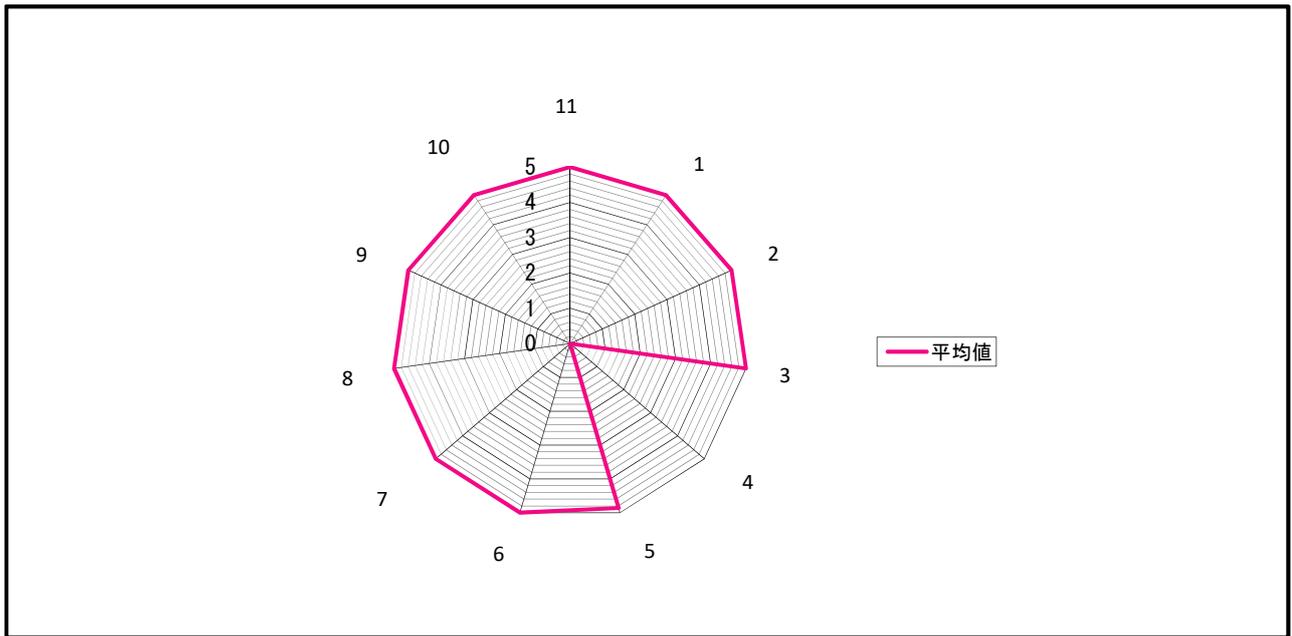


教員のコメント

結果報告書

授業科目名 小学校英語内容構成論
 評価実施日 平成30年1月30日
 担当教員名 畑江 美佳 回答者数 7 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7					5.0
	(4)授業では、シラスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。						#####
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6	1				4.9
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	7					5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	7					5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	7					5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	7					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7					5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7					5.0



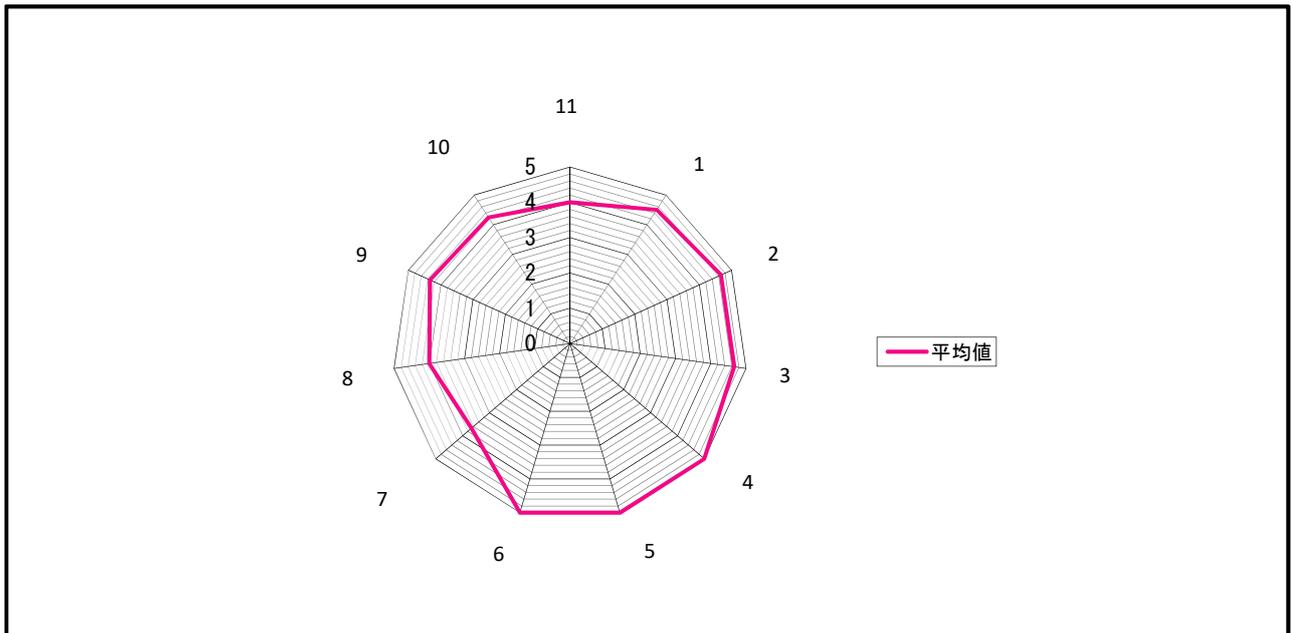
教員のコメント

アクティブラーニングについての質問の入っていない調査用紙を使ったため、その部分の数値が反映されていないが、それ以外の質問に対しては、殆どが5.0、1つだけ4.9であり、満足のいく授業であったといえる。自由記述でも「小学校英語の最新の動向や新教材について学習内容の理解を深めたり、実践に繋がる指導や教材の工夫の仕方について学ぶことができた」というような記述が多く、「小学校英語内容構成論」として授業が成り立っていたといえる。

結果報告書

授業科目名 初等中等英語科教育演習 I
 評価実施日 平成30年2月16日
 担当教員名 石濱 博之 回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3		1			4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	1				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	1				4.7
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブラーニングが、実施されていた。	3					5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4					5.0
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	3					5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	1	1		1		3.7
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	2			1		4.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	2				4.3
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	3				4.3
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	1		1		4.0



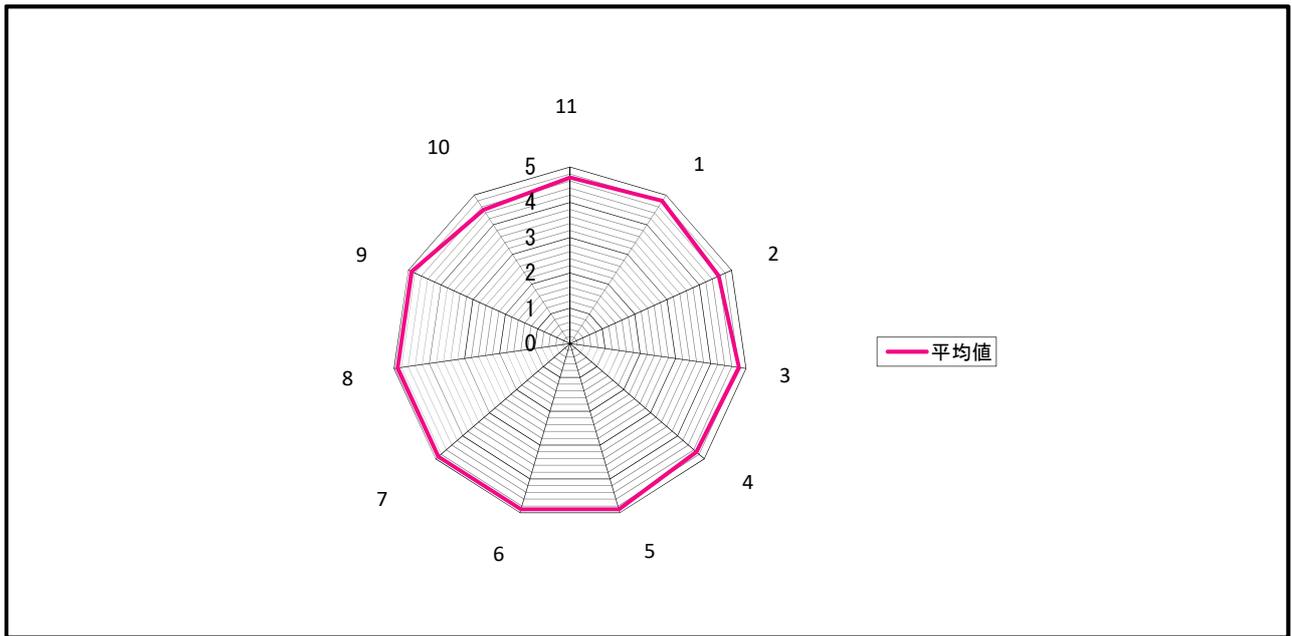
教員のコメント

4名中の3名の受講生は、全体として授業の内容を好意的にとらえているが、1名の受講生は、否定的(2)にとらえている。実際に、毎時間、演習形式で取り組むことができるようにプリンティングマテリアルも準備して、それを使い、1つ1つの手法を示していった。1名の受講生に、どのようなところが、評点2なのか問うてみたい。そのような意味で、記名式で自己評価をしてほしい。記名式で自己評価をさせる時期にきているのではないだろうか。授業改善を指向する自己評価の枠組みになっていないと思う。「受講生の自己中のような評価については、絶対に許さない。」

結果報告書

授業科目名 初等中等英語科教育演習Ⅱ
 評価実施日 平成30年2月14日
 担当教員名 山森 直人 回答者数 10 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	8	2				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	2	1			4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8	2				4.8
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	7	3				4.7
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	9	1				4.9
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	9	1				4.9
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	9	1				4.9
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	9	1				4.9
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	9	1				4.9
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	5				4.5
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	8	1	1			4.7



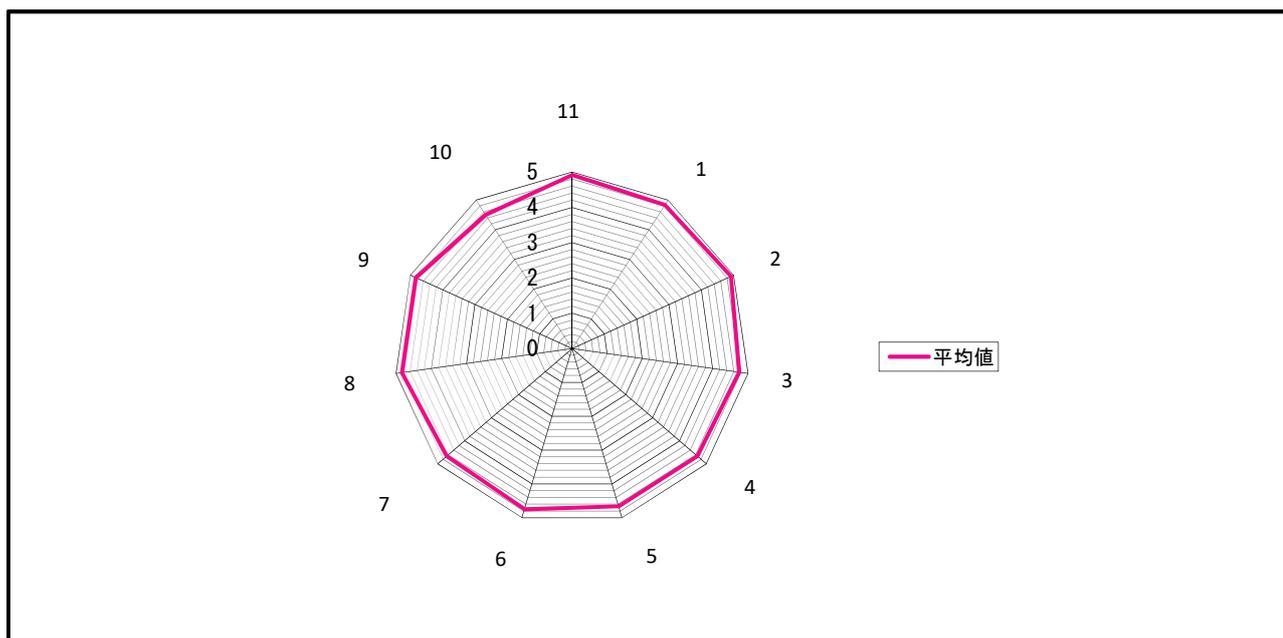
教員のコメント

質問項目(1)から(10)の平均値が4.5以上であり、総合評価が4.7であることを考慮すると、本授業は受講生から高い評価を得たと言える。今後の改善点としては、質問項目(10)「授業に主体的・積極的に取り組んだ。」の評定が5と4に半々に分かれた状況をふまえ、学生の主体的・積極的な学びを促すために、授業の進め方に工夫をこらしたい。具体的には、これまで以上に受講生との対話を軸に授業を展開したいと考える。

結果報告書

授業科目名 教科内容構成(英語科)
 評価実施日 平成30年2月6日
 担当教員名 藪下 克彦,前田 一平,真野 美穂 回答者数 12 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	10	2				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	11	1				4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	9	3				4.8
	(4)授業では、シラスに示されたアクティブラーニングが、実施されていた。	8	4				4.7
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	8	4				4.7
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	9	3				4.8
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	8	4				4.7
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	10	2				4.8
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	10	2				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	4	1			4.5
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	11	1				4.9

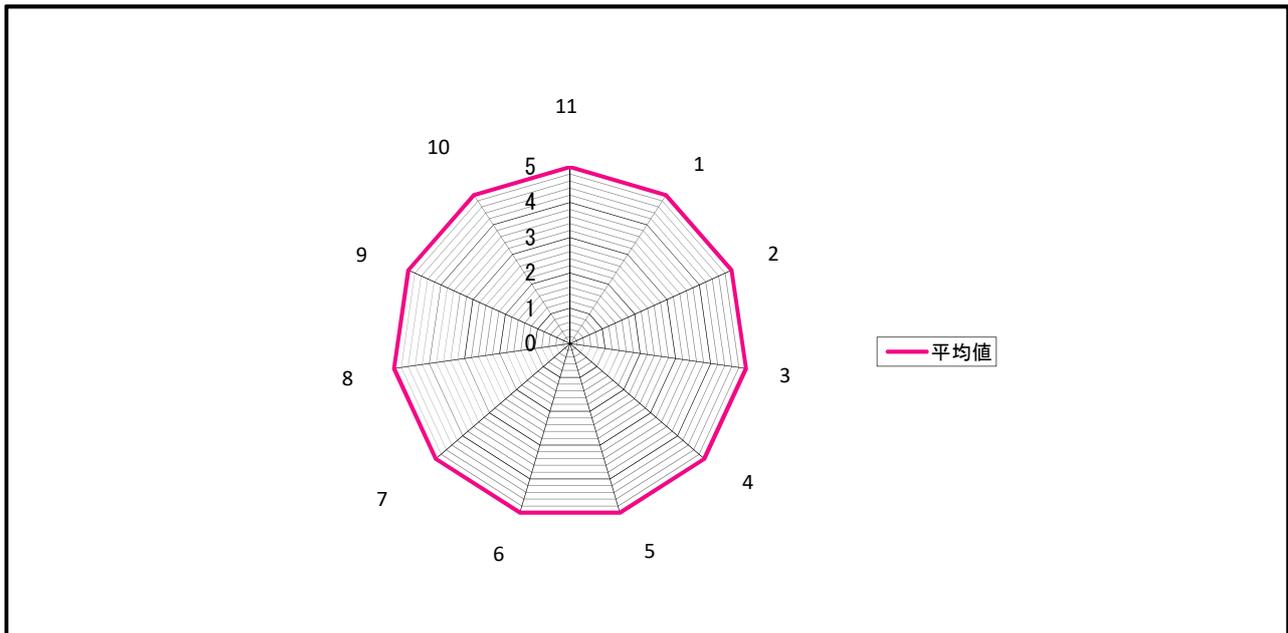


教員のコメント

結果報告書

授業科目名 歴史学演習 I
 評価実施日 平成30年2月5日
 担当教員名 長谷川 賢二 回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0

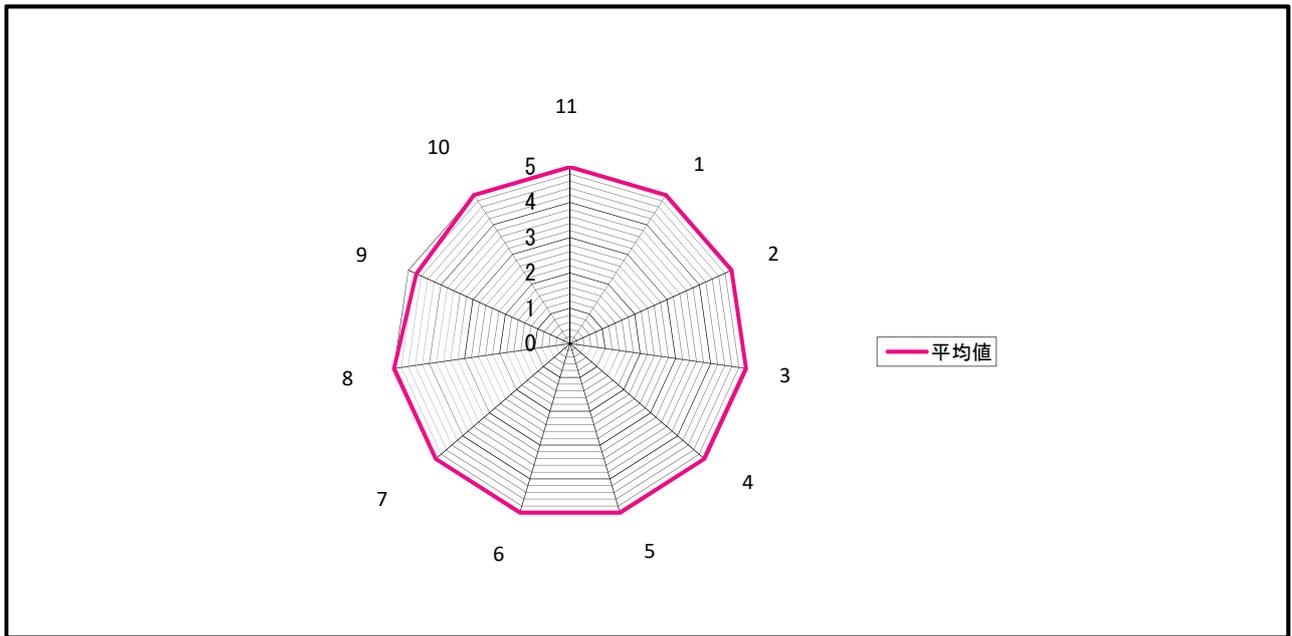


教員のコメント

結果報告書

授業科目名 歴史学演習Ⅱ
 評価実施日 平成30年2月8日
 担当教員名 町田 哲 回答者数 4 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4						5.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	4						5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4						5.0
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	4						5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	4						5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	4						5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	1					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4						5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4						5.0



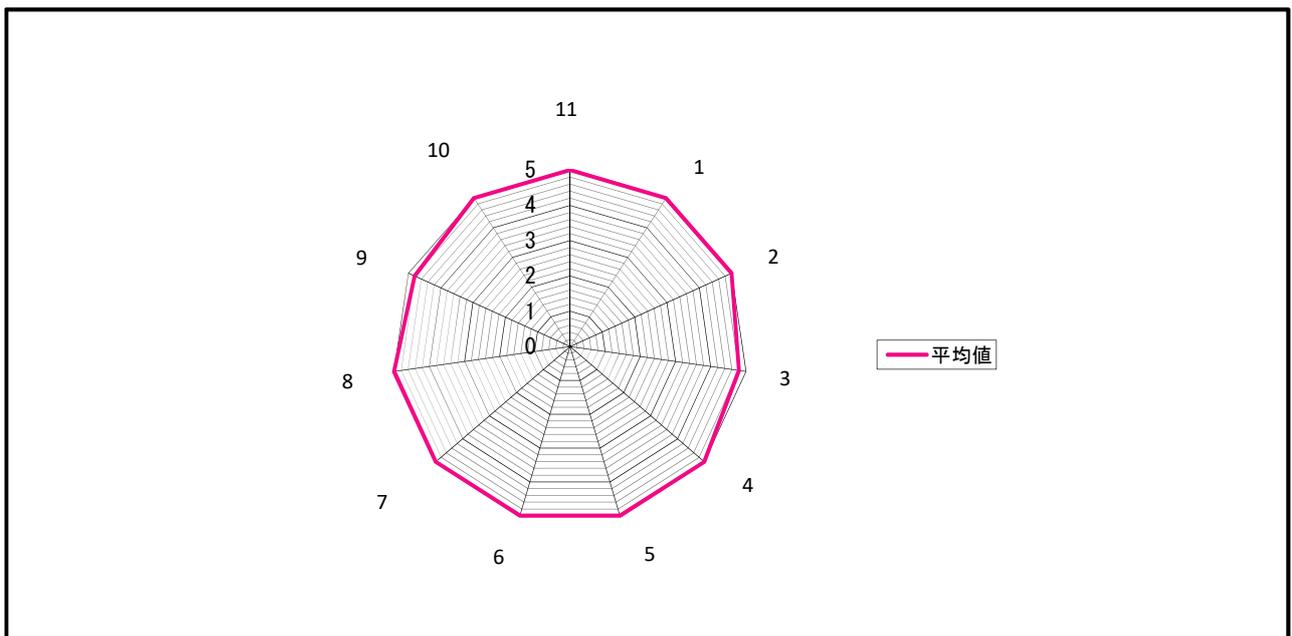
教員のコメント

2017年度の歴史学演習は、近世・近代の民衆をいかに理解するかをテーマに開講した。具体的には、近世都市史研究における吉田伸之・塚田孝等の社会を「集団の重層と複合」や社会的権力等を軸として捉える視点を学ぶ一方、後半では近代・近世の民衆思想の形成過程に迫る安丸良夫の論文や牧原憲夫の著書を通じて、異なる社会理解を参照軸に、その方法論を学びとる機会とした。受講生は毎週、該当する論文を読み込んだ上で参加し、また既読論文との関係も含めてコメントをうけ、議論に参加することができていた。こうした受講生の努力により、その方法論や歴史をみる眼が鍛えられたことが、高評価に反映したものと考えられる。今後も、良質の論文を読み進めながら、歴史理解の方法について探求していきたい。

結果報告書

授業科目名 歴史学演習Ⅲ
 評価実施日 平成30年2月15日
 担当教員名 原田 昌博 回答者数 5 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	1					4.8
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブラーニングが、実施されていた。	5						5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5						5.0
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	5						5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	5						5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	5						5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	1					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5						5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5						5.0



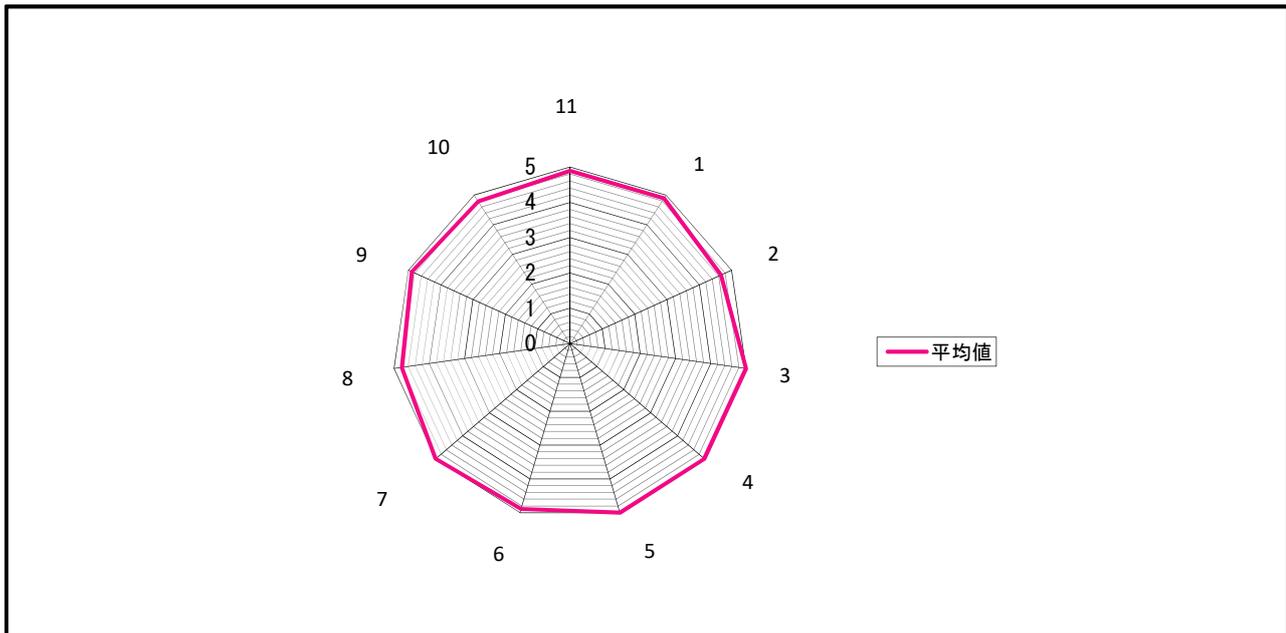
教員のコメント

本授業は受講者が決められたテキストの内容を毎週輪番で報告し、それに基づいてディスカッションする形で進められ、さらに、受講者はテキスト以外にも追加的に配布される関連論文も読んでテーマに対する理解を深めた。2017年度はJ・ハーバーマス『公共性の構造転換(第2版)』(未来社)をテキストとした。非常に難解な内容ではあったが、受講者数5名は全員が毎週丁寧にテキストを読んで議論に参加していた。ほぼすべての質問項目が「5」の評価となっており、授業担当者として概ね本講義の目標を達成できたのではないかと考えている。例えば、質問2で全員が「5」と評価していることから、受講者にとって本授業が歴史学(外国史)の専門的知識を習得にするうえで役立つものであったこと、また質問10でも全員が「5」と評価している点から、受講者が本授業に満足していたことが言えるであろう。

結果報告書

授業科目名 地理学研究 I
 評価実施日 平成30年2月5日
 担当教員名 畠山 輝雄 回答者数 9 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	8	1					4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	1	1				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	9						5.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブラーニングが、実施されていた。	9						5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	9						5.0
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	8	1					4.9
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	9						5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	7	2					4.8
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8	1					4.9
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	2					4.8
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	8	1					4.9



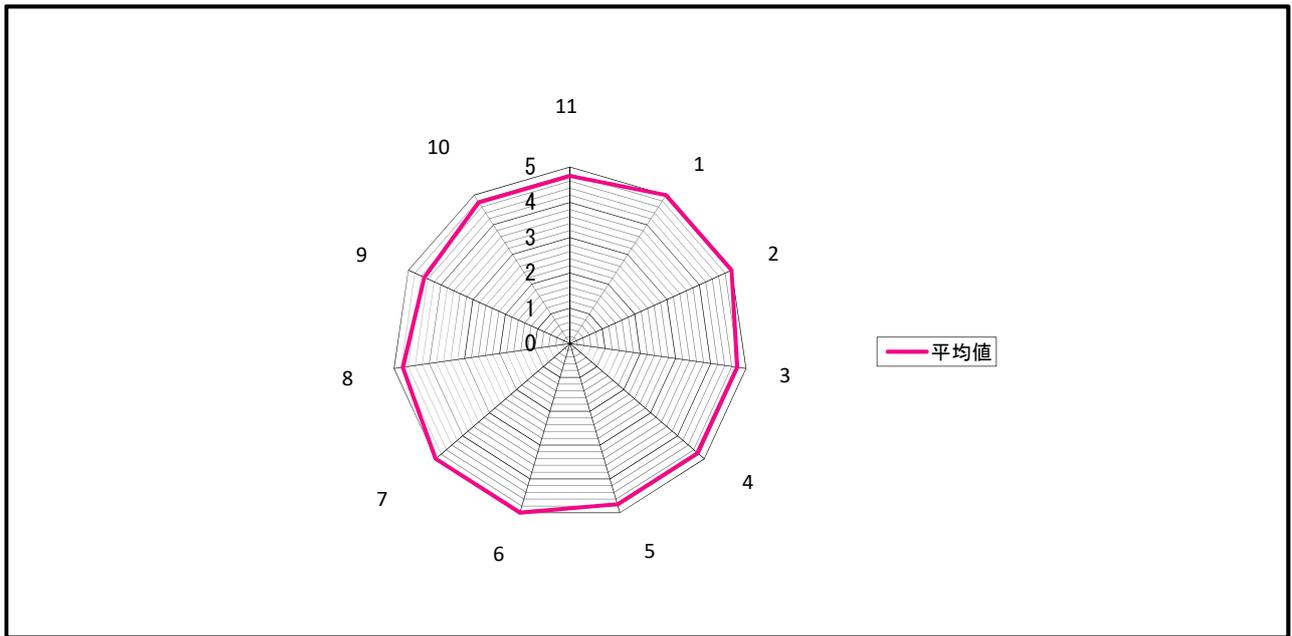
教員のコメント

大学院生からの授業評価について、おおむね良好であると考えている。院生に常に考えさせながら授業をすることを心がけたため、アクティブラーニングに関して評価が良好だったことはよかったといえる。今後も、さらに授業内容や方法をブラッシュアップし、大学院生により考えさせる授業とすることを心がけたい。

結果報告書

授業科目名 法学・政治学演習
 評価実施日 平成30年2月6日
 担当教員名 麻生 多聞 回答者数 4 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	1					4.8
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	3	1					4.8
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	1					4.8
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	4						5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	4						5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	1					4.8
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3		1				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1					4.8
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	1					4.8



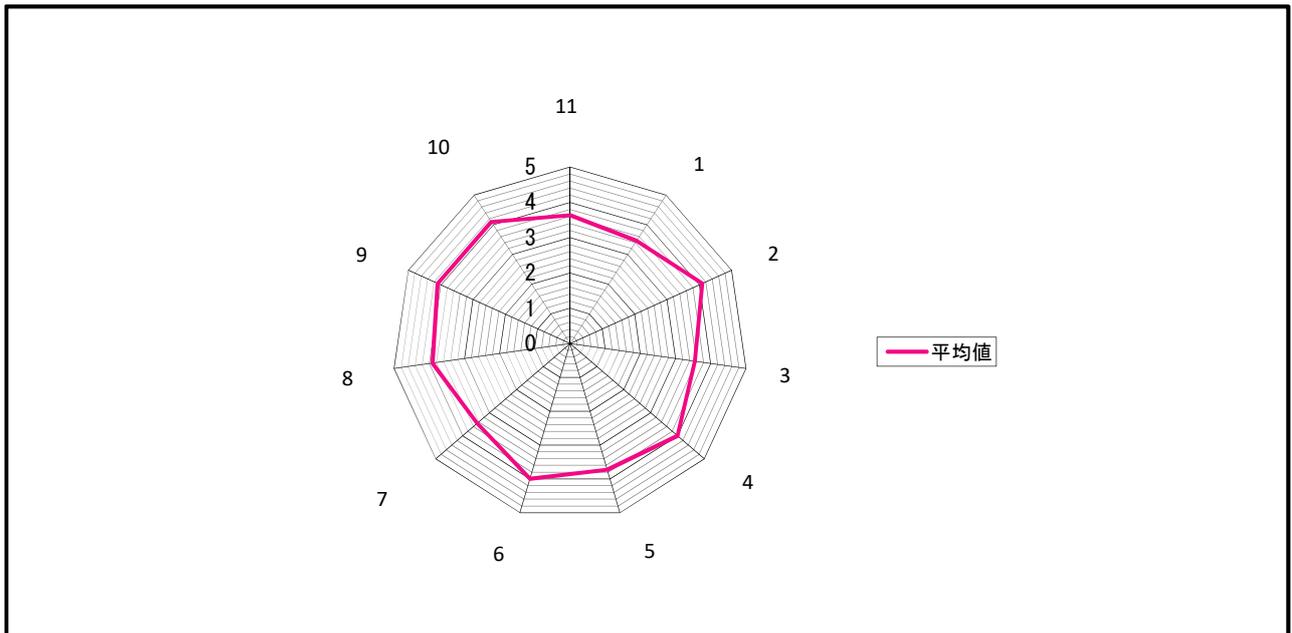
教員のコメント

2017年度後期の「法学・政治学演習」では、松井芳郎『国際法学者がよむ尖閣問題』（日本評論社、2014）の講読を行った。高度に法学的な内容が含まれており、最後まで読み通すことが出来るかどうか心配しましたが、演習初回で学生諸君が主体的に本書を読むべき文献として選択したことを尊重し、演習を進めることとなった。結果的に、履修者全員が毎週しっかりと予習をこなしており、文献の内容をめぐって議論を深め、演習として成功させることが出来たように思う。履修者全員に感謝する次第である。

結果報告書

授業科目名 現代の諸課題と社会認識教育
 評価実施日 平成30年2月14日
 担当教員名 井上 奈穂 回答者数 11 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	2	4	1	1	3.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	4	1		1	4.1
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	1	4	1	1	3.5
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	4	4	2	1		4.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	2	3	2		3.7
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	5	2	3	1		4.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	4	1	3	2	1	3.5
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	5	2	3		1	3.9
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	5	1	1		4.1
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	6	2			4.1
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	3	1	2	1	3.6



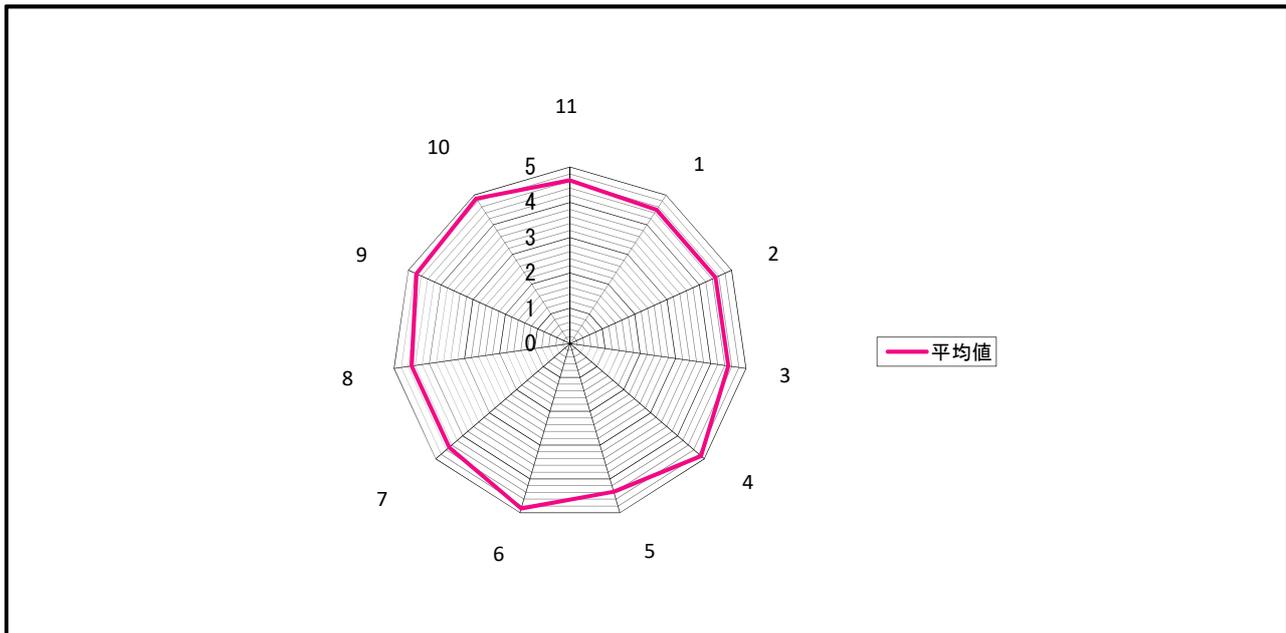
教員のコメント

前期の演習との関連性が強かったにもかかわらず、後期からの受講生が多かったために授業の意義が十分に伝わっていない状況があったかと思えます。次回は、前期、後期とそれぞれに関連付けないようにしていくことにより、改善を図る。

結果報告書

授業科目名 社会科教材開発演習 I (地理領域)
 評価実施日 平成30年2月16日
 担当教員名 伊藤 直之 回答者数 8 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5	2	1			4.5
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	2	1			4.5
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	4				4.5
	(4) 授業では、シラスに示されたアクティブラーニングが、実施されていた。	7	1				4.9
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	3	1			4.4
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	7	1				4.9
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	5	2	1			4.5
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	4	4				4.5
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6	2				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	1				4.9
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5	3				4.6



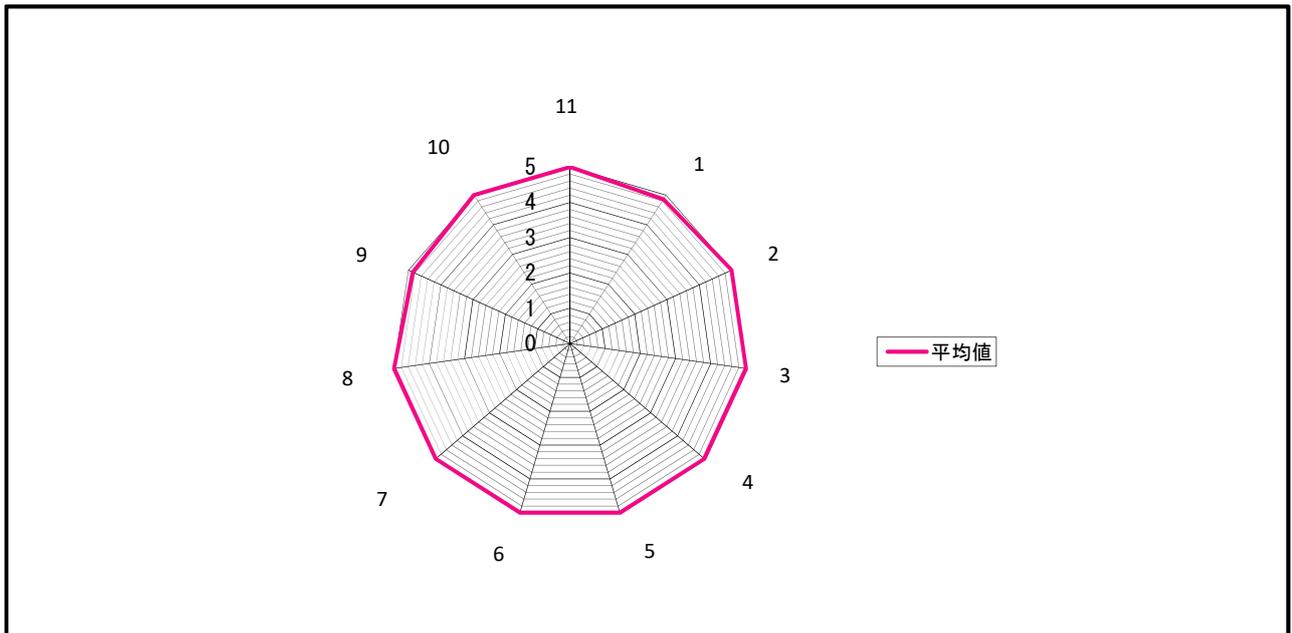
教員のコメント

総じて好評価が得られたが、成績評価方法の説明の点で課題があるように思われた。
 次年度は、評価規準をより明確化することに努めたい。

結果報告書

授業科目名 社会科教材開発演習Ⅱ(歴史領域)
 評価実施日 平成30年2月15日
 担当教員名 梅津 正美 回答者数 7 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6	1				4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7					5.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	7					5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	7					5.0
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	7					5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	7					5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	7					5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6	1				4.9
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7					5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7					5.0



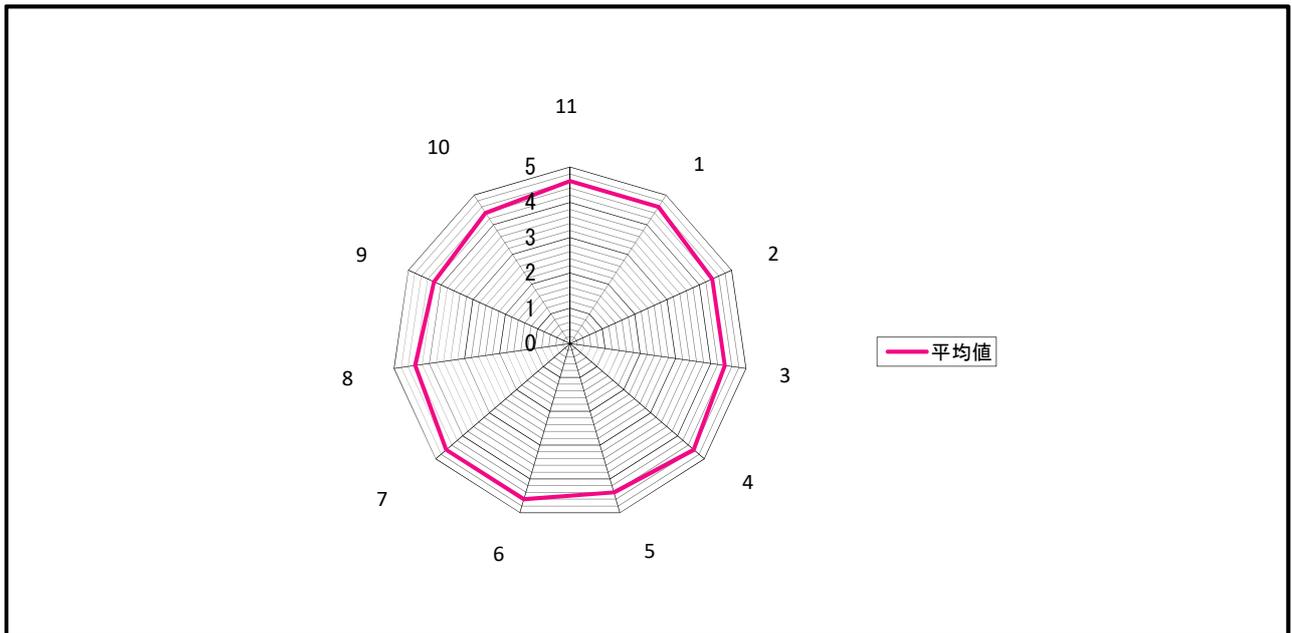
教員のコメント

本授業は、新学習指導要領の授業改善の趣旨を踏まえて、「アクティブ・ラーニング」としての歴史学習の方法と教材開発の事例研究を行った。指導要領の改訂の趣旨を理論的に読み込んだ上で、実践の場で役立つ歴史学習の展開について検討したことが、これから教壇に立つ受講生のニーズと合致し、高い評価につながったと思われる。

結果報告書

授業科目名 代数学演習
 評価実施日 平成30年2月16日
 担当教員名 平野 康之 回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	2				4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	3				4.4
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	3				4.4
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	3	2				4.6
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	3				4.4
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	3	2				4.6
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	3	2				4.6
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	2	3				4.4
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	2	1			4.2
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1	1			4.4
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	2				4.6



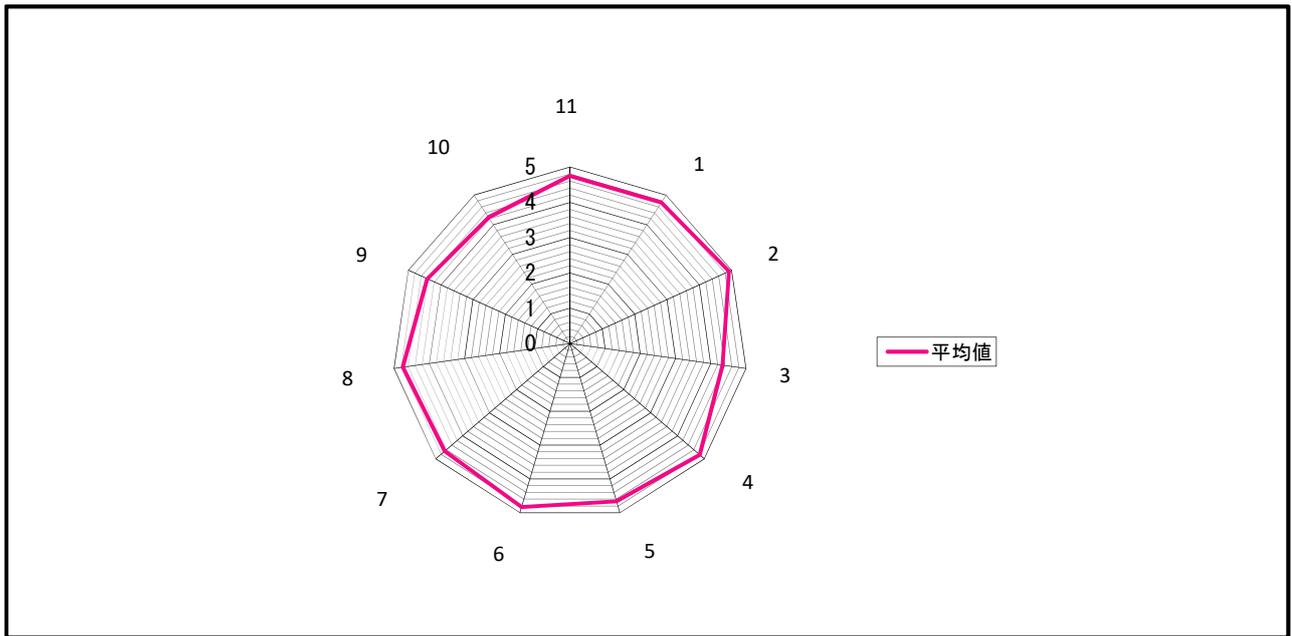
教員のコメント

すべての質問項目について、平均値が4.2以上の評価が出ており、特に質問項目[1][4][6][7]に対しては、平均値4.6の評価であった。総合評価の平均値の4.6であることから、本授業科目の目的はおおむね達成されたと評価できる。一方で、質問項目[9][10]に対し、3を選択した学生が1名ずついた。今後は、板書や視聴覚機器の適切な使用に心掛け、受講生が授業に主体的・積極的に取り組めるような工夫が重要であると思う。

結果報告書

授業科目名 幾何学研究
 評価実施日 平成30年2月6日
 担当教員名 松岡 隆 回答者数 12 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	9	3					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	11	1					4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	4	2				4.3
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	10	2					4.8
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	8	4					4.7
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	10	2					4.8
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	9	2	1				4.7
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	9	3					4.8
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	7	3	2				4.4
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	4	1	1			4.3
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	9	3					4.8



教員のコメント

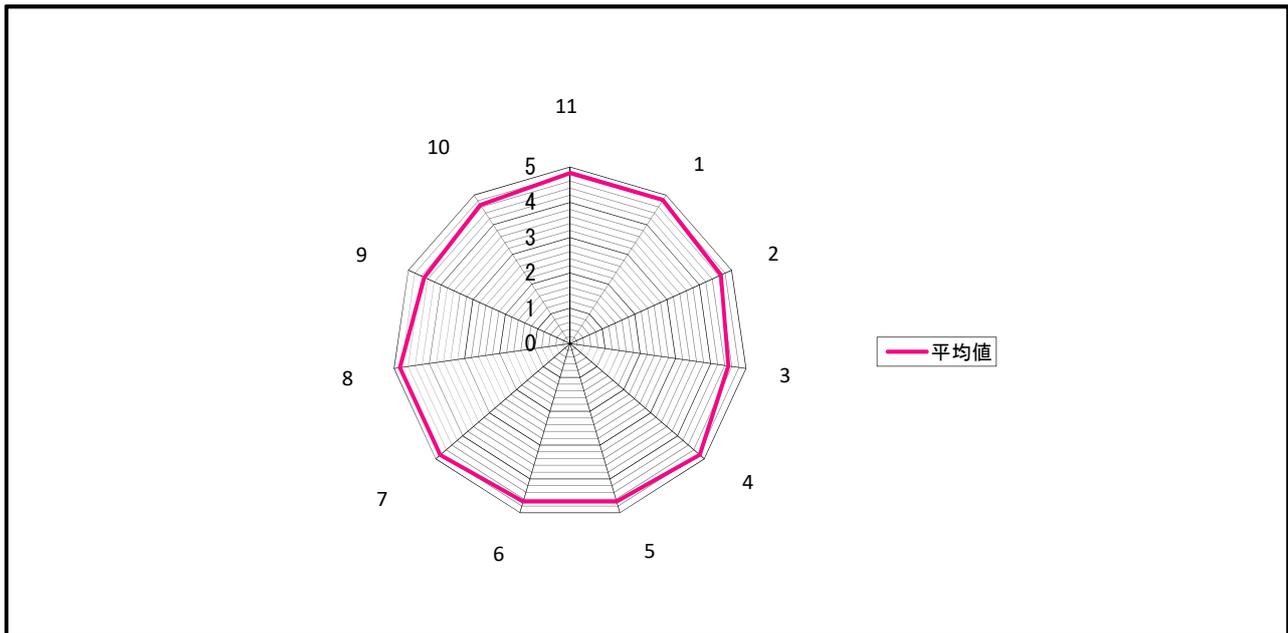
各項目の評価平均値が4.3から4.9の間で、総合評価が4.8であり、高い評価が与えられていると考える。自由記述の「よかった点」欄には以下の回答があった。「身近な折り紙やモアレについて考えた。身の周りの数学を考える良い機会であった」「身近にあるモアレを意識していなかったが、どんな物があるのか考えるようになった」「歩いていると数学がみえるようになった。ちょっとわずらわしい」「体験できる内容が多かった」「実践して確かめる活動が多く、楽しみながら受講できた」「作業・実験が多く、手を動かしながら思考し取り組むことができた」「実際に物をつかって目でみて確認できるのでわかりやすい」「主体的に取り組める授業づくりがなされていた」。

質問10の理由としては、「なぜそうなるのか必死で考えた」「活動が楽しかったのと、理解するのに必死だった」「とりくみやすい参加しやすい授業なので、発表もしやすくとりくめたとおもう」「作業や思考が伴う授業だったので、主体的に取り組めたから」(以上評価5)、「適度に自主的に問題解決に取り込んだ」「休まず出席した」(以上評価4)、「質問などに積極的に答えることができなかったから」(評価2)が挙げられていた。その他感想には「楽しかった」「お世話になりました」が書かれていた。改善点については「時々グラフの式がよく分からない」とのコメントがあった。全員が分かることをさらに徹底したい。

結果報告書

授業科目名 幾何学演習
 評価実施日 平成30年2月6日
 担当教員名 松岡 隆 回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5	1				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	2				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	3				4.5
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	5	1				4.8
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	2				4.7
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	4	2				4.7
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	5	1				4.8
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	5	1				4.8
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	3				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	2				4.7
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5	1				4.8



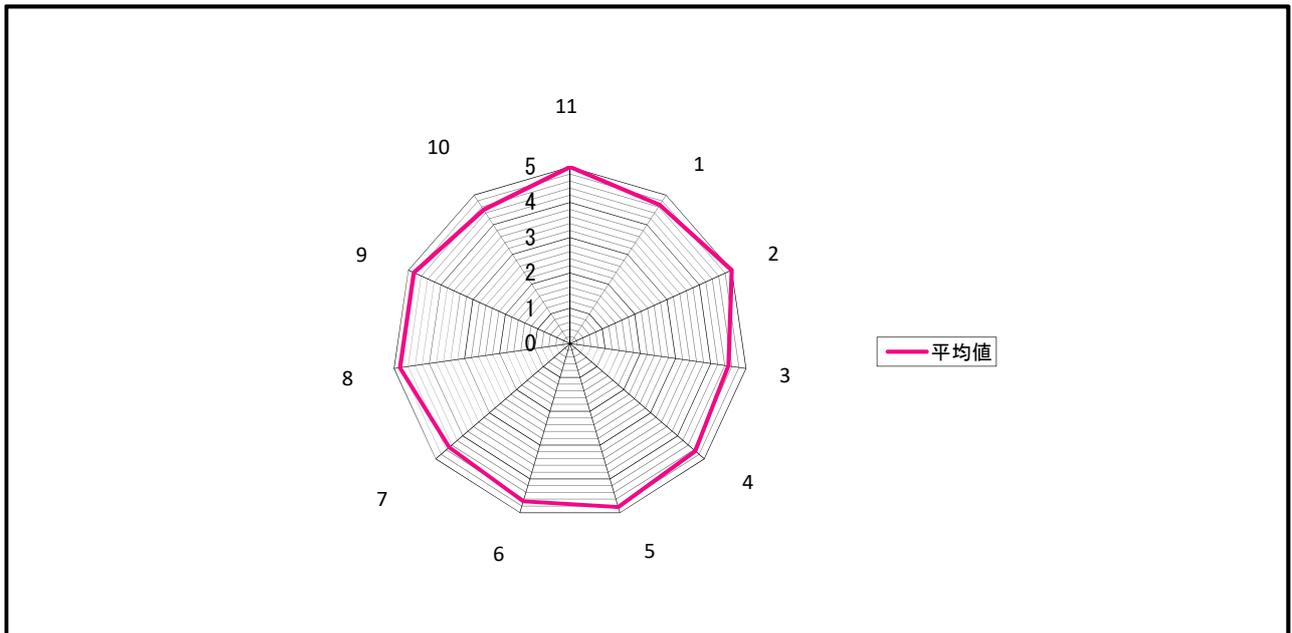
教員のコメント

各項目の評価平均値が4.5から4.8の間で、総合評価が4.8であり、高い評価が与えられていると考える。
 自由記述の「よかった点」欄には「いろいろな体験ができた」との回答1件があった。
 質問10の理由としては、「分かりやすかったから」(評価5)が挙げられていた。改善点の回答はなかった。

結果報告書

授業科目名 解析学研究
 評価実施日 平成30年2月15日
 担当教員名 成川 公昭 回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	2				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	3				4.5
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	4	2				4.7
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	1				4.8
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	4	2				4.7
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	3	3				4.5
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	5	1				4.8
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	3				4.5
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6					5.0



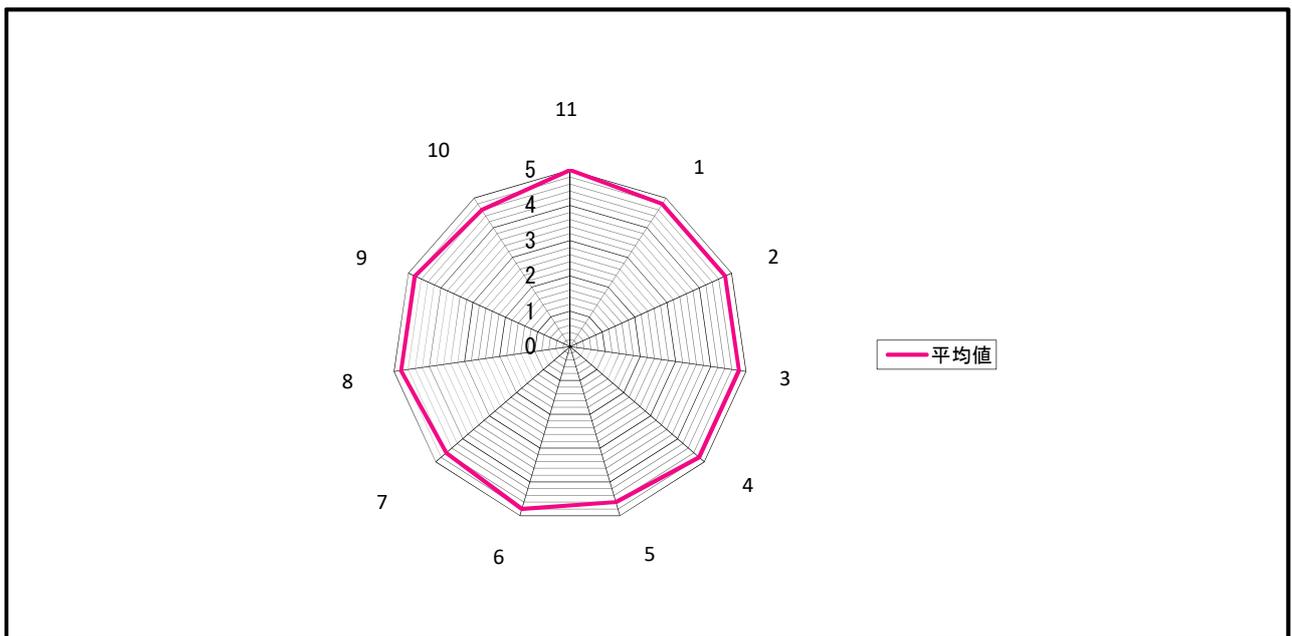
教員のコメント

全ての項目において全員が5または4の評価を出しており、期待したとおりの授業を行うことができた評価できる。専門的な内容であったが、できるだけ学校数学の関わりも視野に入れて解説を行うことにしたが、その意図が十分に伝わったと思われる。記述欄では、「面白い問題が多かった」「数学の面白い話を聞くことができてよかった」等の記述があり、受講生も数学の面白さの一端を感じることができたようである。

結果報告書

授業科目名 解析学演習
 評価実施日 平成30年2月15日
 担当教員名 成川 公昭 回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	1				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	1				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	1				4.8
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	4	1				4.8
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4		1			4.6
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	4	1				4.8
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	3	2				4.6
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	4	1				4.8
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	2				4.6
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5					5.0



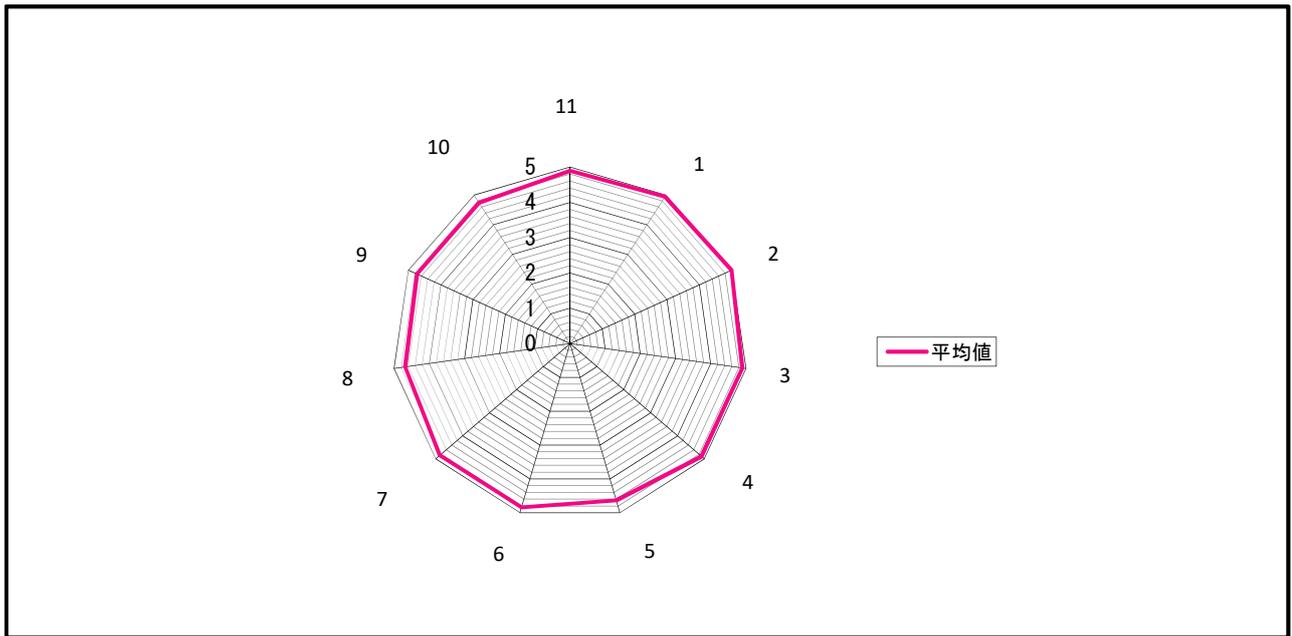
教員のコメント

解析学研究と同じく、専門的な内容と学校数学との関わりを意識して演習に取り組むよう指導した。また、演習では学生の発表を中心とすることにより学生が主体的に課題に取り組むことができるよう努めた。その結果、成績評価において1名が3の評価を下した以外は全員が4または5の評価であり期待通りの授業ができたと評価できる。特に総合評価においては全員が5であった。成績評価の方法は明確に説明したつもりであったが、1名が3を出しておりもう少し徹底した方がよかったのかもしれない。記述欄では「数学の面白い話を聞くことができてよかった。」「いろいろな内容の話が聞けてよかった。」との記載があり、学生同士がお互いに興味深い内容を調査、発表したことを表している。

結果報告書

授業科目名 数学科教育学演習
 評価実施日 平成30年2月16日
 担当教員名 秋田 美代 回答者数 19 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	18	1					4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	19						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	17	2					4.9
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	17	2					4.9
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	13	5	1				4.6
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	16	3					4.8
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	16	3					4.8
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	14	4	1				4.7
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	15	3	1				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	14	5					4.7
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	17	2					4.9



教員のコメント

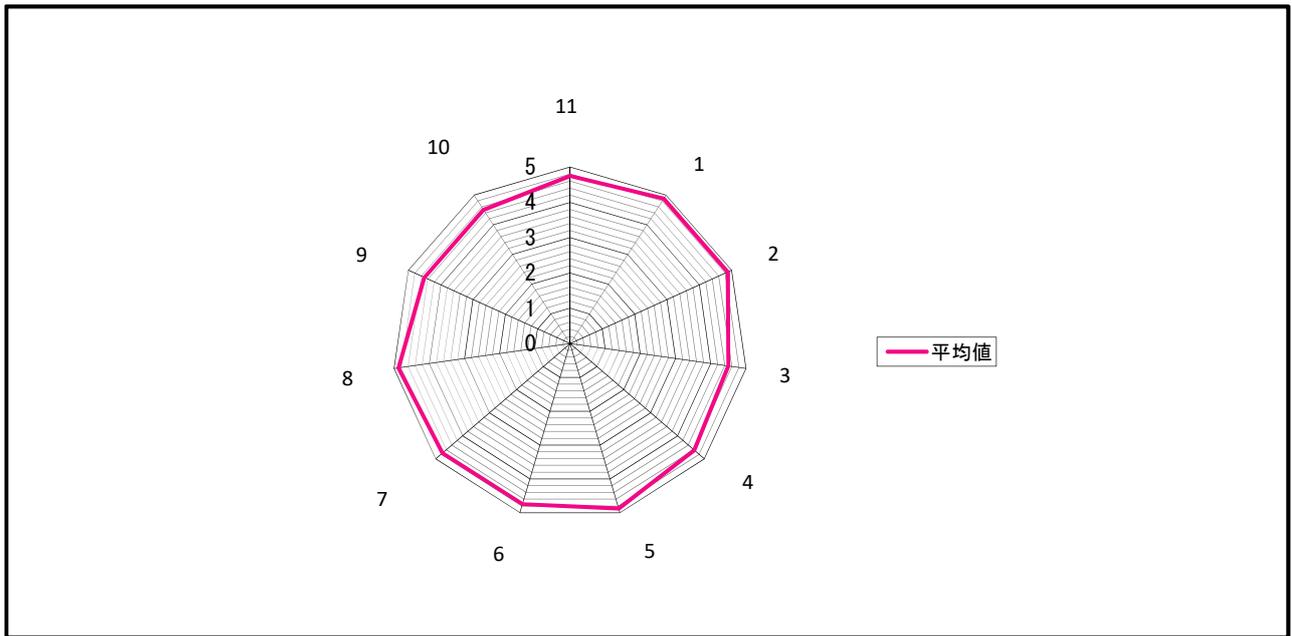
この授業科目の主な目標は、「数学科教育学研究」の授業内容を基盤として、数学科における実践的課題を探究すること、及び数学教育学の研究内容・研究方法についての理解を深めることであった。総合評価の平均値は4.9、評価の平均値が高かった質問項目は、「(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった」、「(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた」、「(3)教師の実践力の育成につながる内容であった」、「(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた」、「(6)授業の進む速さは、適切であった」、「(7)受講生に分かりやすく説明した」等であった。アンケートに記述された「自ら進んで研究しようとする意志をもてた」、「教科書にはない新しい指導方法を考える機会となった」、「数学の教材について深く考えることができた」という意見等から、履修者は数学の指導法や教材についてしっかりと思考しており、授業の内容は概ね履修者に適した内容であったと考えられた。

一方で「各グループ発表の際、発表内容の資料を残した方がよいと思った」、「日本人の学生と海外の学生と一緒に受講しているので仕方ないと思うが、ときどき分かり難い時があった」という改善についての意見があったので、次年度は、グループや個人の意見発表の際の発表方法の工夫をしたいと考えている。

結果報告書

授業科目名 数学科授業研究
 評価実施日 平成30年2月5日
 担当教員名 早田 透 回答者数 8 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7	1				4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	1				4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	2	1			4.5
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	5	3				4.6
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	7	1				4.9
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	7		1			4.8
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	7		1			4.8
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	7	1				4.9
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5	2	1			4.5
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	2	1			4.5
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6	2				4.8



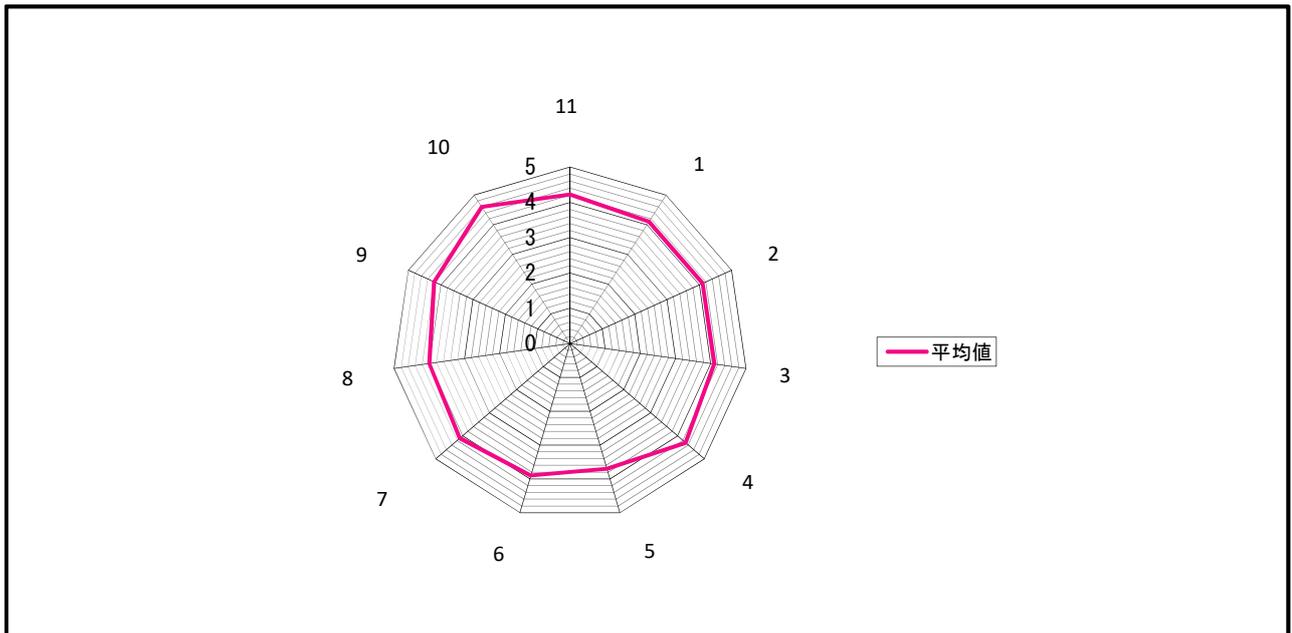
教員のコメント

近年、(安易な)方法が全てにおいて優位に立つような、教育な実践への還元・劣化が進んでいる。それに対して、本講義は学びをtheoryから捉える事を意図した講義であり、実践への直接的な還元は意図していない(結果的にはもちろん還元され得るが)。この意味で、実践力の育成につながる内容であるとした学生が多いことは素直に喜ばず、内実に向き合い今後の改善に活かしたい。

結果報告書

授業科目名 数学科教材開発演習
 評価実施日 平成30年2月22日
 担当教員名 佐伯 昭彦 回答者数 10 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5	3	1		1	4.1
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	3	1		1	4.1
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	3	1		1	4.1
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	5	3	2			4.3
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	3	3		1	3.7
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	4	3	2		1	3.9
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	5	3	1		1	4.1
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	4	4	1		1	4.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	4	2			4.2
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	2	1			4.6
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5	2	1	1		4.2



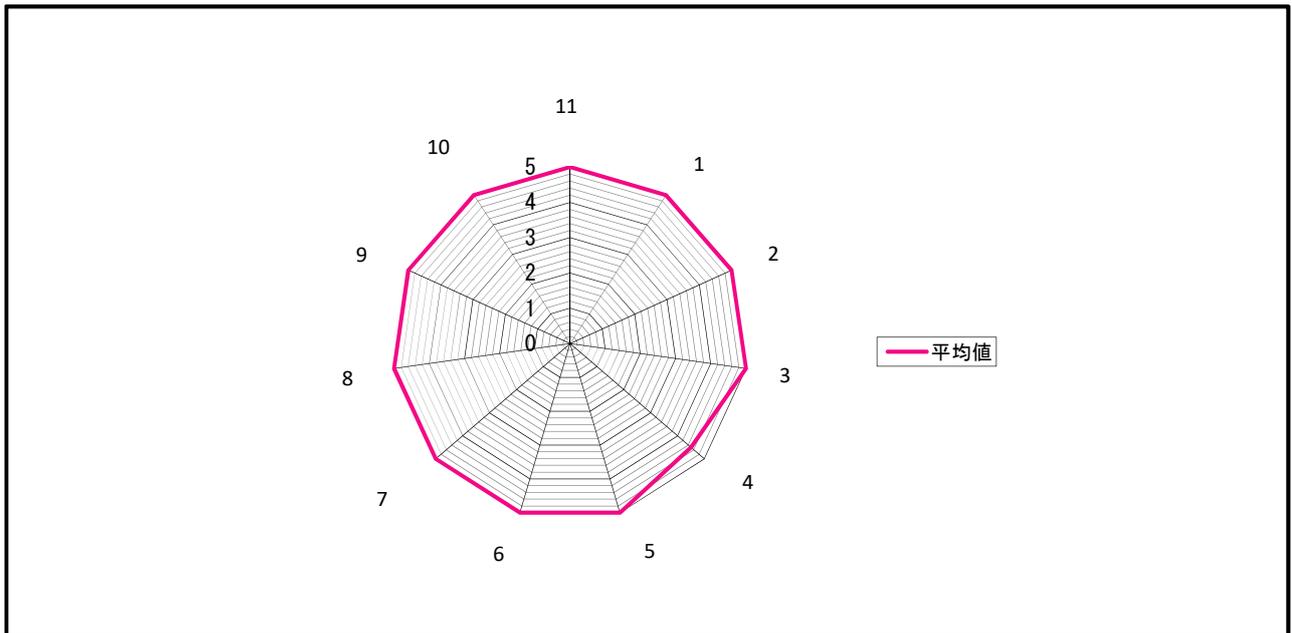
教員のコメント

アンケート回答者10名に対して、2つの質問項目以外は4点台の評価で、総合評価は4.2であった。本授業は、松茂町立図書館の来館者に和算を紹介する活動を通して、多種多様な来館者に応じて分かりやすく説明する能力を高めるとともに、文化を地域社会に継承する教師の役割の重要性を理解することが目的であった。このため、和算の題材の選択、教材開発、ワークショップの企画など、学生達の主体的活動を重視したアクティブラーニング型授業を行った。こういった学生の主体的活動が概ね良い評価を得た大きな要因だと考えられる。また、ワークショップ参加者のアンケートからは概ね良好な結果が得られた。さらに、ワークショップの内容がケーブルテレビで放映されるなど、学外からも評価を受けた。しかし、例年の授業に比べ、今回の評価が若干低かったのは、1名の学生が7項目に評価1を選択したからである。この学生の自由記述には「数学にふれずに感覚的に楽しいものを評価し、数学を分かりやすくする授業(ワークショップ)をしようとしているのに、複雑もの分かりにくいものをいれるようにアドバイス(半強制)でこまった！」とあり、これが評価を低くした大きな原因であると考えられる。この学生がワークショップで行った和算の題材は学生自身が選択したものであり、内容も感覚的な理解から数学的な理解へと高める展開であったため、ワークショップのテーマに適しており、他の学生達からも高い評価を得ていた。しかし、この学生が題材の内容を数学的に理解できていなかったため、私と他の学生がアドバイスをしたが、最終的には理解できなかったために半強制的だと感じたのだと考える。ワークショップを良くしようとする考えでアドバイスをすることが半強制的と捉えられたことは心外であったが、この学生の心理状態を把握できなかったことは授業者である私の反省点である。今回の件から、自らの目的意識をもって題材を選びワー

結果報告書

授業科目名 地学実験法特論
 評価実施日 平成30年2月7日
 担当教員名 村田 守 回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	1	1				4.5
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



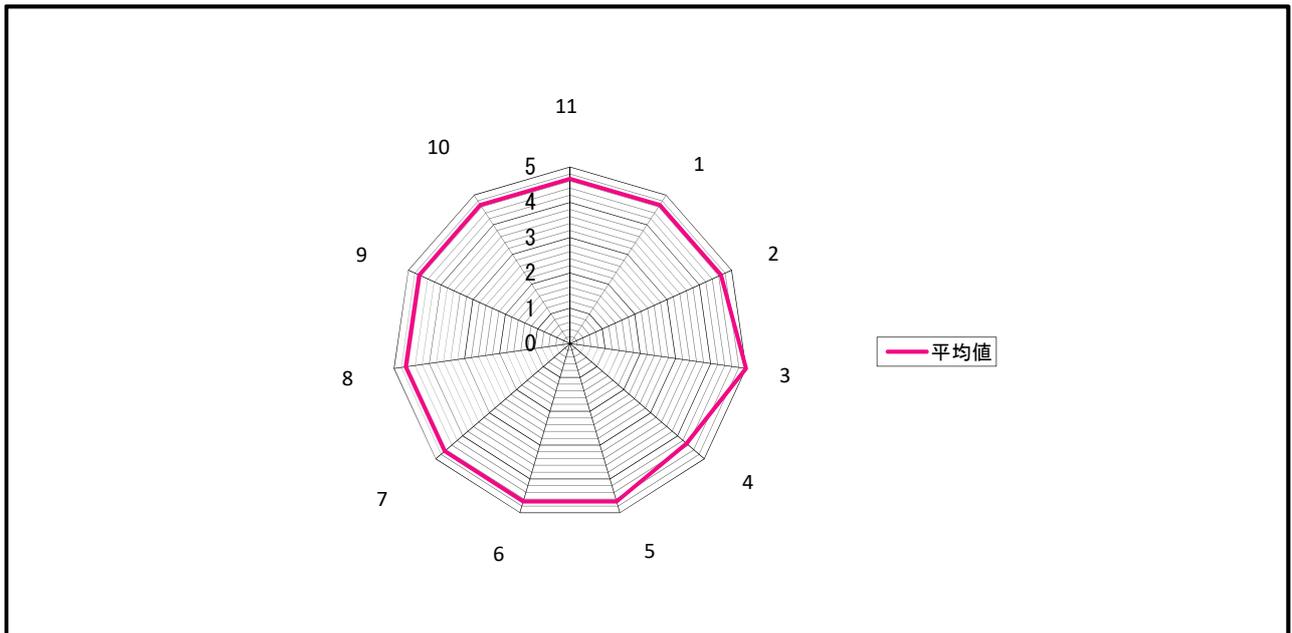
教員のコメント

実験実習を伴う講義では、学生実習による実験器具の破損があり、また消耗品の補充も必要になる。教員の研究費(校費)をこれらに当ててきたが、昨今の校費削減により、本来の目的(指導学生の課題研究の実験器具の維持管理や本人の研究)に校費が使えなくなってきた。このままでは、他コース生の受講制限をせざるを得なくなる。実験実習科目には、中央経費から実験機材の維持管理費の支給が必要であろう。

結果報告書

授業科目名 理科授業研究
 評価実施日 平成30年2月15日
 担当教員名 早藤 幸隆,寺島 幸生,佐藤 勝幸 回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	1				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	1				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3					5.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブラーニングが、実施されていた。	1	2				4.3
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	1				4.7
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	2	1				4.7
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	2	1				4.7
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	2	1				4.7
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	1				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1				4.7
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	1				4.7



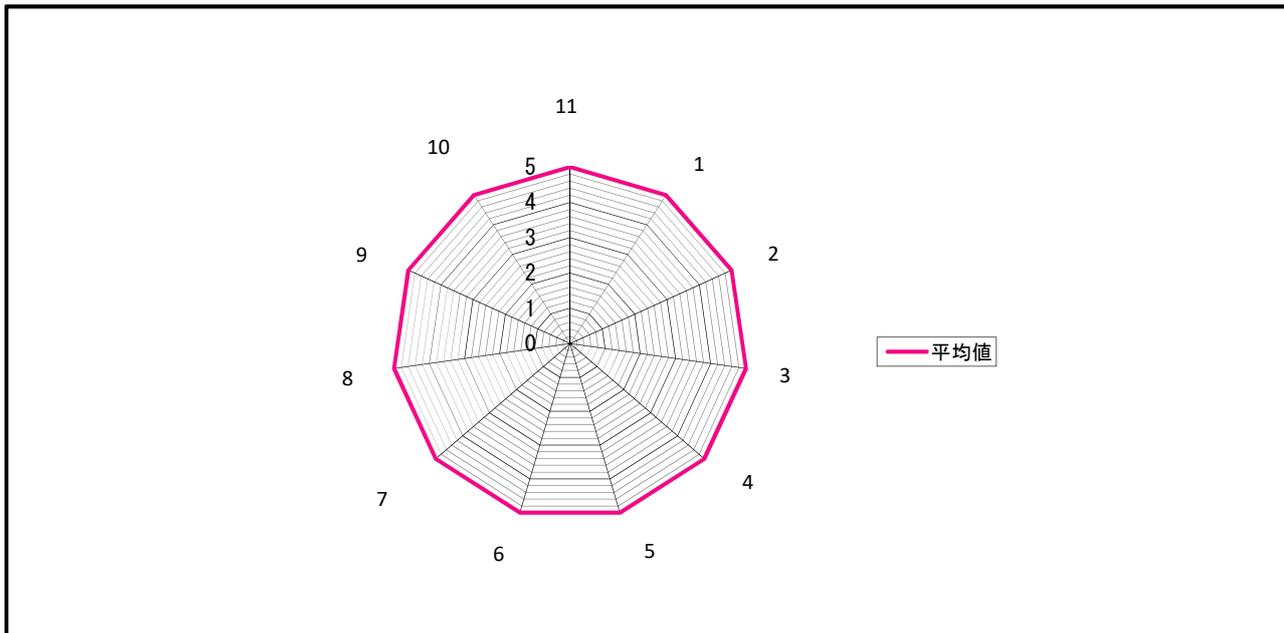
教員のコメント

全体的に受講者から授業内容に関する好意的な評価を受けている。質問項目(1)の結果より本授業における目標と目的は達成出来たと考えられる。学校現場での授業視察による実践的な理科授業における内容構成から、質問項目(3)が評価されると共に、各学校種における理科授業の展開・構成・内容を重視した講義により、質問項目(7)が評価されたと思われる。講義はパワーポイントの提示により説明を進め、パワーポイントの提示内容を資料として配付した。質問項目(11)より授業に関して好評価が得られた事から、次年度以降も授業内容や授業視察の形式などに改良を加えながら進めていきたい。

結果報告書

授業科目名 教科内容構成(理科)
 評価実施日 平成30年2月19日
 担当教員名 粟田 高明,胸組 虎胤,佐藤 勝幸,村田 守 回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



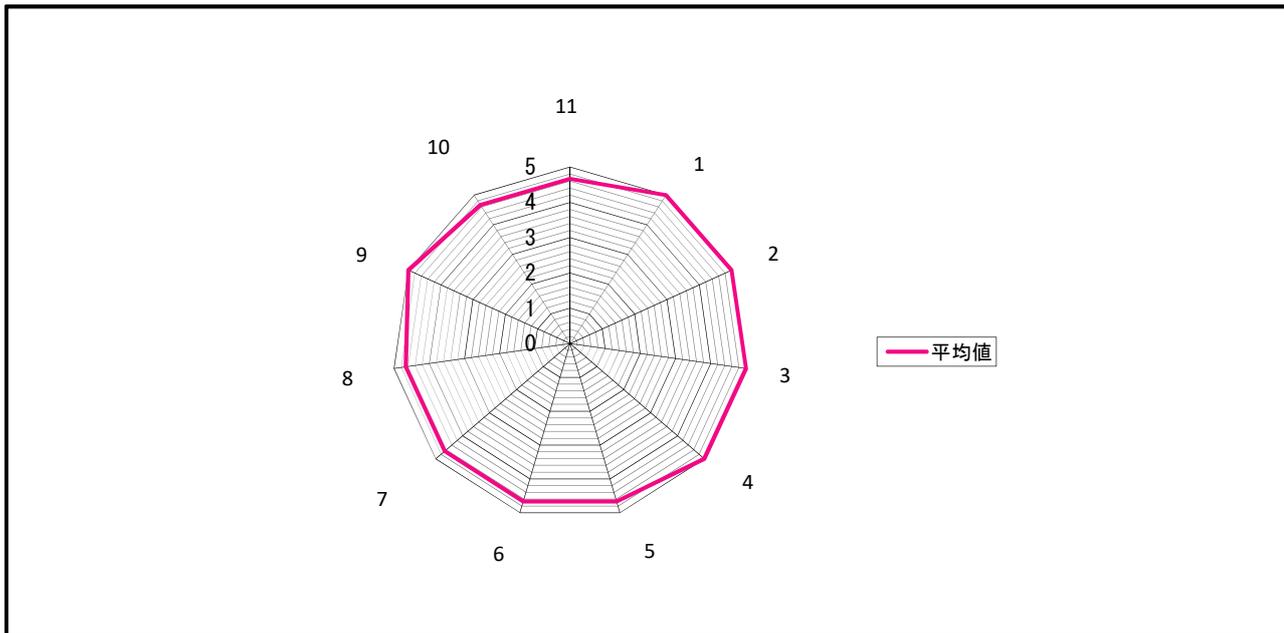
教員のコメント

受講者が2名と少ないので評価に関する分析はできないが、概ね満足のいく授業であったと考えられる。学生個人が考え授業実践を行った「教育実践フィールド研究」をつなげた内容のコマを用意したので、「実践フィールド(ママ)とリンクして自分の授業の改善点が分かった」「授業実践についてさらに探究することができた」「フィールド(ママ)の内容について学会(理科教育学会四国支部大会)で発表した」といった回答があり、授業にも積極的に参加してくれた。来年度もこのスタイルで続けていく予定である。

結果報告書

授業科目名 歌唱表現演習
 評価実施日 平成30年2月16日
 担当教員名 頃安 利秀 回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3					5.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブラーニングが、実施されていた。	3					5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	1				4.7
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	2	1				4.7
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	2	1				4.7
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	2	1				4.7
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1				4.7
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	1				4.7



教員のコメント

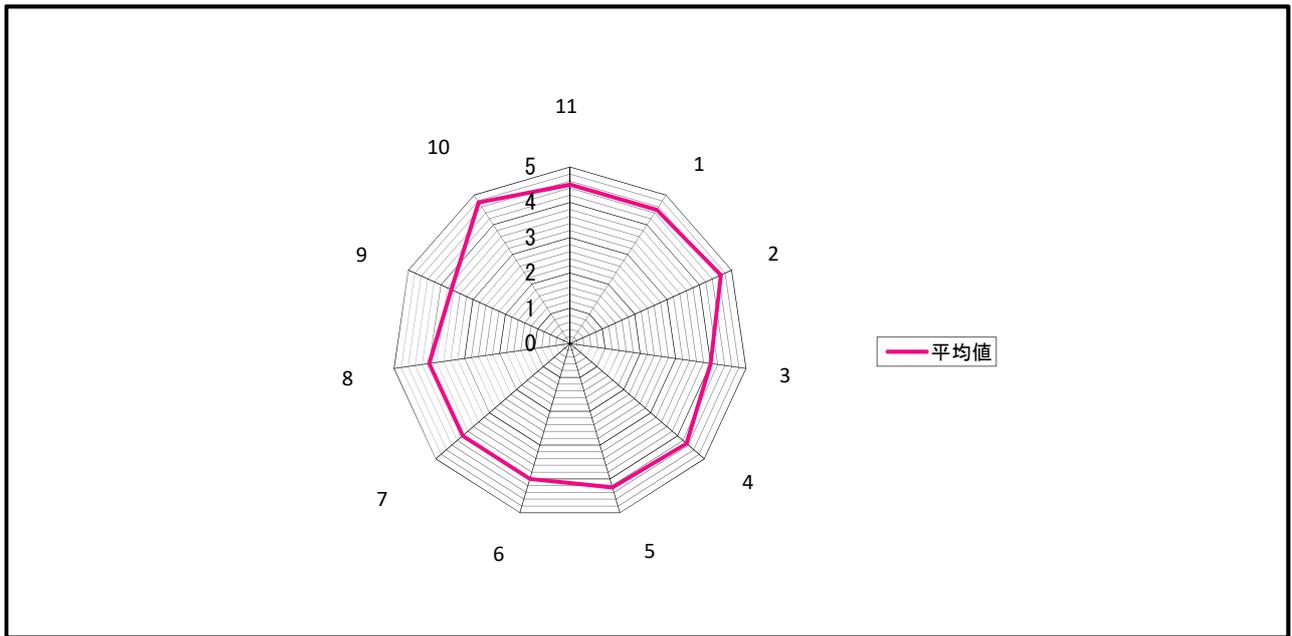
本演習は、声楽実技能力を高め、小・中・高等学校における歌唱教材が「自然で無理のない歌い方」で歌え、且つ指導できるようになることを目標としている。実技能力は受講生一人ひとり違っているため、できるだけ個々の能力に合った指導を心がけている。その結果としてこのような総合評価(4.7)につながったと考えている。

この授業の受講生の中には芸術系コース(音楽)の学生以外にも他コースの学生や教職大学院の学生(聴講生)も含まれている。そのため、受講生個々の音楽的な実技能力にはかなり差があった。しかし、夫々が自分のからだを無理なく使い、自然で無理のない歌い方ができるようになることが目的であり、決して音楽的な実力を評価する授業ではない。自分の実力に見合った楽曲を選び、自分なりに自然な歌い方ができればいいので、授業の評価については出席やレポートを主な評価の対象としている。専門的知識を深めるのに役立つ内容(5.0)であると同時に、教師の実践力の育成につながる内容(5.0)でもあったと評価されている。またアクティブラーニングの実施については高い評価(5.0)を得られている。これらのことから、この授業が十分に教師の実践力育成に寄与するものであると考えられる。

結果報告書

授業科目名 室内楽(器楽)
 評価実施日 平成30年2月6日
 担当教員名 森 正,山根 秀憲 回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	2				4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	1				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	1	1			4.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	2		1			4.3
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	1	1			4.3
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	1	1	1			4.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	1	1	1			4.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	1	1	1			4.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1		2			3.7
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1				4.8
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3		1			4.5



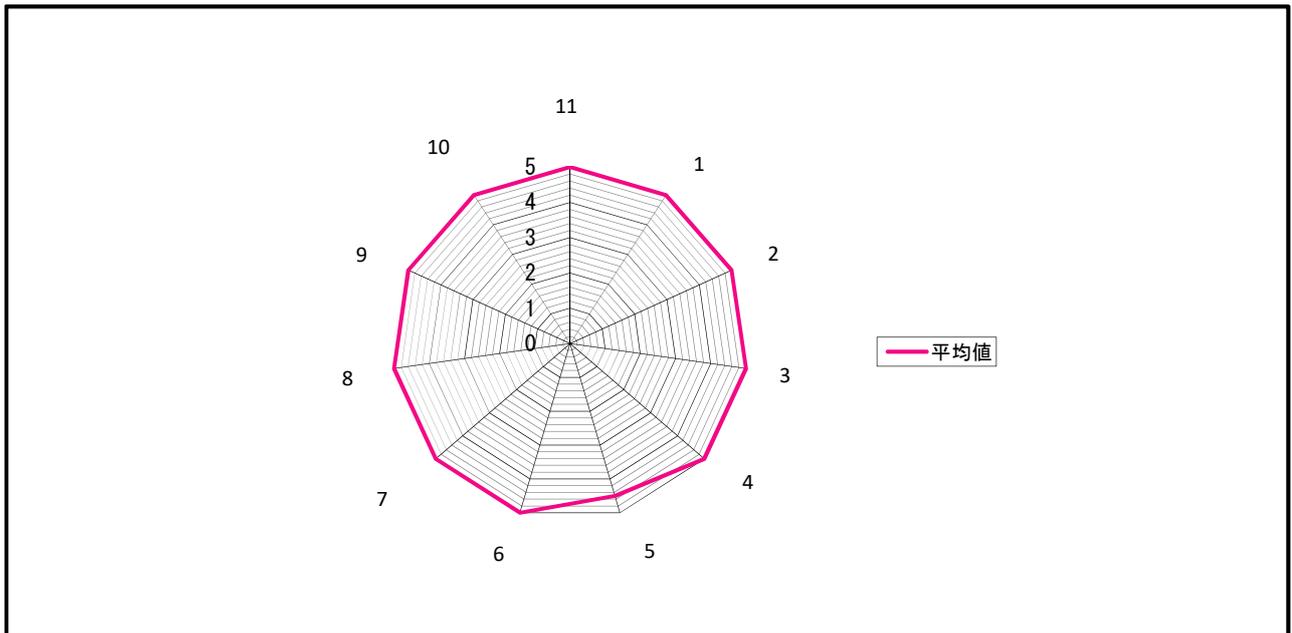
教員のコメント

自分の専攻楽器以外で受講する学生もいたが、ほとんどの学生がこれまでに室内楽の経験が少なく、その状況を見極めるために多少手探りの授業になってしまい、試験等の課題の決定が遅れてしまった。このような状況に対応するべく、これまで以上に幅広い課題を事前
 に用意することの必要性を強く感じた。

結果報告書

授業科目名 作曲法基礎演習
 評価実施日 平成30年2月22日
 担当教員名 松岡 貴史 回答者数 2 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2						5.0
	(4)授業では、シラスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	2						5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	1					4.5
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	2						5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	2						5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	2						5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2						5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2						5.0



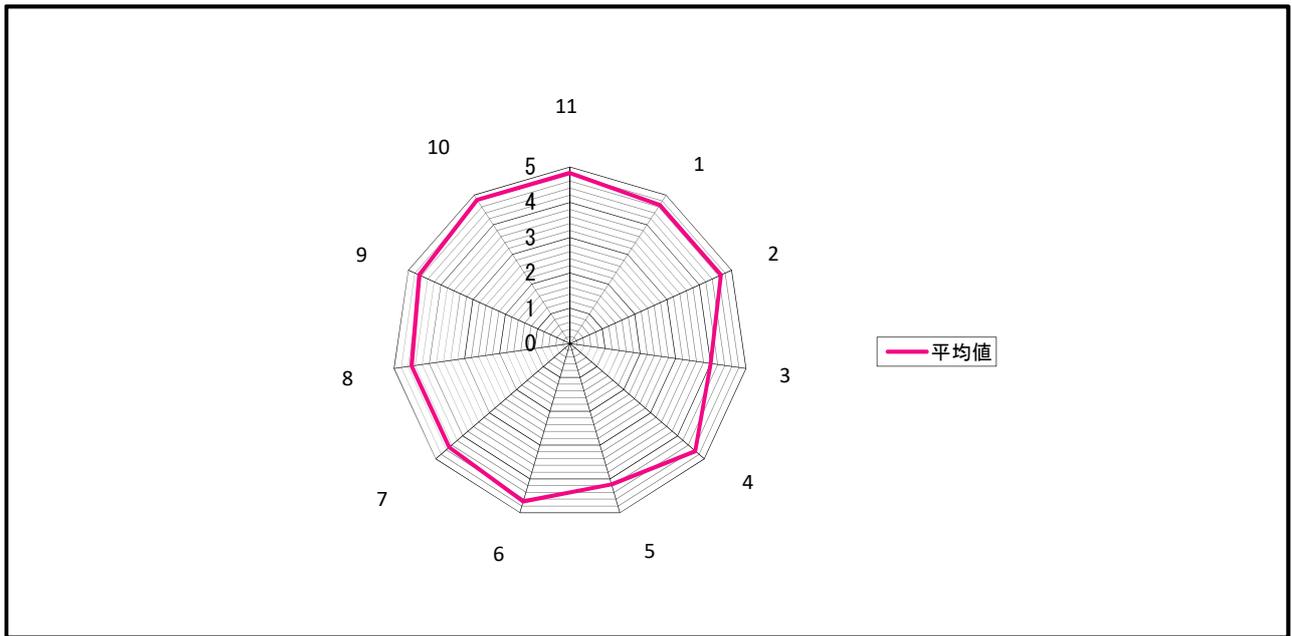
教員のコメント

良好な評価が帰ってきているが、受講者が少ないので何とも言えない。受講者はいずれも十分に準備し、授業に臨んでいて、学修の成果がかなり上がっている。記述式回答では、「興味を持った楽曲の分析を通して、曲の構成やフレーズの重心のかけ方、ピアノのペダリングなど、演奏に関しても貴重なアドバイスが得られた。」「作曲においては、実践を通して多くを学ぶことができた。」「学修の成果を、教育実践フィールド研究の演奏の向上に努めることができた。」などの記述があった。

結果報告書

授業科目名 音楽文化比較研究
 評価実施日 平成30年2月19日
 担当教員名 山田 啓明 回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	2				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	2				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	2			1	4.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	4	2				4.7
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	3	1			4.2
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	4	2				4.7
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	3	3				4.5
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	3				4.5
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	2				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	1				4.8
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5	1				4.8



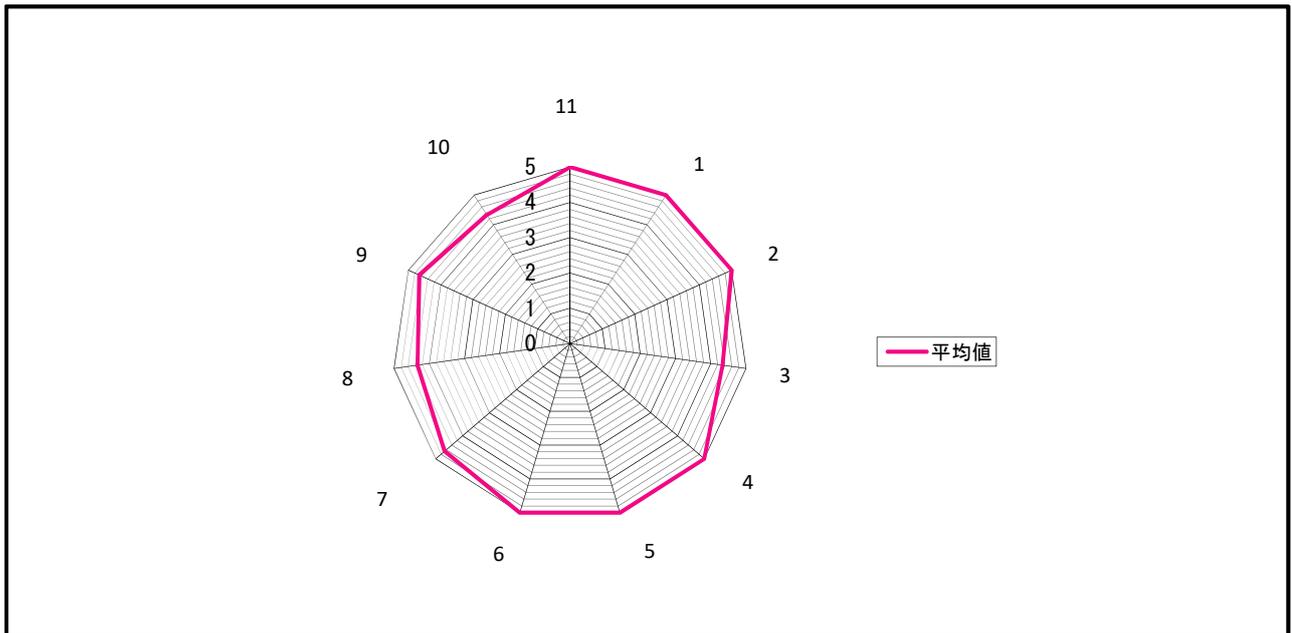
教員のコメント

この授業は様々な音楽に関するドキュメンタリー映像を学生自身に紹介させ、皆で見た後にディスカッションするという形式である。普段はどうしても西洋クラシック音楽に偏った学生に、ポピュラー音楽や各国の様々な音楽に触れてもらうという主旨には、学生は好感を持ってくれたように思う。

結果報告書

授業科目名 声楽アンサンブル
 評価実施日 平成30年2月15日
 担当教員名 真鍋 美恵 回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2		1			4.3
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	3					5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3					5.0
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	3					5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	2	1				4.7
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	2		1			4.3
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	1				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	2				4.3
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3					5.0



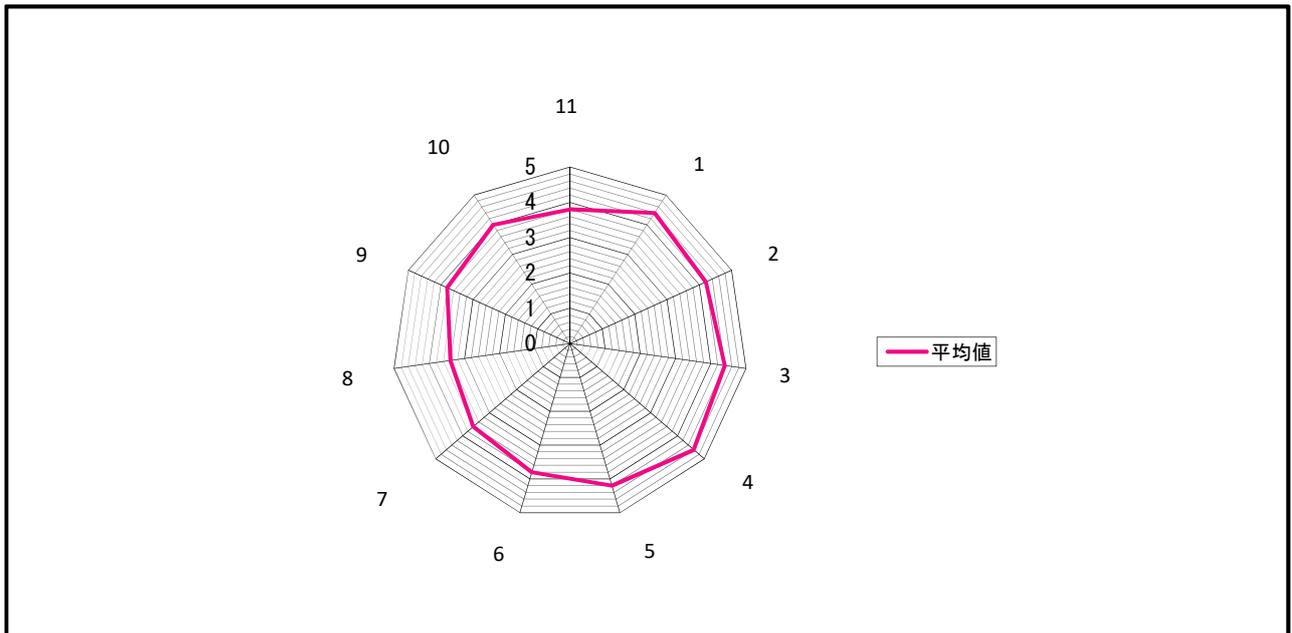
教員のコメント

本年度の授業実績について、履修学生数が3名と少数だったため、個々の実技能力に沿った指導を心がけた。声楽専攻の院生にとっては専門的なスキルをじっくり学べる時間は、おそらく終了後の教育現場では少ないと思われる。故に、修了後に自分でも声楽実技のレベルアップに励めるように、基本的な発声や自分の声へのアプローチを個々に指導する時間も十分に取った。このことには学生もある程度の達成感・満足感を得ているように思う。課題曲はモーツァルトのオペラを選択し、完成度の高い楽譜から音楽的要素を読み解く手法も演奏実践をしながら取り扱ったので、教科教材をはじめ、ほかの西洋音楽の楽曲分析に当たっても生かしてほしいと思う。

結果報告書

授業科目名 教科内容構成(音楽科)
 評価実施日 平成30年2月6日
 担当教員名 頃安 利秀,森 正,山田 啓明,山根 秀憲 回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	1	1			4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3		2			4.2
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	1	1			4.4
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	4		1			4.6
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	2	1			4.2
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	1	2	2			3.8
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	1	2	1	1		3.6
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。		3	1	1		3.4
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	2	2			3.8
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	3	1			4.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1	2	2			3.8



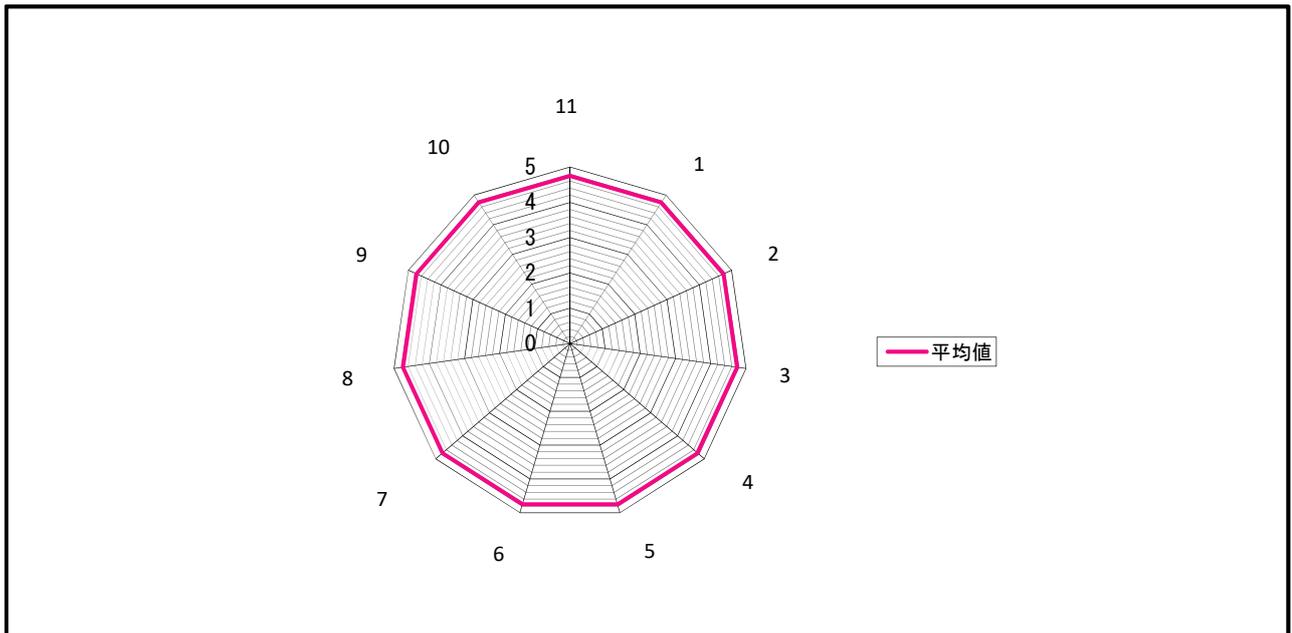
教員のコメント

昨年度は受講生がたった1人だったが、2年目の2017年度は、受講生が5名いたので、模擬授業を行ったりディスカッションをしたり、またフィールド実践研究と連携した授業なども実施できた。ただ、やはり総花的な授業になりがちで、一つのテーマや内容をじっくりと深めるという性格のものではない。2018年度は、また受講生が3人に減り、最後の年度となる2019年度の受講予定者は1名である。受講生の人数によってできること、できないことが生じるのは、合奏など集団での活動が多い音楽にとっては悩みの種である。

結果報告書

授業科目名 油画制作演習
 評価実施日 平成30年2月15日
 担当教員名 鈴木 久人 回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	1				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	1				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	1				4.8
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	3	1				4.8
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	1				4.8
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	3	1				4.8
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	3	1				4.8
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	1				4.8
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1				4.8
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	1				4.8



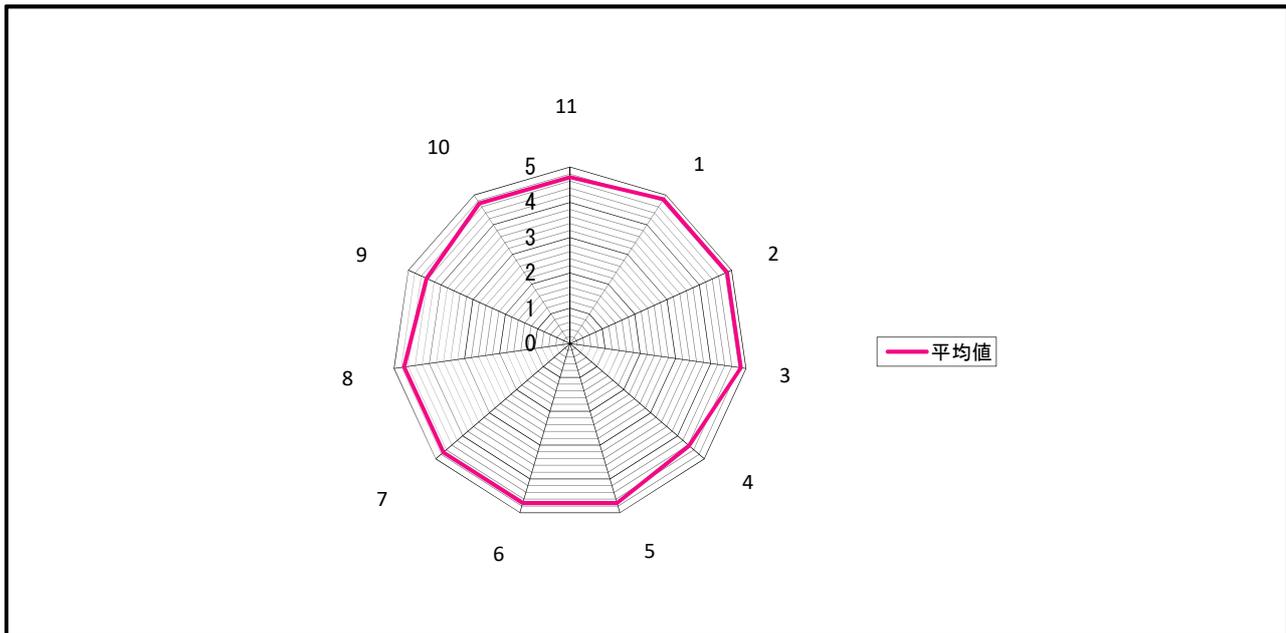
教員のコメント

受講生は4人であった。回答も4人からであった。評価を選択する項目は平均値が全て4.8であり、ある程度の良い評価、満足感があったと考えられる。自由筆記の質問でも概ね好意的記述が目立つものであった。今後とも教育現場での教科内容学として、授業内容がどのように生かせるのかもより具体的に取り上げて行きたい。

結果報告書

授業科目名 版画制作演習
 評価実施日 平成30年2月2日
 担当教員名 鈴木 良治 回答者数 7 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6	1				4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	1				4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	1				4.9
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	4	2	1			4.4
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	2				4.7
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	5	2				4.7
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	5	2				4.7
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	5	2				4.7
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5	1		1		4.4
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	2				4.7
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5	2				4.7



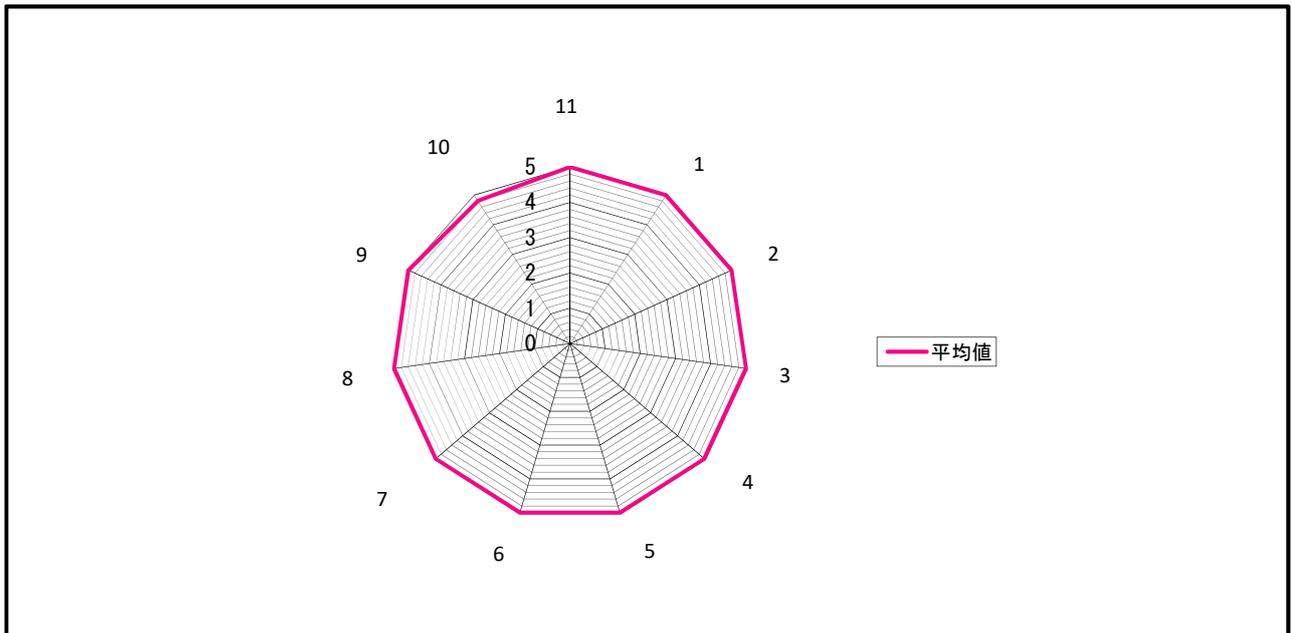
教員のコメント

アクティブラーニングとは、なんなのかこの授業でするときはどのようにすれば良いのかをこれからも考える必要があります。最終日の授業は講評会を開き作品の良さを話していった。一人一人の感想を講評最後に発表してもらい授業の講評もしています。

結果報告書

授業科目名 彫刻制作研究
 評価実施日 平成30年2月19日
 担当教員名 野崎 窮 回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5					5.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブラーニングが、実施されていた。	5					5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5					5.0
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	5					5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	5					5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	5					5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1				4.8
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5					5.0



教員のコメント

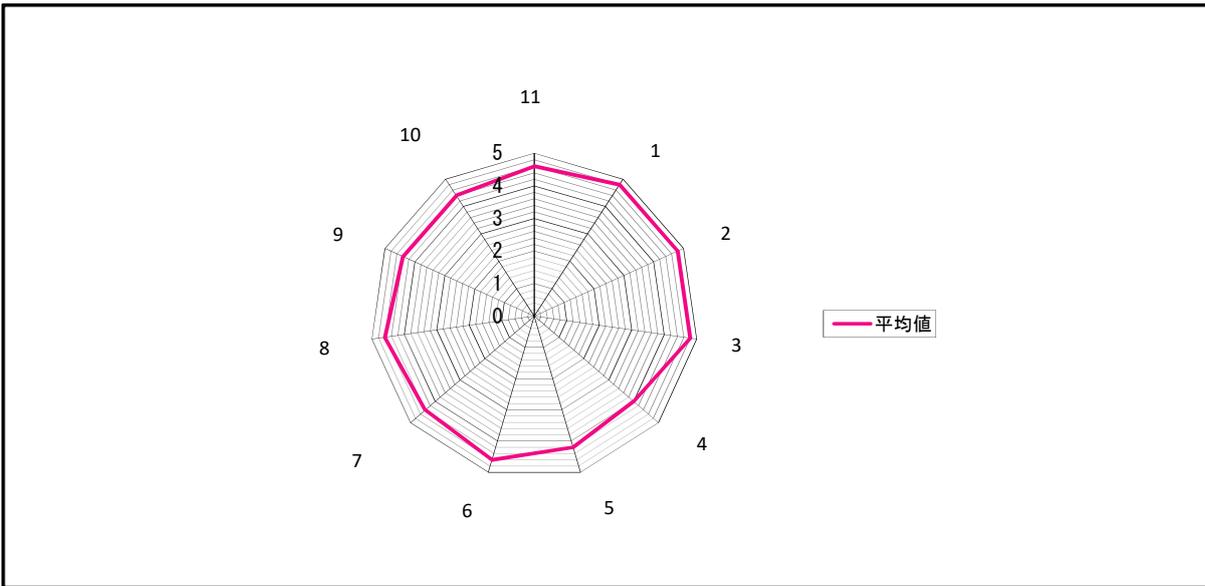
この授業は実技が中心であり、着衣のモデルを使用した塑造(全身像)制作である。受講生は本コースの学生2名、その他の所属の3名である。彼らが求めている彫刻における基礎的知識と立体把握力を伸長させるべく、各自のその能力に応じて個別に指導した。結果として、各項目の平均値は(10)以外「5」であり、かなり良い評価となった。今後も導入において、様々な作家の作品解説行い、鑑賞に関わる授業の工夫を続けていきたい。

結果報告書

授業科目名 デザイン制作研究
 評価実施日 平成30年2月6日
 担当教員名 内藤 隆

回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	1				4.8
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	1				4.8
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	1				4.8
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	1	3	1			4.0
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	2	1			4.2
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	3	2				4.6
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	2	3				4.4
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	3	2				4.6
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	1	1			4.4
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1	1			4.4
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	2				4.6



教員のコメント

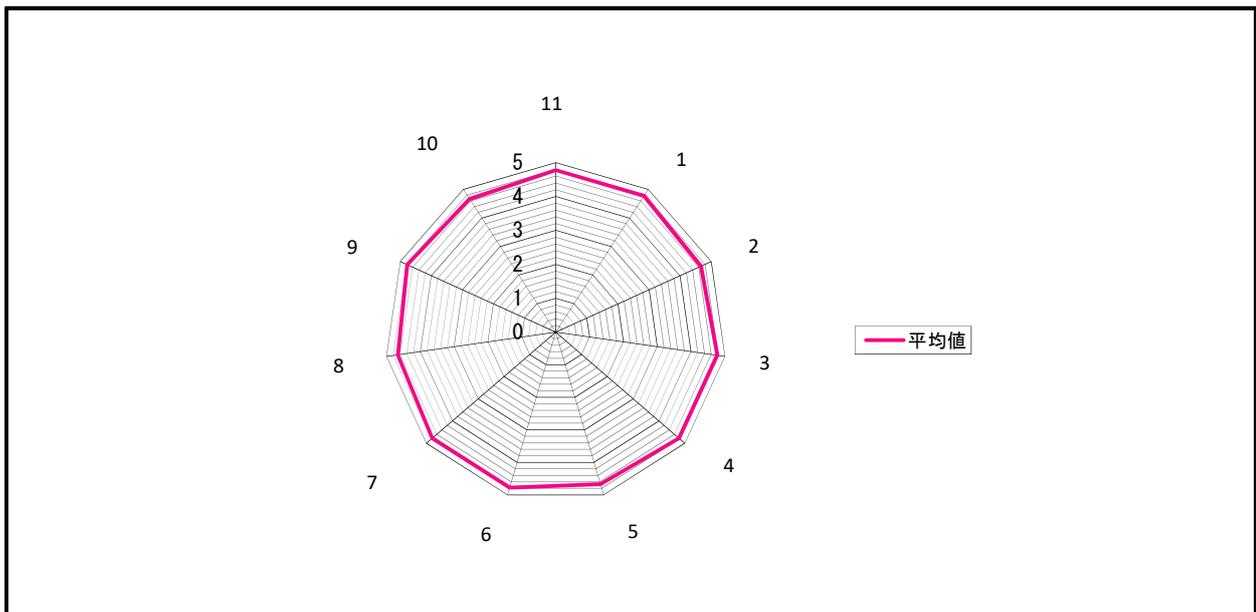
本年度の登録者は5名で、うち1名が若干休みが多かったものの全員無事授業を終え、アンケートには5名全員が回答している。
 この授業は以下の流れで運営した。1時間目は全体の授業運営説明。2～6時間目はAdobe社のIllustratorの初歩的用法解説、トレーニングとしてこのソフトを使用した地図制作。7～8時間目はデジタル一眼レフの操作方法解説とスタジオでの照明操作解説および撮影演習。9時間目は撮影実習。10時間目は印刷原稿を作成する際のIllustrator、Photoshopの注意点解説。11～14時間目は大学院美術コースのパンフレットを想定したA3サイズ両面の印刷物原稿制作。15時間目が出力原稿での相互発表・作品講評。
 今年度の受講者は1名が旧版ソフトの使用者、他の1名も若干使用経験があり、他3名は初心者だった。ソフトの解説はプロジェクターまたは受講者画面への教授者画面の表示を使って解説し、制作にあたっては質問を申し出た者のところへ直接行き対応する形式も取り入れて対応した。解説資料は一部紙媒体で渡しているが、大方は自分のウェブページに準備しておき、これを見せた。
 さて、評価のグラフを見ると全般的に4以上の評価を受けており、基本的にある程度満足感を得られていると判断できるが「シラバスに示されたアクティブラーニングが実施された」が4.0、「成績評価の方法の説明は適切」が4.2と若干低い。自由筆記の記述では良かった点としては「ソフトの用法を(より詳しく)学べた」が4名、「一眼レフカメラが使える」(少人数で)疑問点に教員が直接答えた(受講者画面への教授者画面の表示も含む)」「(作品を)プリントする事で達成感があり(作品の)改善点も見やすくなった」が各1名であった。改善点は「当初予定されていた小型課題の回収がなかった」と1名が指摘した。「成績評価方法」の数値が若干低いのはこれが原因とも思われる。これは一時的な多忙状態に起因する授業担当者のミスであり、今後嚴重に注意したい。なお、採点は最終作品のパンフレット作品と受講状況を基準とした。「主体的に取り組んだ根拠」としては「ソフトとデザインに興味があった」「意欲的にこだわって制作した」「休みがちになったため」が各1名ずつあった。休みの多かった学生も作品提出のために授業時間外に端末を使用し制作・提出に追いついてきた。その他の感想欄には「今後も活用したい」「現場にもソフトがあると活かせるのに」「難しいイメージがあったが便利だと思った」が各1名あった。一方で点の低かった「アクティブ・ラーニング」については具体的な指摘記述が無いため、具体的な改善策が取りにくい。
 今回は全て美術コースの受講者であったが、それぞれベースに合わせ熱心に受講・制作にあたってくれたと思う。感謝したい。

結果報告書

授業科目名 映像デザイン演習
 評価実施日 平成30年2月14日
 担当教員名 内藤 隆

回答者数 9 人

質 問 項 目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7	2				4.8
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	3				4.7
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	2				4.8
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	7	2				4.8
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	6	3				4.7
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	7	2				4.8
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	7	2				4.8
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	6	3				4.7
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	7	2				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	3				4.7
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7	2				4.8



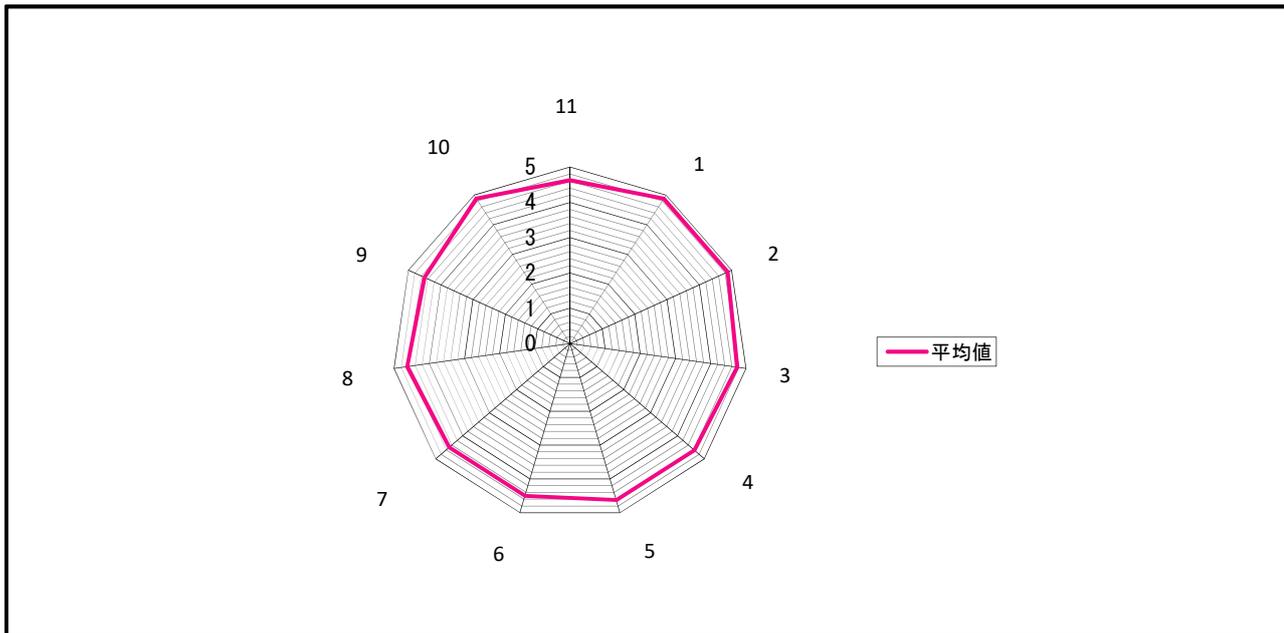
教員のコメント

本年度の受講者は例年より多い9名で、アンケートには全員が回答してくれた。
 授業は昨年同様、以下の流れで運営した。初回には、年間カリキュラムの説明・映像資料の視聴と情報交換の手順説明を行った。2～10時間目は、研究室および図書館の映像資料を視聴させ(各自別々の作品を鑑賞)、授業時に印象的だった部分等についてお互いに紹介させ情報交換する方法をとった。2・3時間目はサイレント映画時代、4・5時間目はトーキー映画黎明期、6時間目は日本映画、7・8時間目は実験アニメーション、9時間目はCM(海外・日本)、10時間目は実験映像・ミュージックビデオ作品という流れで視聴経験と情報交換を重ねさせた。11時間目前半にはデスクトップでのビデオ編集方法の概説と班分けを行い、14時間目まで各自で短編映像作品の制作を実施、最終回に作品提出・講評と言う内容で進めた。
 アンケート結果は全て4.7以上でかなり満足してもらえていると考えられる。授業内容に大きな違いは無いのだが昨年より評価が高くなった。受講者の所属が美術のみならず数学・社会・技術と多岐に渡った事が良いとも考えられるが、以下の自由記述からは「9名という受講者数が適切だった」とも考えられる。
 本年度の自由筆記の感想で良かったと思われる点は「いろいろな映像作品を見ることができた」が5名、「受講者が多く学び(刺激)あえた(意見交換ができた)」が3名、「映像の制作ができた(知識を得た)」が2名だった。改善すべき点については「発表時間を決めて制限すべき」が1名のみで、時として鑑賞映像紹介時間が延びたケースがあったためだが、この意見は具体的に改善できる。「授業取り組みの主体性」については「鑑賞映像の発表と独自調査」が4名、「映像制作に努力」が2名だった。次年度もこの講義スタイルを維持するが、細かい改善・工夫は見つけ次第試みたいと考えている。「その他の感想」では、「映像制作の技術・見せ方など参考になった」が2名、「興味のある作品が制作できた」「自分では絶対見ない映像に出会えた」「映像鑑賞は他者の意見を聞く事で多様な観点を確認できた」が各1名であった。
 今年度の映像制作作品は希望によってはグループワークとしたが、面白く工夫されたものも多く、授業担当側から見ても収穫が多かった。各受講者に感謝したい。

結果報告書

授業科目名 工芸制作研究
 評価実施日 平成30年2月13日
 担当教員名 栗原 慶 回答者数 8 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7	1					4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	1					4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	2					4.8
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	5	3					4.6
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	3					4.6
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	4	4					4.5
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	4	4					4.5
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	5	3					4.6
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5	2	1				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	1					4.9
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5	3					4.6



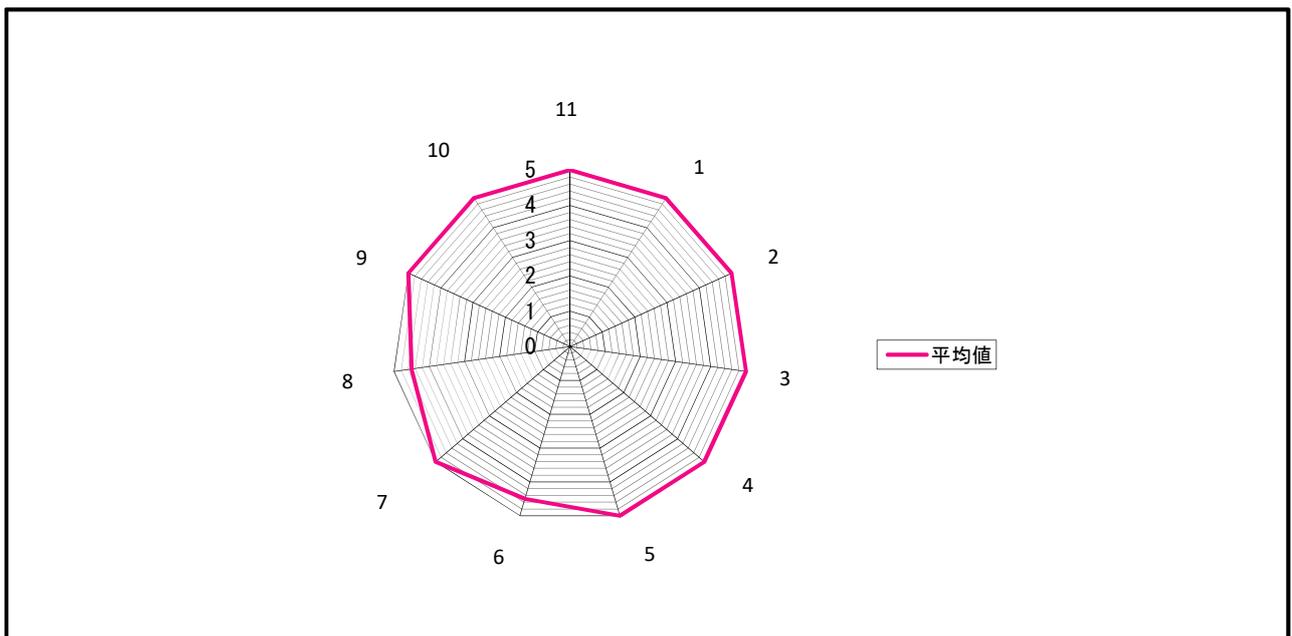
教員のコメント

総合評価4.6ということで概ね学生の評価は得ていると考える。5.0の評価項目はなく、高い方で4.9の評価が3つ、低い方で4.5の評価が3つであった。(9)の板書、視聴覚機器の使用については、制作時間とのバランスを取りながら改善していきたい。アンケート裏面の記載欄には特段の指摘がなかったのが、実際にどうしていくかは教員側の推測になるが、シラバスで取り上げた内容にまつわるビデオ資料を充実させる必要性は感じている。授業時間外も積極的に取り組んだと記載してある学生が多く、主体的に取り組める内容であったと判断する。手作業による制作が必然的に時間を要することを、好意的に捉えてくれる学生が多かったようだ。課題の設定によって、授業時間外の取り組みをどこまで必要とするかが変わってくる訳だが、教員、学生の負担感と、到達度合いのバランスが難しいところである。

結果報告書

授業科目名 総合造形研究
 評価実施日 平成29年12月24日
 担当教員名 高橋 耕平 回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブラーニングが、実施されていた。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	1	1				4.5
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	1	1				4.5
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



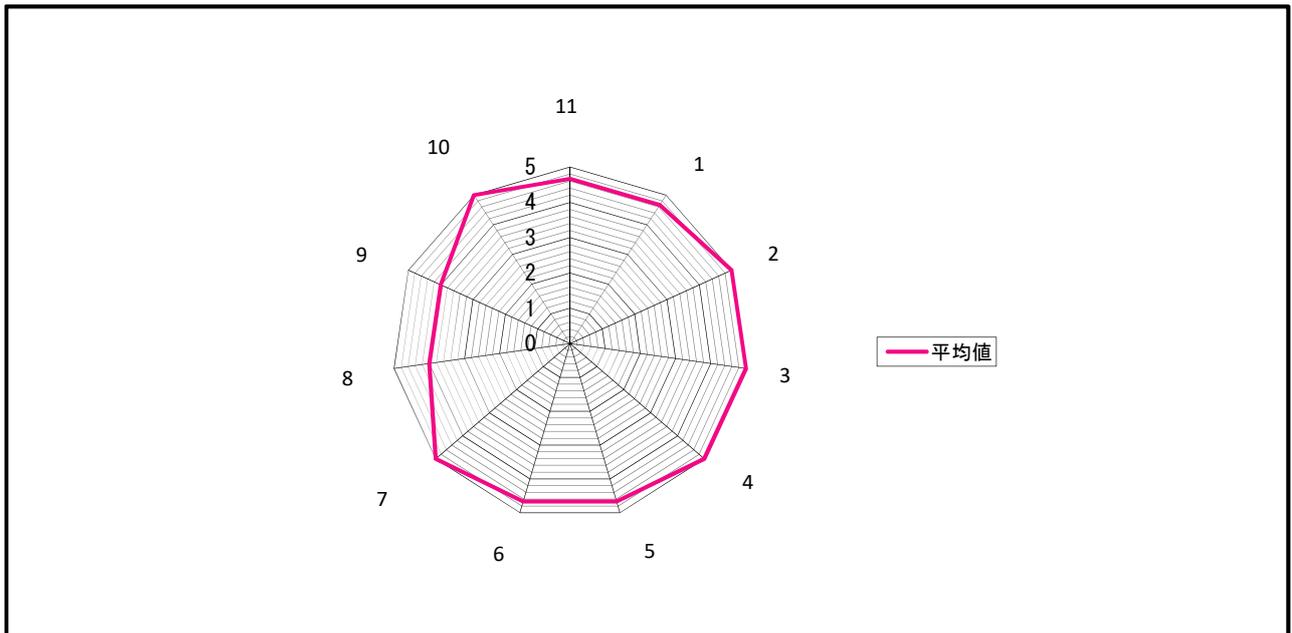
教員のコメント

受講者は2名と少なかったため、以前にも増して教員と学生が相互に意見するアクティブラーニングの手法を進めた結果、実質的で建設的な授業を行うことができたと思う。見慣れた校内において特別な場所を作る課題「サイト・スペシフィック」では、それぞれが入念にサーチの元、積極的な作品を設置し、芸術作品におけるオリジナル性を考える課題「オリジナルと複製」では、教育現場に持ち込むことができるワークショップを提案できる作品を完成させた学生もあり、大変意欲的かつ精度の高い作品が出揃ったことが今回の授業の手応えとなった。次回以降は、受講人数に合わせて授業をブラッシュアップし、芸術教育に携わる人材に必要な専門性と批評性を養うためのプログラムを組みたいと考えている。

結果報告書

授業科目名 スポーツ・トレーニング研究
 評価実施日 平成30年2月6日
 担当教員名 南 隆尚 回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	1				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3					5.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	3					5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	1				4.7
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	2	1				4.7
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	3					5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	1	1	1			4.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	1	1			4.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3					5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	1				4.7



教員のコメント

<分析>

本授業は、『(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。』や『(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。』、『(7)受講生に分かりやすく説明した。』などは高い評価得られた。これらは、学生が少人数であったことから、随時、質問にも比較的丁寧に回答することが出来たためと考えられる。

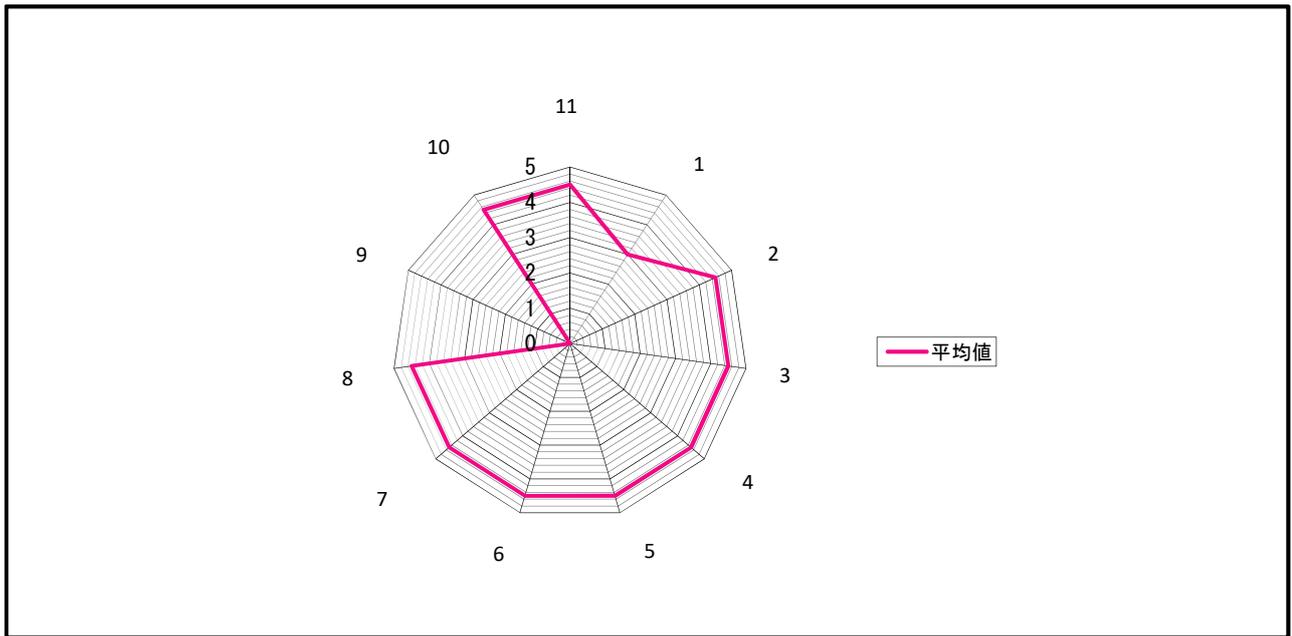
『(8)教科書や配布された資料は、適切であった。』や『(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。』は比較的低い評価であった。これは授業毎のテーマを学生によるプレゼンテーションを中心に授業を進めたため、学生自身の活用が出来なかったためと考えられる。『(7)受講生に分かりやすく説明した。』は高い票を得ており、学生の理解は進んでいると思われる。また筆記する量を鑑みたノート作成を促すような資料の作成も検討する必要がある、授業研究の課題である。また2020年の東京五輪に向けた最新のスポーツ・トレーニングの知識にも着目した内容も必要である。

『(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。』は全員に高い評価を受けており、大変喜ばしい。来年度も続けられるように研磨したい。

結果報告書

授業科目名 学校保健学演習
 評価実施日 平成29年12月20日
 担当教員名 吉本 佐雅子 回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。		1		1		3.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1	1				4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	1				4.5
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	1	1				4.5
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	1				4.5
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	1	1				4.5
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	1	1				4.5
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	1	1				4.5
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。						#####
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1				4.5
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1	1				4.5



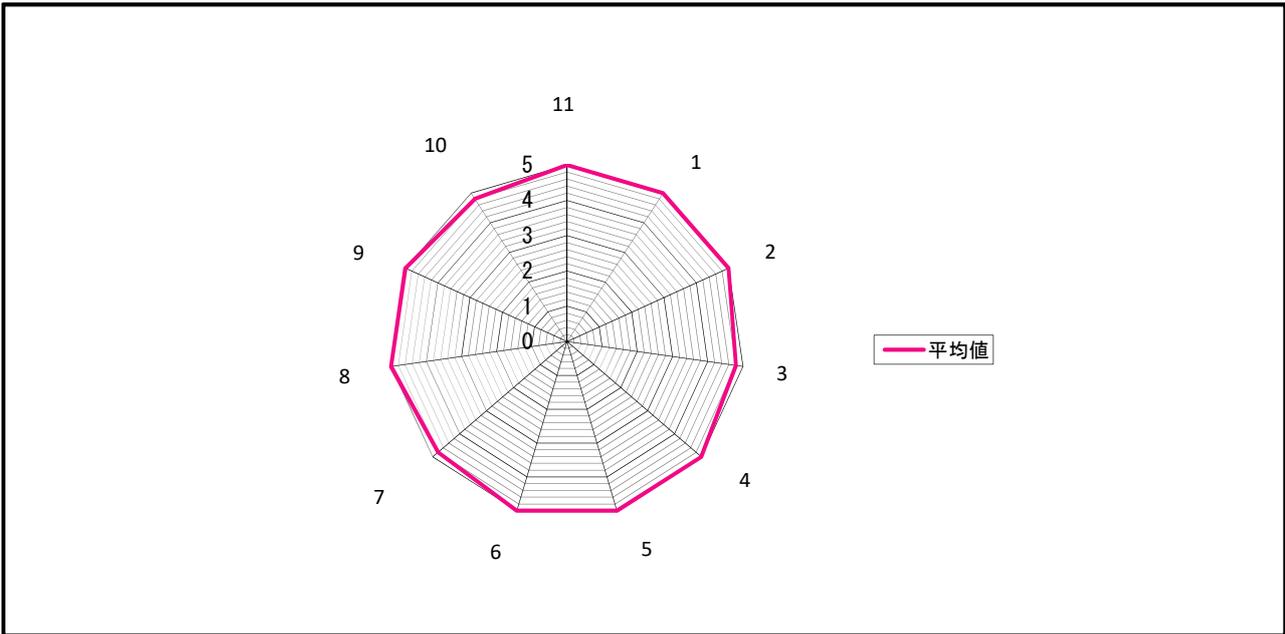
教員のコメント

授業概要が授業を適切に表現していないかったことは、受講者の背景を考慮し、授業内容を受講者に相応しい内容に変更したからである。受講者は院生で、本講義は12月に集中で行ったため、研究発表、まとめに役立つように、資料を提供し、その発表、プレゼンに力を入れた。全体として高い総合評価が得られ、今後も受講者にあった内容に変更しながら進めて行くのが良いと考えられた。さらに背景が全く異なる受講者がいる授業は、内容の工夫がさらに必要であると考えた。

結果報告書

授業科目名 情報技術演習
 評価実施日 平成30年2月5日
 担当教員名 菊地 章 回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	1				4.8
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	5					5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5					5.0
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	5					5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	4	1				4.8
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	5					5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1				4.8
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4					5.0



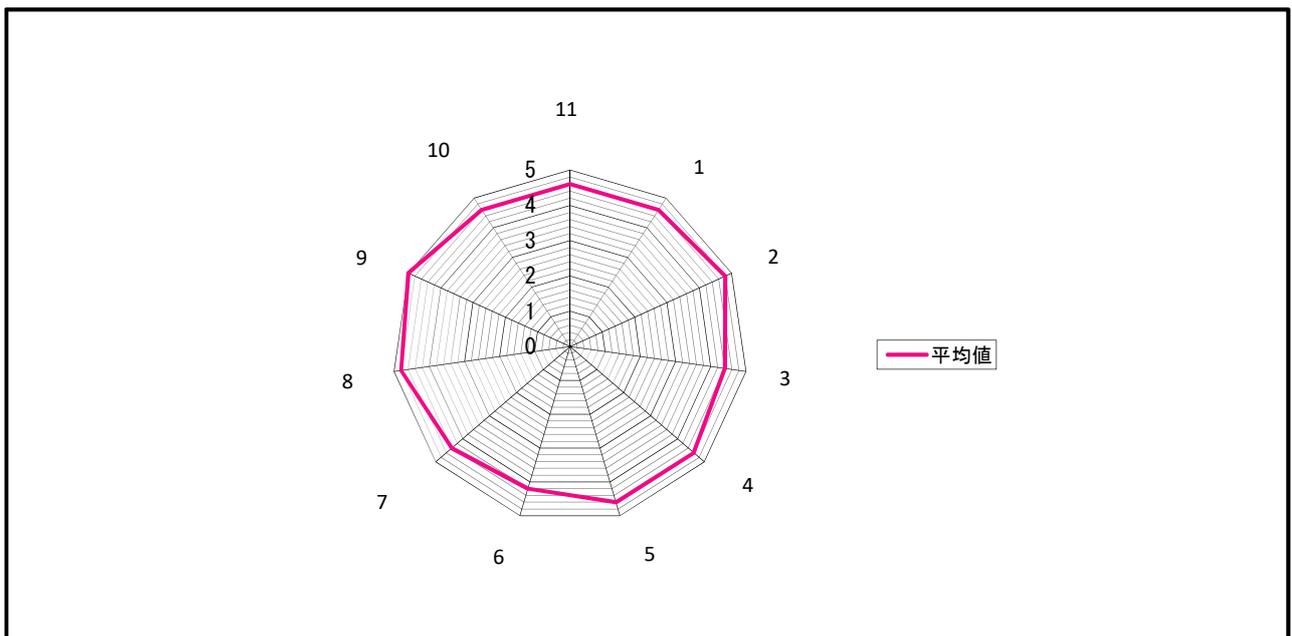
教員のコメント

本来はコンピュータの構築やファイアウォールの構成は高度な内容にも関わらず、全体的に好印象の授業であったようである。ゆっくりと時間をかけて、情報システムの原理から説明したことが良かったものと思える。学校でのネットワーク管理者の育成のためには必須の内容であり、このことも受講生の学習意欲が高まったものと思える。引き続き授業内容の充実に努力したい。

結果報告書

授業科目名 画像情報処理研究
 評価実施日 平成30年2月22日
 担当教員名 伊藤 陽介 回答者数 5 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	2					4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	1					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4			1			4.4
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	4		1				4.6
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4		1				4.6
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	4				1		4.2
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	4			1			4.4
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	4	1					4.8
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	2					4.6
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4		1				4.6



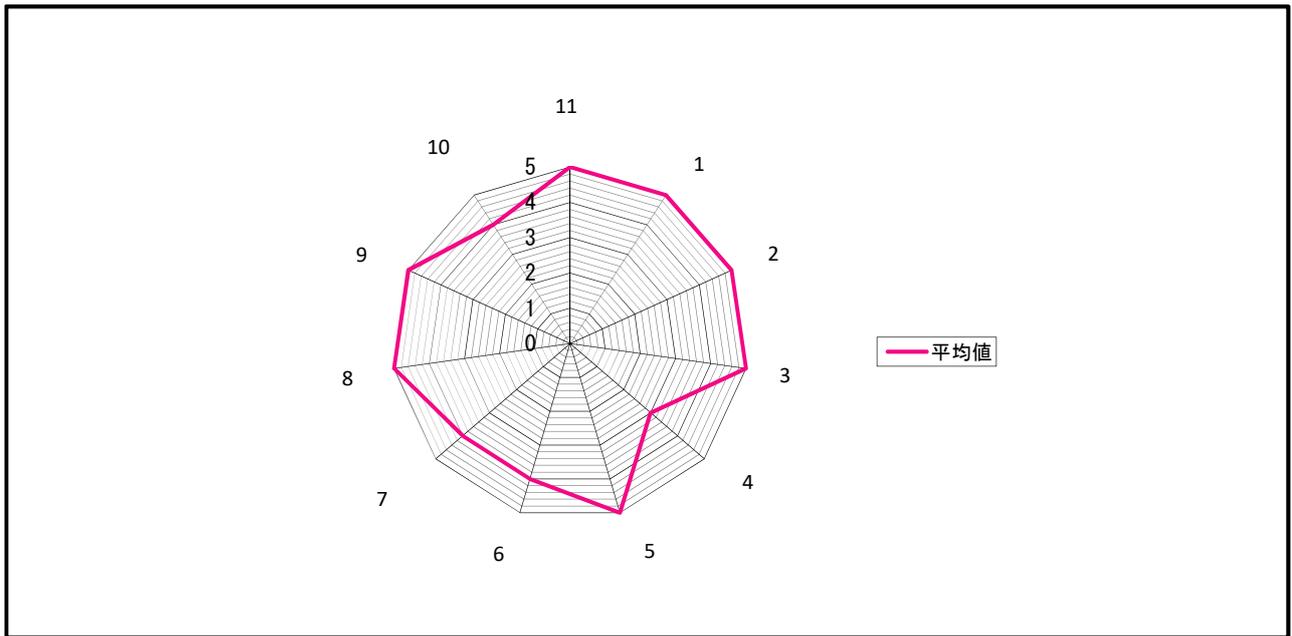
教員のコメント

総合的に見るとほぼ満足できる結果と思われるが、より教育実践に関連する内容を取り扱う必要はある。画像処理に関するプログラムを用いた実習は受講生から好評であった。

結果報告書

授業科目名 デジタル制御研究
 評価実施日 平成30年2月5日
 担当教員名 菊地 章 回答者数 1 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1					5.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。			1			3.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1					5.0
	(6)授業の進む速さは、適切であった。		1				4.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。		1				4.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	1					5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。		1				4.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1					5.0



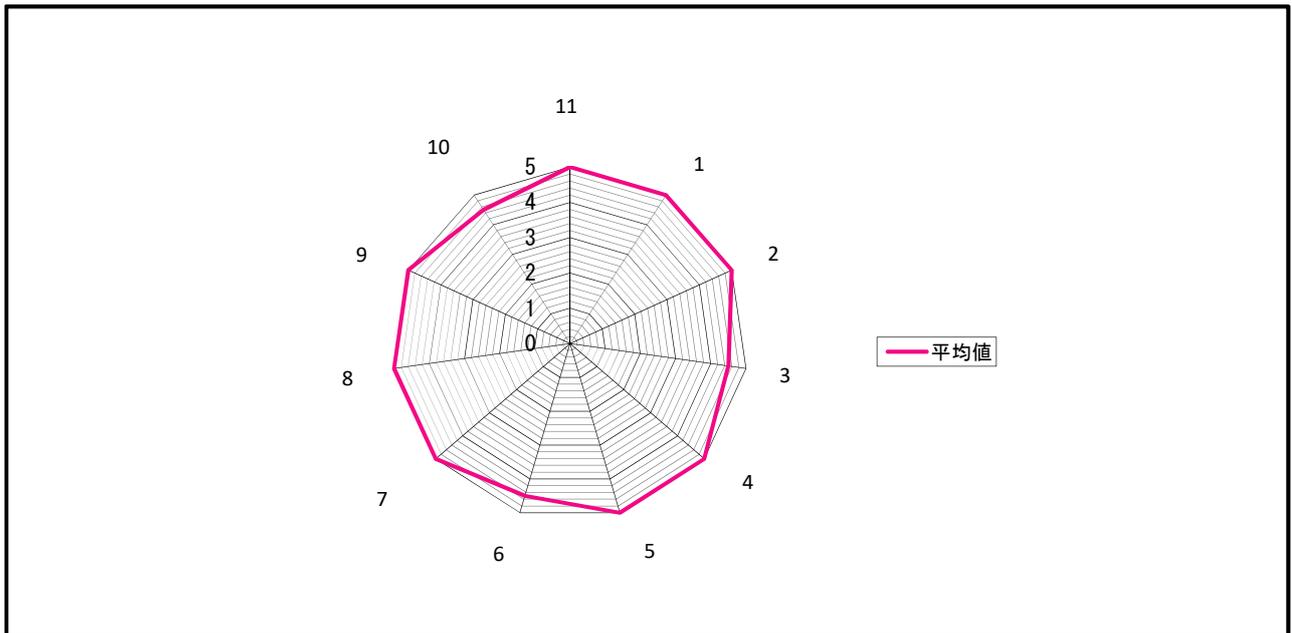
教員のコメント

今回の回答者は1名であったため全体の傾向として捉えることはできないが、本人のコメントにもあるが数学が苦手な受講生でありながら概ね積極的に受講したようである。数理的な内容を極力言葉で説明するよう努力したためと思われる。今後は授業内容を大幅に変更し、より実践的な内容にする予定である。

結果報告書

授業科目名 コンピュータ科学演習
 評価実施日 平成30年2月15日
 担当教員名 宮本 賢治 回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	1				4.5
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	1	1				4.5
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1				4.5
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



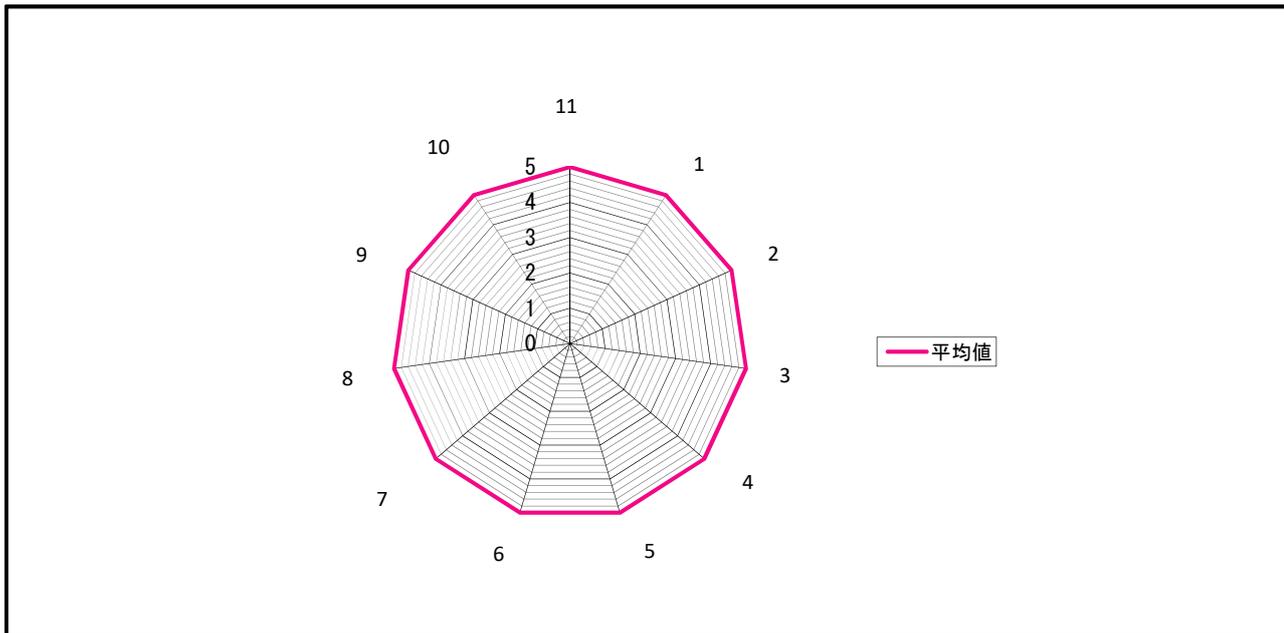
教員のコメント

人数が2人で統計的には不十分であるが、すべての質問項目で4.5以上の高評価が得られて満足できる結果となった。今後も授業内容や教材の一層の工夫・改善を図りたいと思う。

結果報告書

授業科目名 衣生活学演習
 評価実施日 平成30年2月19日
 担当教員名 福井 典代 回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブラーニングが、実施されていた。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



教員のコメント

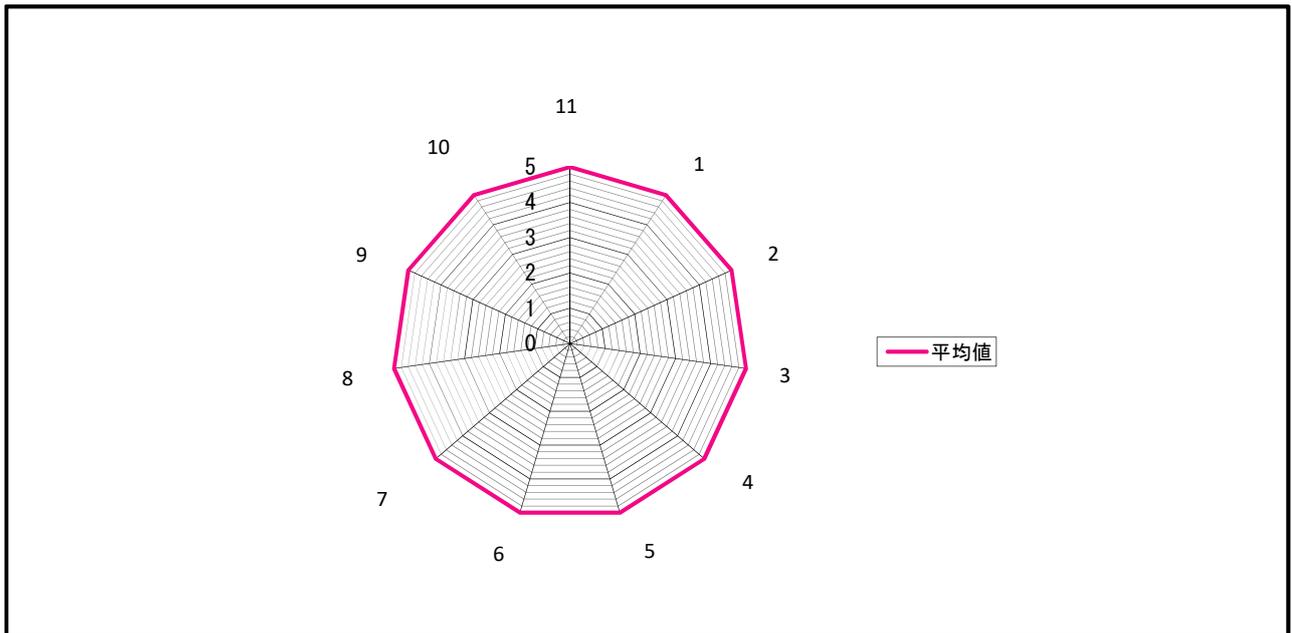
「衣生活学演習」は、当該年度に履修する学生の専門的知識に関する理解度や要望に応じて授業内容を変えている。今年度は、アンケート調査の基本的な分析方法について、エクセルを活用しながら授業を進めた。修士論文をまとめる際にアンケート調査を用いた分析が必要となる場合が多い。統計処理ソフトでは、実際の分析内容がブラックボックス化しており、データ入力を行ってから段階を追った計算方法が全く見えない。エクセルを活用することにより、データの平均値や分散を算出して、分析結果を導くことが可能である。時間はかかるが、繰り返し練習することでアンケート調査の分析法について理解させた。

大学院生の授業評価結果をみると、すべての項目について高い評価が得られ、学生にとって満足いく授業内容であったと思われる。少人数の授業であったため、丁寧な個別対応も可能であり、授業内容に関する理解も深まったようだ。来年度以降も、学生の適性を見極めながら授業内容を考えていきたい。

結果報告書

授業科目名 家庭科教育学演習
 評価実施日 平成30年2月14日
 担当教員名 速水 多佳子 回答者数 1 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1					5.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブラーニングが、実施されていた。	1					5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1					5.0
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	1					5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	1					5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	1					5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1					5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1					5.0



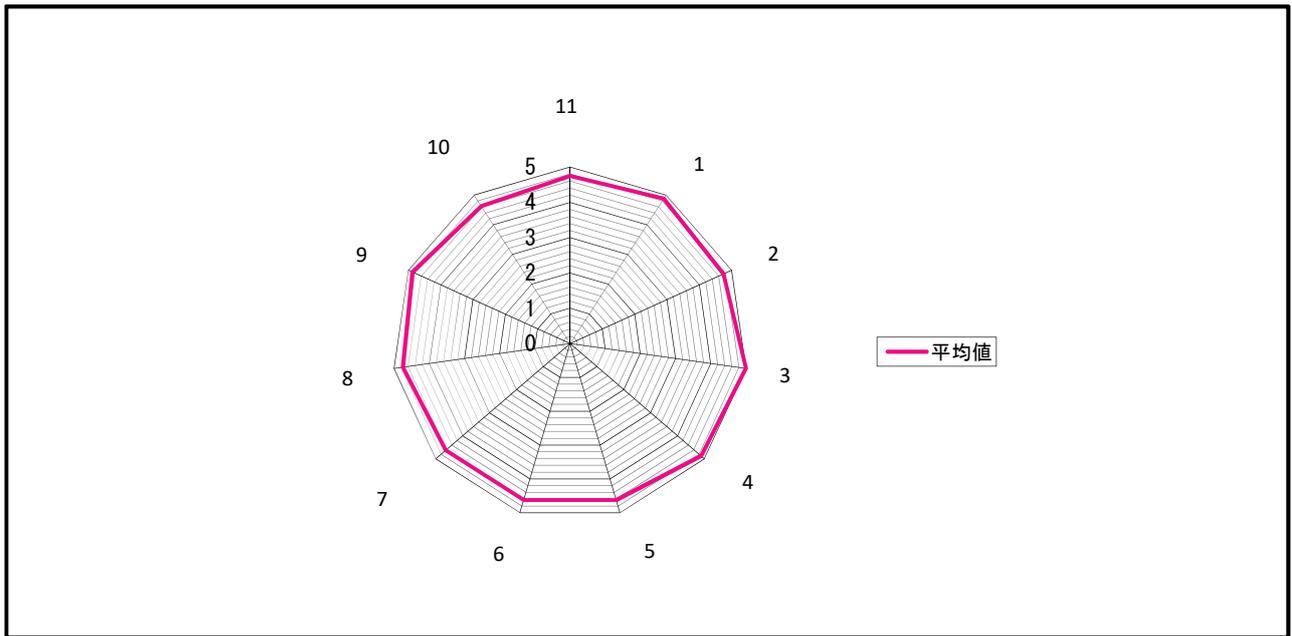
教員のコメント

本年度の受講者は、家庭コースのストレート院生1名だけであった。大学院修了後は中学校教員となることを目指している学生であり、学校現場で生かせるよう、本人の希望も取り入れて実践的な授業内容にした。前半の授業は、現在の家庭科教育の課題について取り上げ、後半は学校で活用できる教材を用いて、実践的・体験的に学ぶようにした。受講者は積極的に参加して意欲的に取り組むことができていた。
 授業に対する評価はすべて5.0であり、ニーズに合った授業展開ができたと思われる。しかし、受講者が少なかつたため、学生同士のディスカッションの場を作ることができなかったのが残念である。

結果報告書

授業科目名 国際理解教育特論Ⅱ
 評価実施日 平成30年2月23日
 担当教員名 小澤 大成,近森 憲助 回答者数 8 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7	1				4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7		1			4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8					5.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブラーニングが、実施されていた。	7	1				4.9
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6	1	1			4.6
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	6	1	1			4.6
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	5	3				4.6
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	6	2				4.8
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	7	1				4.9
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	1	1			4.6
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6	2				4.8



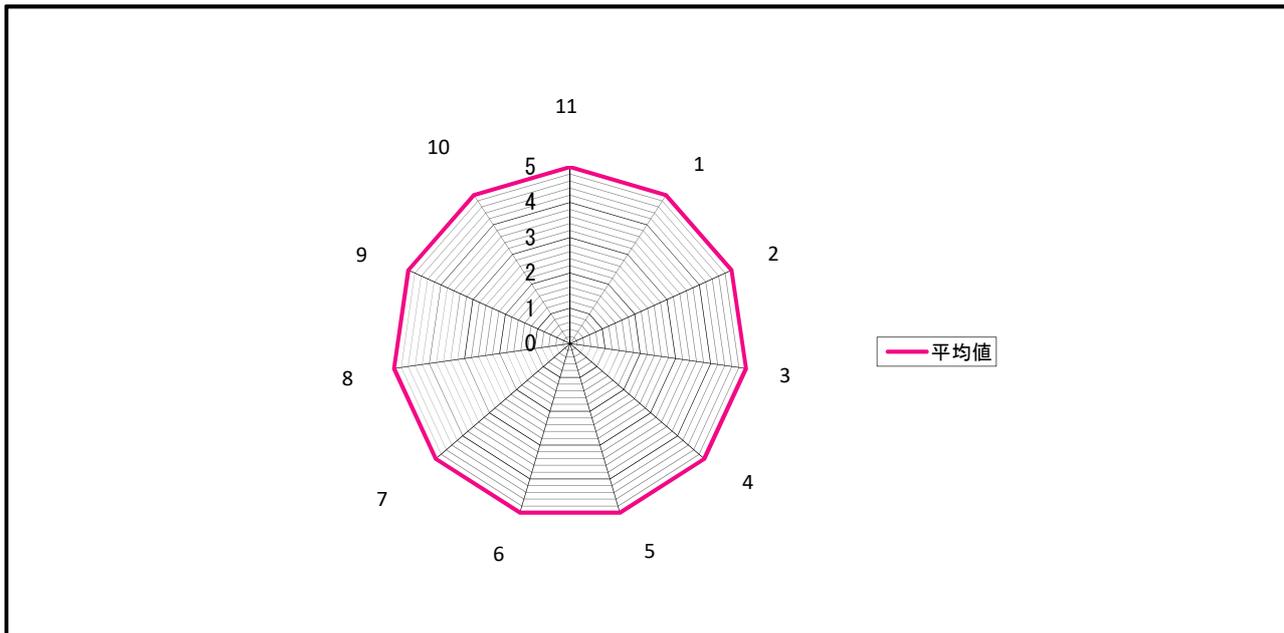
教員のコメント

授業研究を開発途上国の文脈に即して体験的に学ぶことを通じて、途上国での授業改善にとって必要な手法を理解することが目的の講義である。評価参加者8人の総合評価は4.8であり授業にますます満足していることがわかる。「他の国の授業を観察し議論することができた」「途上国の教授法や教科内容について課題とともに強みを見出した」「授業研究は教員の職能形成に有効である」と好意的に捉えている。ただし「他の国の授業で言葉が分かりにくい点があった」「(教員の出張のため)授業間隔が空いたことがあった」との指摘があった。指摘をふまえて改善し授業を展開していきたい。

結果報告書

授業科目名 国際理解教育特論Ⅱ
 評価実施日 平成30年2月23日
 担当教員名 小澤 大成,近森 憲助 回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6					5.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	6					5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6					5.0
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	6					5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	6					5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	6					5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6					5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6					5.0



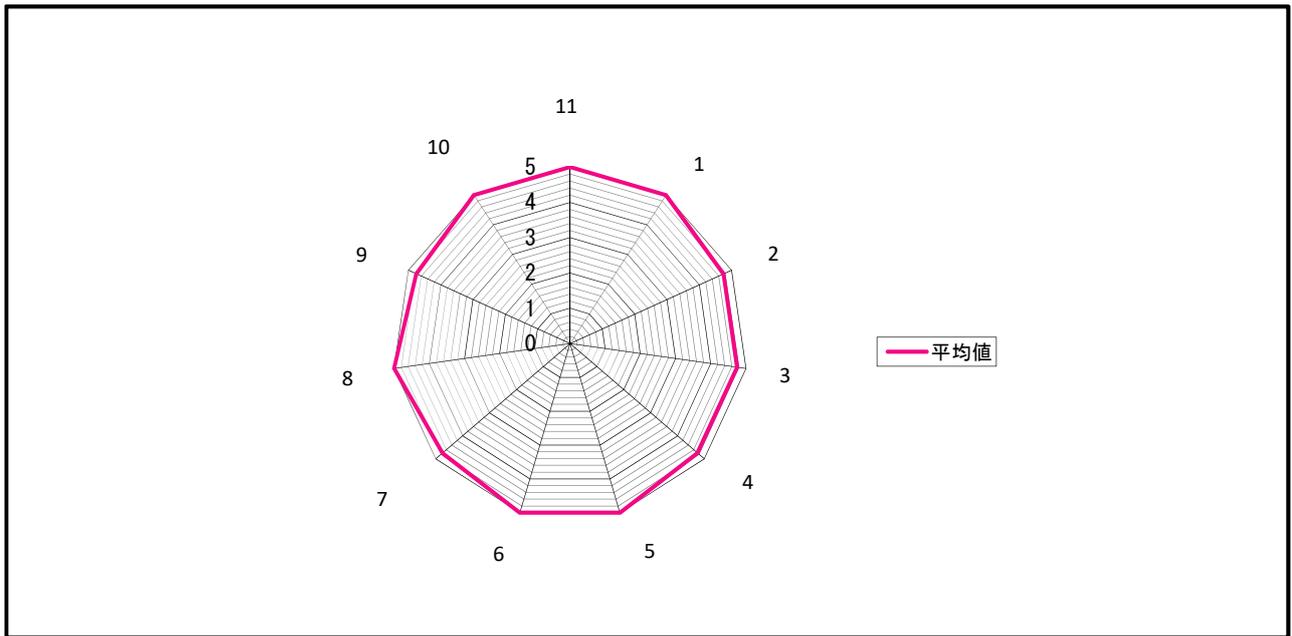
教員のコメント

総合評価5.0と高い評価であった。「色々な国の教育が勉強できた」「議論により意見の共有ができた」と好意的に捉えている。引き続き学生の意見を取り入れながら授業を進めていきたい。

結果報告書

授業科目名 国際理解教育演習
 評価実施日 平成30年2月14日
 担当教員名 小澤 大成,近森 憲助 回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	1				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	1				4.8
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	3	1				4.8
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4					5.0
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	4					5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	3	1				4.8
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	4					5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4					5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4					5.0



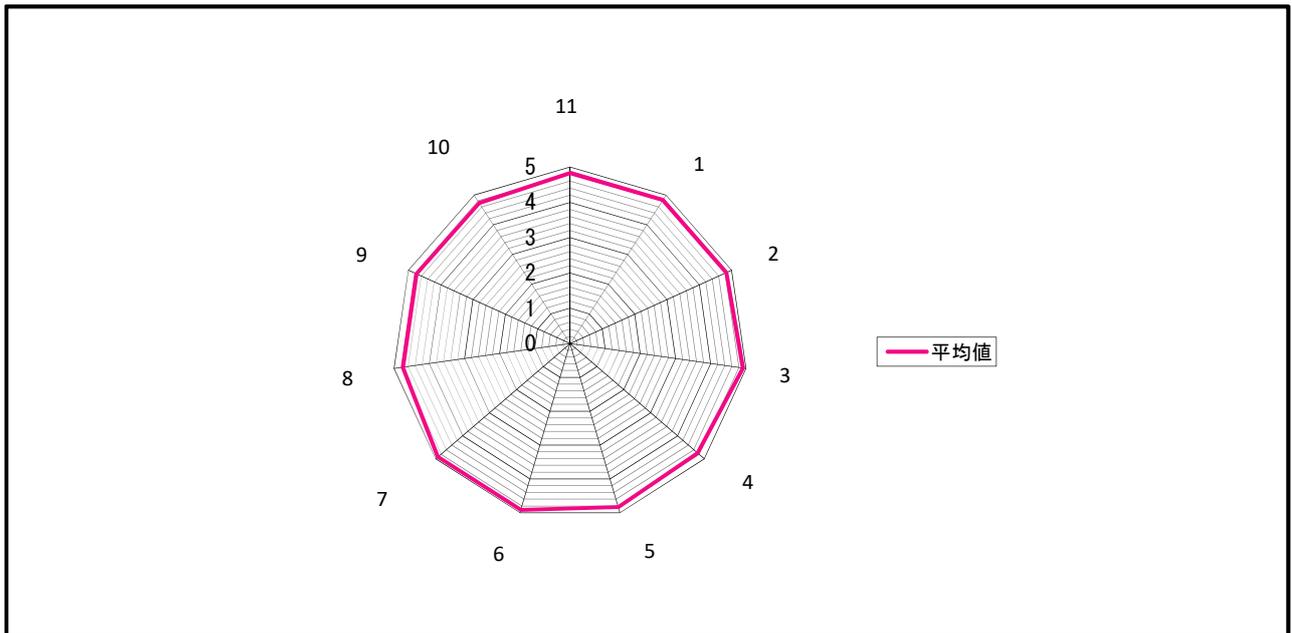
教員のコメント

この授業は演習形式であり、良かった点として「学生自身が授業対象者・内容・授業方法等を決めることができ、自律性を養うことができた」「グループで話し合うことができた」というコメントがあった。総合評価も5.0と高く、本年度も参加型の形式で進行しようと考えている。

結果報告書

授業科目名 国際教育総合セミナーⅡ
 評価実施日 平成30年2月20日
 担当教員名 石村 雅雄,小澤 大成,石坂 広樹,近森 憲助 回答者数 12 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	10	2				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	11		1			4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	11	1				4.9
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	10	1	1			4.8
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	11		1			4.8
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	11	1				4.9
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	11	1				4.9
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	10	1	1			4.8
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	10	1	1			4.8
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	1	1			4.7
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	10	2				4.8



教員のコメント